

令和7年度 香川県学習状況調査
報 告 書

令和8年2月

香川県教育センター

目 次

はじめに	1
調査の結果から見られる特徴	2
授業改善のポイント	4
特集「子どもが実感する『個別最適な学び』へ」	6
授業や取組の改善に役立つリンク集	10
I 調査結果（概論）	11
調査の概要	12
経年変化でたどる重点質問項目【児童生徒質問紙】	14
全体的な状況	15
正答数・正答率の分布【小学校】	16
正答数・正答率の分布【中学校】	17
無解答率	18
結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問紙】	19
教科に関する調査結果と児童生徒質問紙調査結果のクロス集計	20
結果に特徴の見られる質問【学校質問紙】	23
Question 1「学習意欲」	24
Question 2「言語活動」	25
Question 3「学習習慣」	26
Question 4「自己有用感・規範意識等」	27
Question 5「学校生活」	28
Question 6「メディアの利用」	29
香川県学習状況調査報告書を振り返って①	30
II 教科に関する調査結果及び分析	31
小学校国語	32
小学校社会	34
小学校算数	36
小学校理科	38
中学校国語	40
中学校社会	42
中学校数学	44
中学校理科	46
中学校英語	48
香川県学習状況調査報告書を振り返って②	51
あのときの5年生は今？	52
III 質問紙調査結果（児童生徒質問紙・学校質問紙）	53
児童生徒質問紙調査結果一覧	54
児童生徒質問紙調査結果経年比較	62
学校改善に向けた調査結果の活用	71
学校質問紙調査結果一覧	72
学校質問紙調査結果経年比較	80
香川県学習状況調査報告書を振り返って③	88

はじめに

本報告書は、学校における教育及び教育委員会における教育施策の成果と課題を検証し、指導方法の工夫や改善に向けた情報を提供するため、以下の点を工夫して作成しました。

- 「特集」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実装に向け、「子どもが実感する『個別最適な学び』へ」と題し、県教育委員会が提案している授業改善の4つの視点について、質問紙調査結果等から分かる現在の取組み状況を分析し、さらなる充実のための方向性を、「学力向上モデル校」事業の実践も紹介しながら提案しています。
- 「香川県学習状況調査報告書を振り返って」と題して、当センターが報告書作成を担当した平成24年度以降の調査結果から見える気づきを取り上げています。
- 「あのときの5年生は今？」と題して、令和4年時に小学校5年生だった児童が中学校2年生となった現在の変容を、同じ質問に対する回答結果から分析しています。

また、県教育委員会では、令和8年度の学習状況調査については、授業改善の起点を全国学力・学習状況調査に絞り、県の調査は教科に関する調査をやめ、生活や学習の状況についての調査のみを、対象学年を拡大して行う方向で検討しています。これまで本県では、幅広く学習状況を把握・分析するため、小・中学校の複数学年を対象に調査を実施してきたところですが、調査の対象学年における取組にとどまり、学校全体での効果的な取組に十分つながっていないという課題が見られたことから、今後は全国調査から見える課題と改善の具体策をより明確化し、それを基に全ての教科、学年で授業改善に取り組み、1年後の全国調査でその成果を問うというサイクルを確立することで、効果的かつ継続的に子どもたちの学力の向上を図っていきたいと考えています。

各市町（学校組合）教育委員会・各学校におかれましては、本報告書と全国学力・学習状況調査報告書を併せてご活用いただき、国や県の動向も注視しながら、市町（学校組合）や自校の現状把握、分析、改善に取り組んでいただきますようお願いいたします。当センターといたしましては、指導主事等が直接学校等に出向き、状況の分析や改善について一緒に考えるなど、一層の学校支援に努めてまいりますので、どうぞ、ご相談ください。

最後になりましたが、本報告書の作成に関し、ご指導・ご助言を賜りました香川大学教育学部の松島充先生、岡田涼先生、浅井哲司先生、経済学部の横山佳充先生に深く感謝の意を表します。

令和8年2月

香川県教育センター
所長 福田 宏志

調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

習得した知識・技能を、提示された資料や文脈に合わせて活用したり表現したりすることに課題が見られる。

- 小学校社会の問題において、地図から土地利用の様子、記号や位置関係を正しく読み取れるかをみる問題の正答率が48.2%であった。（p35）
- 英語の問題において、初歩的な英語を用いて、対話の流れに沿った文を書くことができるかをみる問題の正答率が27.1%であった。（p49）

提示された条件や情報を整理・統合し、根拠として問題を解決したり考えを形成したりすることに課題が見られる。

- 小学校算数の問題において、示された条件をもとに、直方体の構成要素である面を通る直線の長さの合計を求めることができるかをみる問題の正答率が17.4%であった。（p37）
- 中学校国語の問題において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っているかをみる問題の正答率が38.3%であった。（p41）

質問紙調査

- ◇は児童生徒質問紙調査を示す。
- ◆は学校質問紙調査を示す。
- 数/数は、（小学校の番号）/（中学校の番号）を示す。

「個別最適な学び」を児童生徒の実感につなぐことに課題がある。

- 「◇^{26/26} 授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校が 63.4%、中学校が 52.9%である。（p8）
- 「◆¹⁶ 児童生徒が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けている」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校で 96.3%、中学校で 91.6%である。（p8）

自己有用感等をもっている児童生徒が増えている。

- 「◇^{2/2} ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校が 94.5%、中学校が 95.8%である。（p27）
- 「◇^{4/4} 自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校が 72.7%、中学校が 73.9%で、R4 年度以降増加を続けている。（p27）

授業での、1 人 1 台端末の使用頻度が増加している。

- 「◇^{34/34} 授業で、ICT 機器を週 3 回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R 6 年度より小学校が 3.7pt、中学校が 8.0pt 増加している。（p6）

主体的・対話的で深い学びの実装

1 学習指導要領改訂の方向性

令和6年12月25日、学習指導要領改訂に向けた議論の「キックオフ」とされる文部科学大臣による中央教育審議会（中教審）への「諮問」がありました。これを受け、中教審の「教育課程企画特別部会」における議論が始まり、令和7年9月25日には、「論点整理」が提示されました。今後予定されている「答申」に向けて、現在も中教審においては、議論が続いているところです。

「論点整理」の中で、次期学習指導要領に向けた第一の方向性として示されているのが、「主体的・対話的で深い学びの実装」です。これは、現行学習指導要領改訂の考え方の一つである「どのように学ぶか」に当たる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の一層の具現化・進化により、誰一人取り残すことなく資質・能力の育成を図ろうとするものです。

また、中教審の各種ワーキンググループにおける議論の中では、「何ができるようになるか」に当たる育成すべき資質・能力をより一層明らかにすること、誰一人取り残すことなく、「すべての子供」に資質・能力の育成を図るための方策などについて検討も進められています。

このような学習指導要領改訂の方向性を見据え、県教育委員会においては、「主体的・対話的で深い学びの実装」に向けて、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」の二つの視点から、次の2つを重点に授業改善を進めていきます。

重点1：教科に関する調査の課題に対する授業改善

令和7年度全国学力・学習状況調査の教科に関する調査では、特に「資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現すること」や「知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得すること」の2つに課題があることが明らかとなっており、これらの課題を解決するために各教科等における「授業すべきこと」を提示するものです。

重点2：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善

「すべての子供」にこれからの社会を生きる資質・能力を育むためには、多様な子供を誰一人取り残すことのないよう、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが重要です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための4つの視点を引き続き提示するものです。

2 主体的・対話的で深い学びの実装に向けた授業改善の重点

(1) 重点1：教科に関する調査の課題に対する授業改善

課題1 資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現する

授業すべきこと！

資料や友達の発言の意図などについて、自分の言葉で説明する時間をとる

例えば、図や表、資料などを示したときに、それが何を表そうとしているのか、また、何を問おうとしているのか、児童生徒がその意図を説明する活動を仕組むことが大切です。

その他にも、国語では、具体的なインタビュー場面や資料等を見ながら、発言者がなぜそのように発言したのかをグループなどで説明し合う活動を取り入れたり、理科では、実験の際に、なぜその実験方法がよいのか、なぜその条件で実験するのかといったことを児童生徒が説明する時間を設定したりすることが効果的です。

課題2 知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得する

授業すべきこと！

知識・技能を活用する場면을授業や生活場面に意図的に位置付ける

例えば、国語では、漢字を生活場面の中で使用したり、自分の書いた文章についてポイントを絞って推敲したりする機会を増やすことや、数学では、ある事柄が常に成り立つとは限らないことを具体的な反例をあげて説明する活動を位置付けるなど、知識・技能を生きて働くものにしていくことが大切です。

(2) 重点２：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善

◆ 学びがいのある課題設定

教師が考えさせたい課題を一方的に提示するのではなく、子どもの知的好奇心を喚起するような課題を子どもたちと一緒に生み出すなど、子どもの「解決したい」という思いや願いを引き出したり、単元や授業の学びを通して、「こんな姿になりたい」というゴールイメージをもたせたりするなど、子どもにとって学びがいのある課題を設定することが重要となります。



【学びがいのある課題設定の例】

- 実社会や実生活における子どもの疑問から課題を設定する
- 前時の振り返り等で表出された子どものつぶやきから課題を設定する
- 少し困難だが「学んだことを活用すればできそう！」と感ずることができるような課題を設定する
- 子どもの「当たり前」を揺さぶり、問いを引き出すことで課題を設定する
- 単元や授業のゴールイメージを学級で共有しながら課題を設定する など

◆ 自己選択・自己決定

全員が同じ道筋で学習するのではなく、子ども自らが課題を決める、課題解決に向けて学習の順序を考える、学習の方法を自分で選ぶなど、学習教材や問題、解決方法、学習形態など多様な自己選択・自己決定の場面を保障することが重要となります。その際には、自己選択・自己決定の場面が、各教科等で育むべき資質・能力につながるよう「しかける」ことが大切です。

【学習の中で子どもが選択できる場面の例】

- | | |
|--|-------------------------------|
| ○学習教材や問題の選択
例) 解きたい練習問題を選ぶ | ○解決方法の選択
例) 実験方法を構想し、行う |
| ○学習形態の選択
例) 個で、ペアで、集団で考える | ○時間設定の選択
例) どこに時間をかけるか調整する |
| ○個の適性に沿った学び方の選択
例) 認知スタイルに沿ったワークシート等を選択する | など |



◆ 学びの過程の振り返り

子どもが見通しをもって課題解決に取り組もうとするなど、次の学びへの意欲を高めるためには、教師の見取りだけではなく、子ども自身が、自分の学びを振り返り把握すること（メタ認知）が重要となります。また、伸び（成長）の実感を促すためにも、振り返りの目的を確認したり、振り返りの内容やタイミングを工夫したりするなど、充実した振り返りができるように働きかけることが大切です。

【振り返りの視点の例】

- 学習内容・・・・・・・・・・何が分かった（分からない）のか
何ができるようになった（できない）のか
- 学習過程（学び方）・・・・・・何に注目し、どのように考えたのか
誰と交流し、どのような視点で解決方法を得たのか
- 自己の変容・課題の発見・・・・・・自己の成長に何が必要なのか
次にどのような学びに挑戦したいのか など



◆ 学習環境

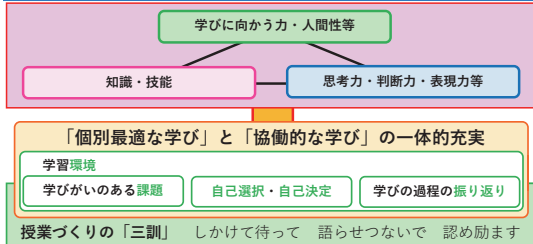
子どもたちが自分の意志で学びたい課題や学ぶ方法等を選択・決定したり、学びを振り返って次の見通しを立てたりするなど、自らの学びを調整しながら学ぶことができるようにするためには、次のような学習環境を必要に応じて整備していくことが重要となります。

【学習環境の例】

- 児童生徒が違いを認めて協力し合える学級づくり
- 自ら学び直し（学習の調整）や、発展的な学習に取り組めるような時間の確保
- 児童生徒が日常的にICTを活用することができる環境
- 本時の学習と日常生活を関連付けられるような掲示や教具の教室設置
- 異学年間の学びや他の学校の児童生徒との学び合い、地域の方々や多様な専門家と協働的に学ぶことができる機会の確保 など



一人一人の子どもに確かな学力を ～全教職員で～



※香川県教育委員会 義務教育課 学力向上モデル校事業資料より引用

香川県教育委員会では、「主体的・対話的で深い学びの実装」に向けて、2つの重点を置いて授業改善を推進しています。

ここでは、重点2：『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けた授業改善のための4つの視点について、質問紙調査結果をもとに県の取組状況を分析します。

【授業改善の視点】

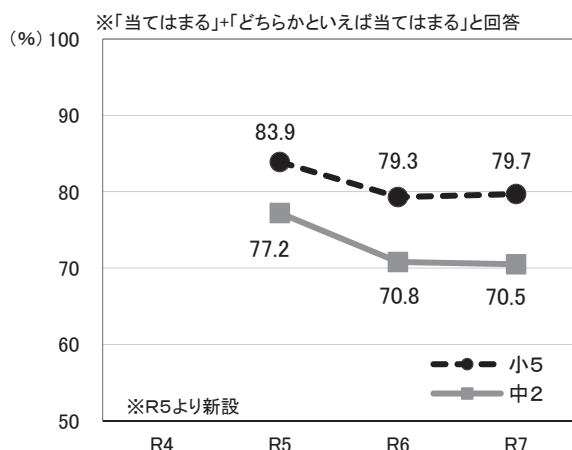
- 学習環境
- 学びがいのある課題設定
- 自己選択・自己決定
- 学びの過程の振り返り

この授業改善の視点について、学校質問紙の結果から、多くの学校で充実した取組が行われていることが分かりました。しかし、児童生徒の実感につながくことには課題が見られました。

■ 学習環境

自分で学習を調整することができる学習環境

◇20/20 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。 【児童生徒質問紙】



「◇20/20 自分にあった教え方、教材、学習時間になっている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 79.7%、中学校で 70.5%であり、昨年度から横ばいです。

「個別最適な学び」は、教師が個別の指導を提供するだけでなく、児童生徒が主体的に学習を調整できる状況を教師が整え、児童生徒自身がその実現を図っていくという視点も重要です。

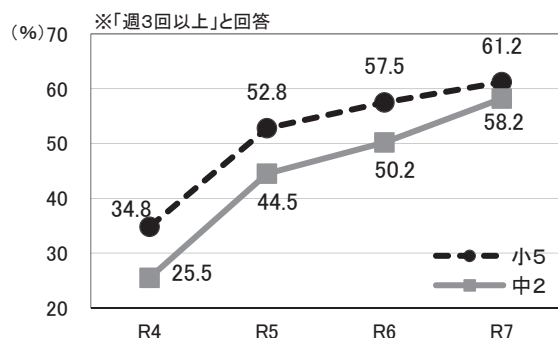
その中でも1人1台端末をはじめとするICT機器の活用は、個々の特性に応じた柔軟な学習環境を支える基盤となります。



例えば、文部科学省のサポートマガジン「みるみる」※では、次のような活用法が紹介されています。

- ・関連するURLを共有し、必要なときに必要な情報へアクセスできる環境を整える。
- ・児童生徒が授業中に找けた情報や解決方法などを、即時に学級全体で共有する。
- ・個々の理解度や特性に応じ、音声の繰り返し再生や映像による視覚的補助に活用する。 など

◇34/34 普段の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。 【児童生徒質問紙】



「◇34/34 授業で、ICT機器を週3回以上使用している」と回答している児童生徒の割合は、R4年度以降増加を続けています。

教師には、学習環境を整えるとともに、児童生徒が主体的にICT機器を活用できるよう、その裁量を委ねる姿勢が求められます。

そのために、まずは児童生徒がICT機器の利便性を知りながら、目的や場面に応じて最適な機能を選んで活用している姿を積極的に価値付けていきましょう。

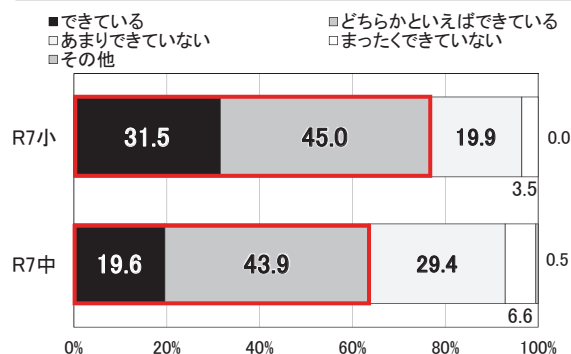
※p10

■ 学びがいのある課題設定

「知りたい！ やってみたい！」を引き出す課題設定

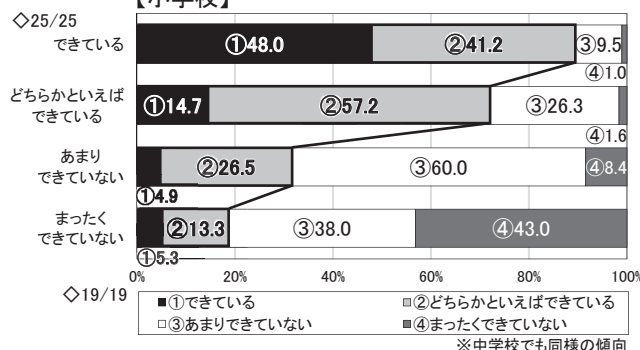
◇25/25 授業では、何ができたらいいのか、どうすれば解決できそうかという見通しをもって取り組むことができますか。

【児童生徒質問紙】



「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」
×
「◇19/19 課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」

【小学校】

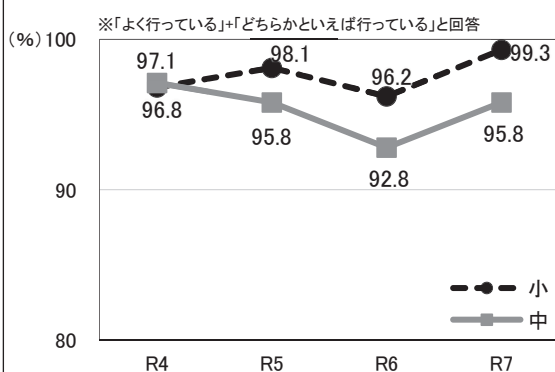


「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で76.5%、中学校で63.5%でした。また、「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童ほど、「◇19/19 課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答する傾向がありました。

児童生徒が自分で学習を進めていくためには、学習のゴールや解決への見通しをもつことができる教師の支援が大切です。例えば、児童生徒が既習事項と関連付けたり、解決の見通しを共有したりすることができる課題を設定することが考えられます。児童生徒と課題との出合わせ方を工夫することで「知りたい！ やってみたい！」という思いを引き出しましょう。

◆14 単元や授業で身に付けさせたい力を明らかにした上で、授業の計画を立てていますか。

【学校質問紙】



「◆14 単元や授業で身に付けさせたい力を明らかにした上で、授業計画を立てている」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校で99.3%、中学校で95.8%に達しています。昨年度から小・中学校ともに約3.0pt増加しており、ねらいを明確にした授業づくりを大切にされていることがうかがえます。

学びがいのある課題設定のためには、児童生徒の学び姿を具体的に想定した授業構想がこれまで以上に大切です。

その手立てとして、単元をベースとした授業デザインが不可欠だといえます。さらに、学習計画を児童生徒と共有したり作成したりすることで、児童生徒が見通しをもって主体的に学びを進めることにつながるでしょう。

※表記された数値は、端数処理のため0.1の誤差が生じることがあります。

「学力向上モデル校」事業の実践より

中学校1年国語科の実践です。新入生向けの「学校ガイドブック」作りという実生活と関連した言語活動を設定し、単元を通して学んだことを活用しながら課題解決に向かう学習のプロセスをデザインしました。

単元導入では、「学校のことを知らない新入生（小6）に学校生活に役立つ情報を伝える」という相手意識と目的意識を明確にし、単元を通して学習課題「新入生に思いを伝えるために大切なことは何か」を設定しました。そのうえで、様々なガイドブックの例からゴールイメージを生徒と共有し、学習課題を解決するための学習の進め方の見通しを話し合いました。

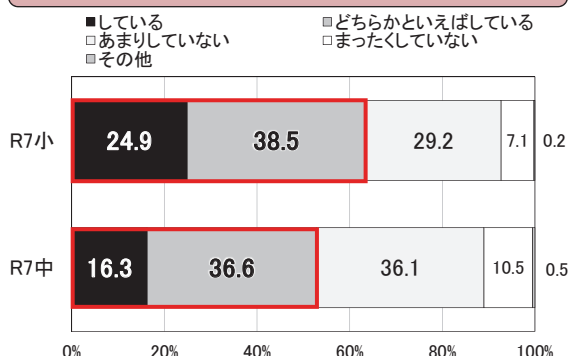
生徒自身の経験に基づいて「この中学校のよさをよりよく伝えたい」、「新入生にとって魅力的なガイドブックにしたい」という内発的な動機付けを引き出し、学習のゴールへの見通しを話し合ったことが学びがいのある学習課題につながった好事例です。



■ 自己選択・自己決定

児童生徒とともに作る自己選択・自己決定の場

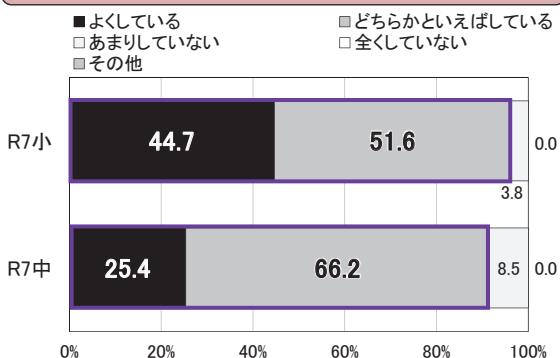
◇26/26 授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。
【児童生徒質問紙】



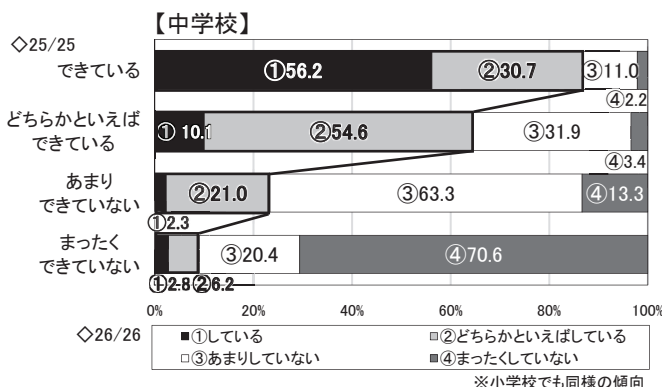
「◇26/26 解決方法や解決時間などを、自分で選んだり決めたりしている」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校で 63.4%、中学校で 52.9%でした。また、「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」と肯定的に回答している生徒ほど、「◇26/26 解決方法や解決時間などを、自分で選んだり決めたりしている」と回答する傾向がありました。

「学びがいのある課題設定」によって解決への見通しをもつことが、児童生徒が必要な学習材や表現方法などを、主体的に選ぶことにつながるということが示唆されます。

◆16 授業の中で、児童生徒が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けていますか。
【学校質問紙】



「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」
×
「◇26/26 解決方法や解決時間などを、自分で選んだり決めたりしている」



「◆16 児童生徒が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けている」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校で 96.3%、中学校で 91.6%であり、基盤は整っているといえます。

さらなる充実のためには、選択肢を教師が用意するだけではなく、児童生徒と対話しながら決めることも有効な方法です。「前に使ったこれが使えそう」、「課題を解決するために、この方法を試したい」といった児童生徒の思いを取り入れながら、ともに考えるプロセスを大切にします。そのうえで、実際に自己選択・自己決定して学ぶ姿を認め、励ますことで、児童生徒の学びを支えましょう。

※表記された数値は、端数処理のため 0.1 の誤差が生じることがあります。

「学力向上モデル校」事業の実践より

小学校5年生算数科の実践です。児童が自ら挑戦する問題や解決方法を自己選択・自己決定することができる学習環境をデザインしました。

授業導入で、本時で扱う2つの図形を確認した後、解決の見通しを話し合う場を設けました。「知っている図形にして考えたらいい」という児童の発言を広げ、既習の面積公式を活用すれば解決できることを確認したうえで、個々に自力解決を促しました。解決場面では、教師や友達と相談し考え方を確認する姿、自分の考えの妥当性を確かめ合う姿、集中して取り組む姿など、自分で選択して学ぶ姿が見られました。

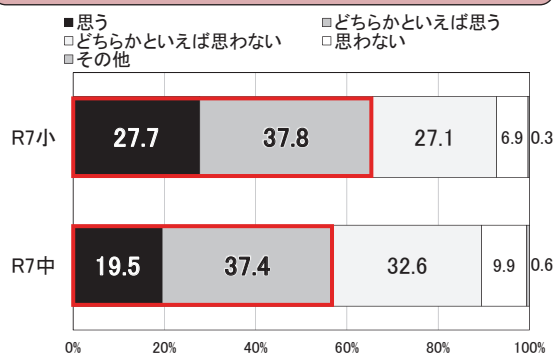
学習環境として、1人1台端末に納めた過去の授業の板書写真を、解決のヒントとして活用できるようにしました。また、一つの方法で解決できた児童が、別の方法も探究するために複数のワークシートを用意しました。この間、教師は、児童一人一人の考えを把握し、全員が自分の考えをもてるよう個別支援に努めました。

教師が自己選択・自己決定を促す学習環境を整えたことで、児童は単元を通して習得した学び方を活用し、主体的に課題解決に取り組むことができました。

■ 学 び の 過 程 の 振 り 返 り

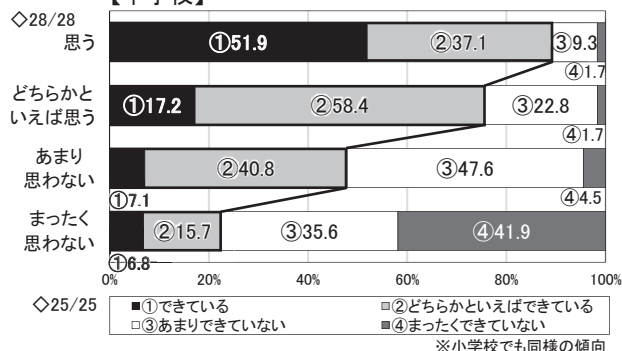
学習をつなぐための振り返り

◇28/28 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点などを見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。【児童生徒質問紙】



「◇28/28 次の学習につなげるための振り返る活動を行っている」
×
「◇25/25 授業では、見通しをもって取り組んでいる」

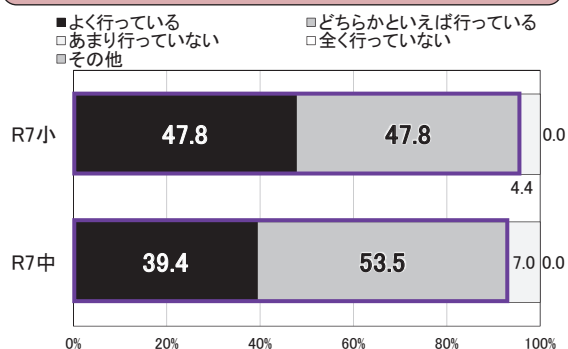
【中学校】



「◇28/28 次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校で 65.5%、中学校で 56.9%でした。また、「◇28/28 次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思う」と肯定的に回答している生徒ほど、「◇25/25 見通しをもって取り組んでいる」と回答している傾向がありました。

充実した振り返りが、次の学習への展望や新たな問いを生むことにつながるということがうかがえます。

◆17 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を計画的に取り入れていますか。【学校質問紙】



「◆17 次の学習につなげるための振り返る活動を計画的に取り入れている」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校で 95.6%、中学校で 92.9%でした。

さらなる充実のためには、振り返りの価値を児童生徒自身が自覚できる工夫が大切です。「振り返りが次の学習につながった」「自分で学習を進めることができた」という経験が振り返りの価値への気づきを深めます。

そのために、単元を通して学習をつなげる役割として振り返りを位置付けましょう。例えば、前時の振り返りを基に本時の学習課題を設定するなど、振り返りを活用して学習を進めていることを児童生徒が意識できるような取組が考えられます。

※表記された数値は、端数処理のため 0.1 の誤差が生じることがあります。

「学力向上モデル校」事業の実践より

小学校3年生国語科の実践です。「興味をもったことを要約して紹介する」という言語活動を設定し、目的に合わせて要約する力を身に付けることを目指す単元の学びをデザインしました。

授業の導入場面では、前時の学習内容と、本時で何を学習したいと考えていたかを話し合う時間を設けており、自分の振り返りや単元の学びを視覚化した「学びの地図」を参照しながら本時の学習課題を考える児童の姿が多く見られました。

授業のまとめの場面では、本時の学習課題に立ち返って進捗状況を挙手させ、児童に学習成果を実感させました。そのうえで、本時はどの「要約のコツ」を使ったのかを話し合う場を設けました。その後、個別に振り返りを行う時間を設けました。児童は、要約のよさやこれから使いたい「要約のコツ」、友達と話し合って完成に近づいた喜びなどを記述し、自分の取組を振り返ることができました。

このように充実した振り返りが、単元全体の学習をつなぐ役割を果たしました。

授業や取組の改善に役立つリンク集

授業や取組の改善に役立つリンク集を紹介するので、ご活用ください。

◆国立教育政策研究所 HP

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



TOP > 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

国立教育政策研究所のウェブサイト。全国学力・学習状況調査について、その結果や報告書、調査問題などを公開。教育施策の改善や学校での指導に役立つ情報を提供しています。



◆「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_00001.html



文部科学省が送る、授業づくりのための公式サポートマガジン。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、基本の考え方や実践事例を分かりやすく解説しています。



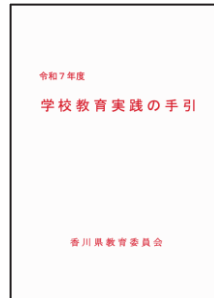
◆香川県教育委員会 HP

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gakko/index.html>



確かな学力の育成

生徒指導の充実



香川県教育委員会のウェブサイト。確かな学力の育成や生徒指導の充実に向けて大切にしたい取組や、「学力向上モデル校」事業等事業ごとの公開授業の案内、指導案等について紹介しています。

◆香川県教育センターHP

<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/>



香川県教育センターのウェブサイト。

教職員研修ページでは、基本・専門研修、公開講演の案内や申込方法、オンライン研修の情報を掲載。教員の資質向上を支援します。



教育研究課のページでは、調査研究や研究発表会での資料を公開。また、研修サポート、教育相談、教育ライブラリーの運営など、教職員や学校を支援する事業を紹介しています。

I 調查結果(概論)

調査の概要

- (1) 調査の目的 児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づく個に応じた指導などを実施する契機とする。

- (2) 調査の時期 小学校 第5学年 : 令和7年10月28日(火)～11月7日(金)
中学校 第2学年 : 令和7年11月4日(火)～11月13日(木)

- (3) 調査の対象 県内公立学校の小学校第5学年及び中学校第2学年の全ての児童生徒
・学 校 数 小学校 153校、中学校 68校
(附属学校及び県立学校を含む)

・児童生徒数 [単位:人]

校種・学年 教科	小学校 第5学年	中学校 第2学年
国語	7,433	7,065
社会	7,430	7,076
算数・数学	7,427	7,070
理科	7,425	7,086
英語		7,083
児童生徒質問紙	7,508	7,097

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ・実施教科 小学校 第5学年 : 国語、社会、算数、理科 (4教科)
中学校 第2学年 : 国語、社会、数学、理科、英語 (5教科)
- ・出題範囲 前学年までに学習した内容及び当該年度前期(4月～9月末)に学習した内容
- ・問題の質と量
 - ア 学習指導要領に則して、基礎的・基本的な「知識及び技能」や、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」に関する問題
 - イ 1教科あたり小学校については40分、中学校については45分で解答できる量

② 児童生徒質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習や生活の諸側面等に関する調査を質問紙の形式で実施する。

③ 学校質問紙調査

学校における各種の取組や児童生徒の状況等に関する調査を質問紙の形式で実施する。

(5) 調査結果の活用

香川県教育委員会及び各市町（学校組合）教育委員会や学校は、本調査の目的を達成するため、次のような結果を活用した取組に努めることとする。

- 各学校は、自校で編成・実施している教育課程を評価する資料の一つとして調査結果を活用し、学習指導に係る検証改善サイクルを確立するように努める。
 - ・ 当該年度前期までの学習内容の定着状況を確認、教員が自身の指導を振り返り、指導方法の改善を図るとともに、児童生徒の理解の状況に応じて、発展的な学習や補充的な指導などを行う。
 - ・ 質問紙調査の結果から、児童生徒の状況に応じて「授業規律の確立」「学習意欲と学習に向かう態度の育成」「学習方法の指導」等の取組の推進を図るとともに、児童生徒や保護者に対して、よさやつまずきの状況を説明し、生活や学習の状況について、これまでを振り返り、これからの見通しをもつ機会を設ける。
 - ・ 分析・検証の際にまとめられた成果と課題に基づいて、本年度の年間指導計画や校内指導体制等を見直し、次年度計画を作成する。
- 香川県教育委員会及び各市町（学校組合）教育委員会は、教育施策の成果と課題を把握・検証し、教育施策の改善に努めるとともに、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援を行う。

【調査結果の数値について】

表記された数値は、端数処理のため0.1の誤差が生じることがある。

令和7年度香川県学習状況調査

経年変化でたどる重点質問項目【児童生徒質問紙】

経年比較から見られる現状について、重点質問項目として6つのカテゴリー項目別にQ&Aにまとめました。

カテゴリー	Q&A	R7 児童生徒質問紙 質問項目			全国 関連	基本 計画 指標
		小	中			
学習意欲	Q1 (P24)	16	16	勉強は好きですか。	(45 53 61)	(◆)
		17	17	授業は楽しいと思いますか。	—	
		19	19	授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていますか。	32	
		21	21	分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	(57)	
		22	22	分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。	—	
言語活動	Q2 (P25)	24	24	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。	—	
		29	29	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	—	
		30	30	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	31	
		31	31	普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	—	
		32	32	普段の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。	—	
		33	33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。	(35)	
学習習慣	Q3 (P26)	36	37	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	—	
		38	39	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	17	
		39	40	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	19	
		43	44	読書は好きですか。	24	◆
		45	46	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍をふくみます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)	21	
自己有用感・規範意識等	Q4 (P27)	2	2	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	—	
		3	3	むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	—	
		4	4	自分には、よいところがあると思いますか。	5	◆
		5	5	将来の夢や目標をもっていますか。	7	(◆)
		6	6	人が困っているときは、進んで助けていますか。	8	
		7	7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	—	◆
		8	8	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	9	◆
		9	9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	11	
		11	11	今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。	—	◆
学校生活	Q5 (P28)	46	47	学校に行くのは楽しいと思いますか。	12	◆
		47	48	学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。	—	
メディアの利用	Q6 (P29)	12	12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームも含む)をしますか。	—	
		13	13	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間は除く)	—	
		14	14	携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか。	—	◆

※ 令和7年度全国学力・学習状況調査と同一の質問項目には、質問番号(全国報告書参照)を、類似の質問項目には質問番号に()を付けて、全国関連の欄に表記している。

※ 「基本計画指標」の欄には、香川県基本計画において数値目標として用いられている質問項目に◆を、類似の質問項目には(◆)を記載している。

全体的な状況

Point

1. 小学校は、4教科の平均正答率が68.1%で、国語と社会において「思考・判断・表現」の平均正答率が「知識・技能」の平均正答率を上回っている。
2. 中学校は、5教科の平均正答率が55.1%で、理科を除く4教科において「思考・判断・表現」の平均正答率が「知識・技能」の平均正答率を下回っている。

【教科に関する調査結果】

1 平均正答率

[単位：%]

	小学校 第5学年			中学校 第2学年		
	平均正答率	調査内容別平均正答率		平均正答率	調査内容別平均正答率	
		知識・技能	思考・判断・表現		知識・技能	思考・判断・表現
国語	66.5	65.8	66.7	58.8	62.7	55.0
社会	70.5	69.9	71.8	50.4	58.3	42.1
算数・数学	69.1	71.5	66.4	58.3	63.3	40.2
理科	66.3	69.5	64.4	55.6	53.1	58.4
英語				52.4	57.8	43.4
平均	68.1	69.2	67.3	55.1	59.0	47.8

2 平均正答率の推移

[単位：%]

小学校 第5学年	R 4	R 5	R 6	R 7
国語	56.5	55.0	57.9	66.5
社会	67.7	69.4	65.8	70.5
算数	77.7	58.5	64.8	69.1
理科	57.6	67.1	59.0	66.3

[単位：%]

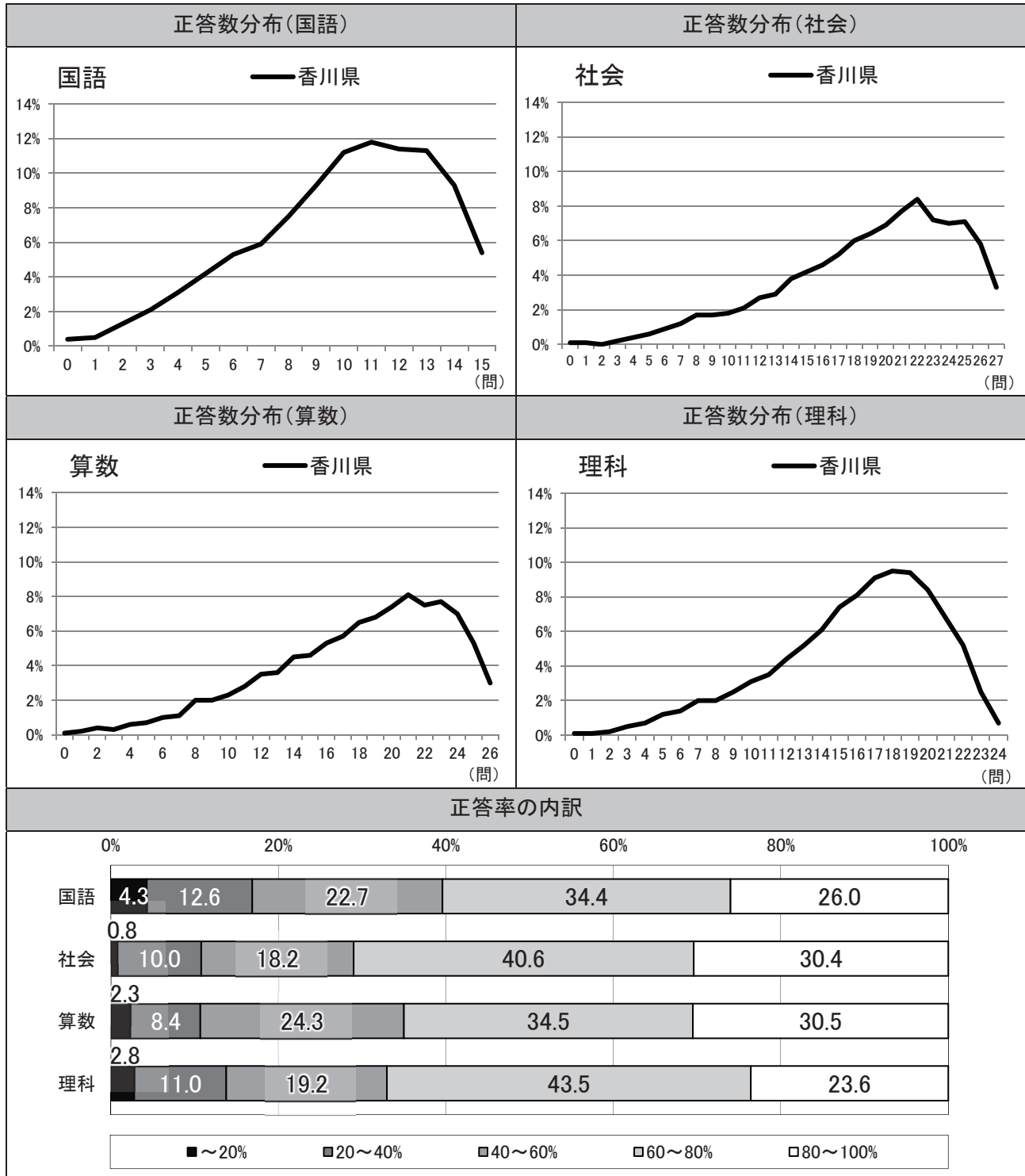
中学校 第2学年	R 4	R 5	R 6	R 7
国語	62.9	59.4	60.5	58.8
社会	63.3	53.8	50.2	50.4
数学	56.4	42.8	52.3	58.3
理科	55.9	46.0	52.6	55.6
英語	56.7	57.4	47.8	52.4

正答数・正答率の分布【小学校】

Point

- 1 社会・算数において、正答率80%以上の児童の割合が30%を上回っている。
- 2 全ての教科で、正答率40%未満の児童の割合が20%を下回っている。

【小学校 第5学年】



令和7年度香川県学習状況調査

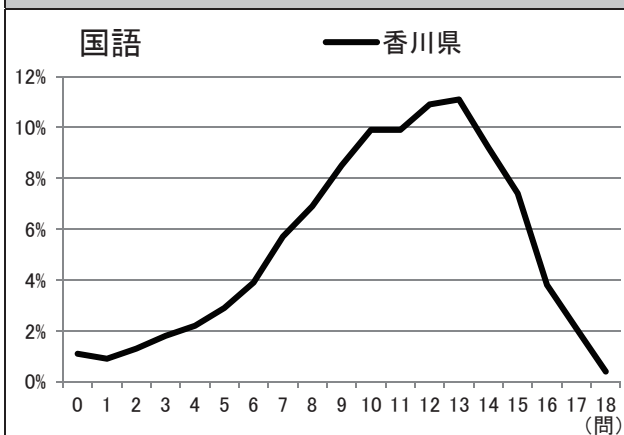
正答数・正答率の分布【中学校】

Point

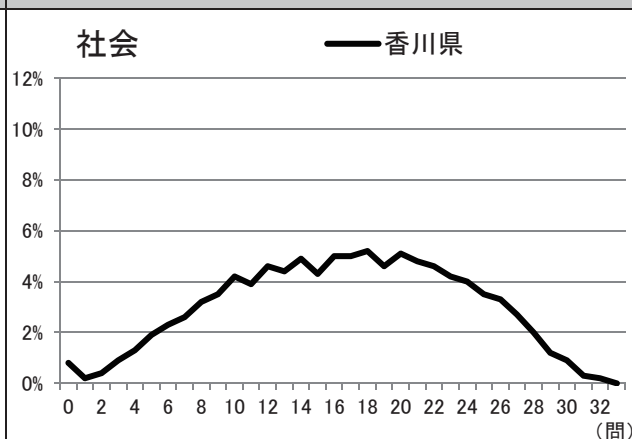
- 1 数学において、正答率80%以上の生徒の割合が20%を上回っている。
- 2 社会・英語において、正答率40%未満の生徒の割合が30%を上回っている。

【中学校 第2学年】

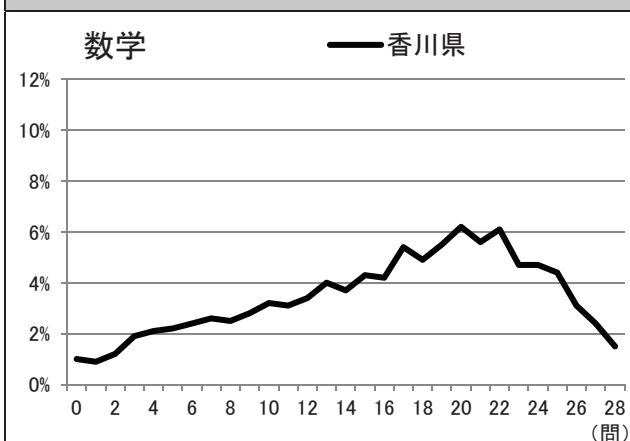
正答数分布(国語)



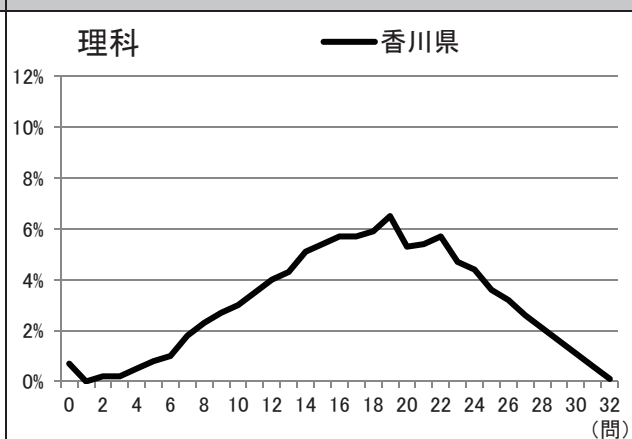
正答数分布(社会)



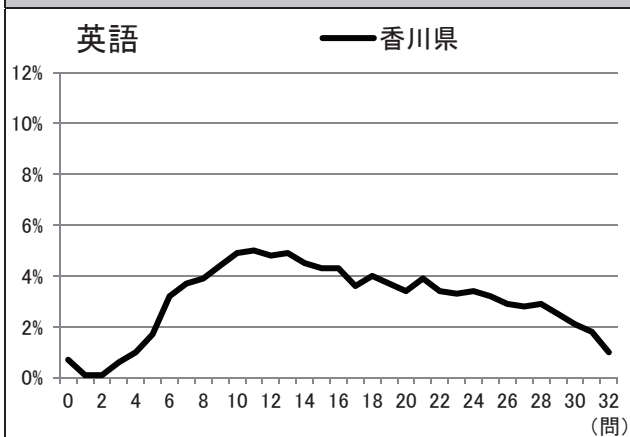
正答数分布(数学)



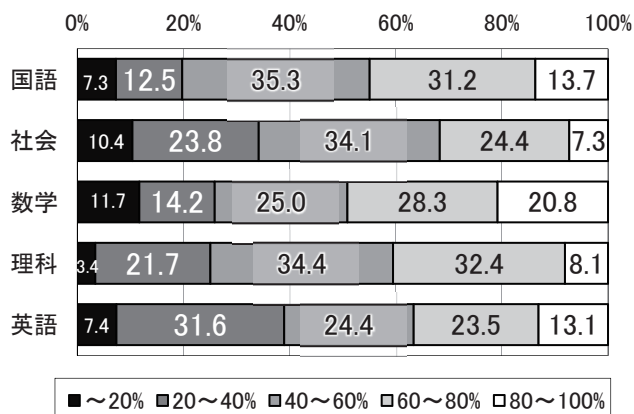
正答数分布(理科)



正答数分布(英語)



正答率の内訳



無解答率



Point

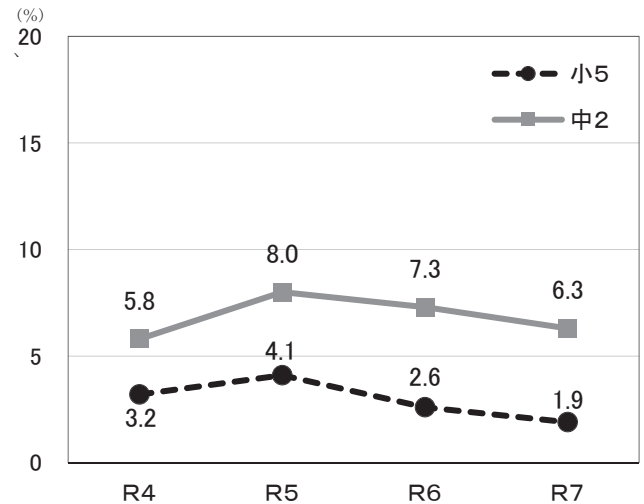
1. 無解答率は、小・中学校ともに、R5年度以降減少している。
2. 問題形式別では、多くの教科で記述式問題の無解答率が高い。

1 無解答率

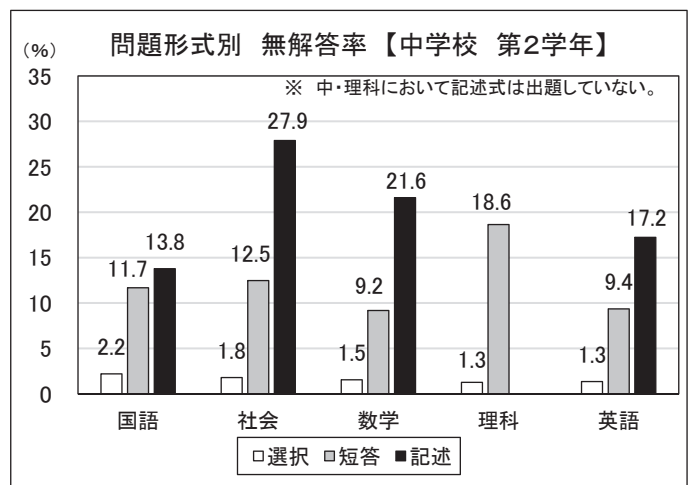
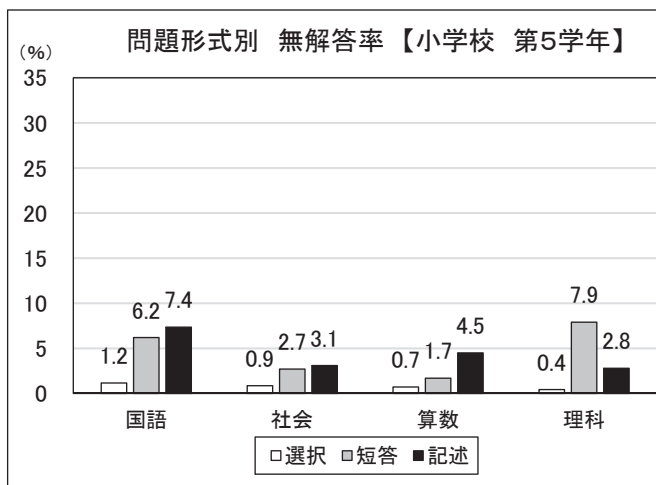
[単位：％（R6との差：pt）]

	小学校 第5学年	中学校 第2学年
国語	3.3 (-1.8)	8.8 (-0.1)
社会	1.1 (-0.9)	7.4 (+1.1)
算数・数学	1.5 (-0.9)	6.2 (-4.2)
理科	1.7 (+0.7)	4.0 (-0.3)
英語		5.3 (-1.3)
平均	1.9 (-0.7)	6.3 (-1.0)

2 無解答率の推移

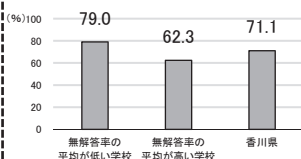


3 問題形式別無解答率の割合

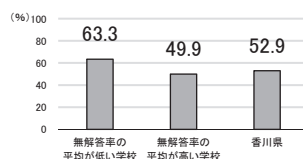


Column

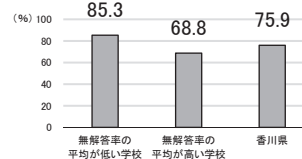
◇21/21 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。



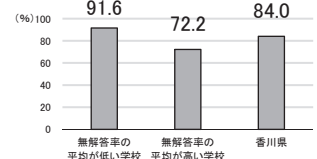
◇26/26 授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。



◇27/27 授業では、文章や資料等から分かることは何かを考えようとしていますか。



◇31/31 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



5教科の無解答率の平均が低い中学校5校を抽出し、どのような取組を大切にしているのかを児童生徒質問調査結果から分析しました。ここでは、全国学力・学習状況調査にはない質問項目のうち、授業に関する質問項目への肯定的回答の差が比較的大きかったものを取り上げました。自分自身で粘り強く取り組む機会とともに、友達との対話や協働を通して課題解決に取り組む活動が充実していることが推察されます。

令和7年度香川県学習状況調査

結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問紙】

※ 肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。

※ 時間や頻度を問う質問項目は除く。

小学校第5学年

○肯定的な回答の割合が上位5位の質問項目（同率を含む）

質問番号	質問項目	%
8	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.7
2	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	94.5
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	94.5
9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	94.1
1	朝食を毎日食べていますか。	92.1
35	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	92.1

○肯定的な回答の割合が下位5位の質問項目

質問番号	質問項目	%
37	テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか。	47.2
16	勉強は好きですか。	48.1
36	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	56.0
26	授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。	63.5
30	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	64.5

中学校第2学年

○肯定的な回答の割合が上位5位の質問項目

質問番号	質問項目	%
2	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	95.8
8	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	95.3
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	94.2
9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	93.9
1	朝食を毎日食べていますか。	89.1

○肯定的な回答の割合が下位5位の質問項目

質問番号	質問項目	%
16	勉強は好きですか。	27.1
11	今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか。	42.2
38	テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか。	44.1
37	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	48.0
23	授業に、自分の目標（めあて・ねらい）をもって取り組んでいますか。	49.7

令和 7 年度香川県学習状況調査

教科に関する調査結果と児童生徒質問紙調査結果のクロス集計

※ 「重点項目に関わる質問事項」において児童生徒質問紙調査結果の選択肢別平均正答率が、「回答 1 > 回答 2 > 回答 3 > 回答 4」の関係である調査結果を示す。ただし、質問項目 12 は「回答 1 < 回答 2 < 回答 3 < 回答 4 < 回答 5 < 回答 6」の関係。

1 【小学校】教科の平均正答率と関係が見られた児童質問紙調査結果

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率 (%)			
			国語	社会	算数	理科
2	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	① ある	68.7	72.5	71.2	68.3
		② どちらかといえばある	63.3	67.8	66.1	63.7
		③ どちらかといえない	55.7	59.4	58.6	55.9
		④ ない	49.3	53.5	52.5	50.3
		差①－④	19.4	19.0	18.7	18.0
4	自分には、よいところがあると思いますか。	① 思う	68.9	73.2	71.6	68.4
		② どちらかといえば思う	67.5	71.3	69.8	67.3
		③ あまり思わない	62.9	66.5	65.9	63.1
		④ まったく思わない	59.4	63.5	61.5	59.8
		差①－④	9.5	9.7	10.1	8.6
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	① 思う	68.0	71.5	70.1	67.3
		② どちらかといえば思う	63.3	68.8	67.7	64.7
		③ あまり思わない	57.7	63.4	61.5	59.0
		④ まったく思わない	51.8	56.0	56.3	53.7
		差①－④	16.2	15.5	13.8	13.6
9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	① 思う	68.1	72.0	70.7	67.7
		② どちらかといえば思う	63.9	68.2	66.7	64.1
		③ あまり思わない	56.8	61.5	60.0	57.9
		④ まったく思わない	51.3	55.6	51.4	51.4
		差①－④	16.8	16.4	19.3	16.3
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。	① 4時間以上	56.1	60.8	59.0	57.3
		② 3時間以上、4時間より少ない	63.9	68.3	66.7	64.3
		③ 2時間以上、3時間より少ない	65.4	69.8	68.1	65.7
		④ 1時間以上、2時間より少ない	71.2	74.8	73.7	70.5
		⑤ 1時間より少ない	73.3	76.3	75.6	71.5
		⑥ まったく利用していない	75.8	79.3	77.6	74.0
		差①－⑥	-19.7	-18.5	-18.6	-16.7
16	勉強は好きですか。	① 好き	74.6	78.8	77.5	72.8
		② どちらかといえば好き	69.2	73.4	71.8	68.7
		③ どちらかといえぱきらい	64.8	68.7	67.2	65.2
		④ きらい	59.2	62.6	61.9	59.8
		差①－④	15.4	16.2	15.6	13.0
17	授業は楽しいと思いますか。	① 思う	69.5	73.6	72.0	68.6
		② どちらかといえば思う	67.5	71.6	70.1	67.4
		③ あまり思わない	62.4	66.0	64.8	63.0
		④ まったく思わない	57.1	60.6	60.2	57.5
		差①－④	12.4	13.0	11.8	11.1
19	授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていますか。	① できている	72.4	76.1	75.1	71.4
		② どちらかといえぱできている	68.3	72.6	71.0	68.2
		③ あまりできていない	61.8	65.3	64.0	61.7
		④ まったくできていない	48.9	53.6	51.8	51.0
		差①－④	23.5	22.5	23.3	20.4
21	分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	71.1	75.1	74.4	70.4
		② どちらかといえぱ取り組んでいる	67.0	70.6	69.2	66.5
		③ あまり取り組んでいない	59.0	63.4	61.2	60.0
		④ まったく取り組んでいない	48.6	54.3	51.1	51.0
		差①－④	22.5	20.8	23.3	19.4
22	分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。	① している	68.8	72.3	71.1	68.0
		② どちらかといえぱしている	66.0	70.4	68.9	66.3
		③ あまりしていない	63.3	67.5	66.1	63.7
		④ まったくしていない	56.2	61.0	59.5	57.2
		差①－④	12.6	11.3	11.6	10.8
24	授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	69.7	73.2	71.7	68.5
		② どちらかといえぱ取り組んでいる	67.2	71.2	69.7	67.1
		③ あまり取り組んでいない	61.4	66.0	64.9	62.4
		④ まったく取り組んでいない	52.4	57.7	57.0	55.0
		差①－④	17.3	15.5	14.7	13.5
29	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	① 思う	71.5	75.2	73.9	70.6
		② どちらかといえぱ思う	65.4	69.5	68.4	65.6
		③ あまり思わない	59.4	63.7	62.0	60.0
		④ まったく思わない	53.0	57.6	55.0	54.2
		差①－④	18.5	17.6	18.9	16.4

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)			
			国語	社会	算数	理科
30	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	① している	71.5	74.3	73.1	70.3
		② どちらかといえばしている	68.0	72.6	70.9	67.6
		③ あまりしていない	63.0	66.9	65.8	63.3
		④ まったくしていない	55.7	61.1	59.6	58.1
		差①-④	15.8	13.2	13.5	12.2
31	普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	① 思う	68.5	72.1	70.7	67.8
		② どちらかといえば思う	66.0	70.4	69.0	66.3
		③ あまり思わない	62.9	66.4	65.8	62.9
		④ まったく思わない	53.8	60.6	57.0	56.3
		差①-④	14.7	11.5	13.7	11.5
32	普通の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	68.4	72.1	70.6	67.6
		② どちらかといえば取り組んでいる	67.2	71.2	70.0	67.3
		③ あまり取り組んでいない	62.7	67.0	65.7	63.0
		④ 取り組んでいない	56.9	62.2	60.3	58.2
		差①-④	11.5	9.9	10.3	9.4
33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができますか。	① できている	70.4	73.9	72.4	69.3
		② どちらかといえばできている	66.9	71.0	69.8	66.8
		③ あまりできていない	61.3	65.4	64.2	62.0
		④ まったくできていない	55.5	61.7	59.0	57.8
		差①-④	14.9	12.2	13.4	11.5
36	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	① している	70.7	74.1	72.5	69.1
		② どちらかといえばしている	68.2	71.9	70.5	67.7
		③ あまりしていない	64.4	68.7	67.5	64.9
		④ まったくしていない	60.5	65.1	64.0	61.9
		差①-④	10.2	9.0	8.5	7.2
43	読書は好きですか。	① 好き	73.2	76.3	74.2	71.5
		② どちらかといえば好き	66.0	70.0	68.6	66.1
		③ どちらかといえばきらい	60.9	65.7	65.5	62.1
		④ きらい	56.3	61.6	61.0	58.2
		差①-④	16.9	14.7	13.2	13.3
46	学校に行くのは楽しいと思いますか。	① 思う	68.1	72.3	70.8	67.7
		② どちらかといえば思う	67.4	71.1	69.8	67.1
		③ あまり思わない	63.7	67.3	66.2	63.5
		④ まったく思わない	57.4	61.8	60.6	59.5
		差①-④	10.7	10.5	10.2	8.2
47	学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。	① できる	69.7	73.9	72.7	69.1
		② どちらかといえばできる	67.4	71.6	70.1	67.4
		③ どちらかといえばできない	63.7	67.1	65.6	63.0
		④ できない	57.2	60.5	59.3	58.7
		差①-④	12.5	13.4	13.4	10.4

2 【中学校】教科の平均正答率と関係が見られた生徒質問紙調査結果

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
4	自分には、よいところがあると思いますか。	① 思う	59.8	52.1	59.6	56.7	54.2
		② どちらかといえば思う	59.6	51.1	59.5	56.1	53.4
		③ あまり思わない	58.0	48.0	56.3	54.6	49.7
		④ まったく思わない	53.8	46.1	53.0	52.5	46.5
		差①-④	6.0	6.0	6.6	4.2	7.7
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	① 思う	60.2	51.2	59.7	56.5	53.5
		② どちらかといえば思う	56.3	49.2	55.5	54.4	50.0
		③ あまり思わない	55.5	48.2	54.4	52.6	49.6
		④ まったく思わない	43.4	42.9	45.2	47.8	42.8
		差①-④	16.8	8.3	14.5	8.7	10.7
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふむ)をしますか。	① 4時間以上	47.8	39.9	45.0	46.2	39.9
		② 3時間以上、4時間より少ない	54.9	46.0	52.7	51.5	46.6
		③ 2時間以上、3時間より少ない	58.5	50.1	58.4	55.4	51.0
		④ 1時間以上、2時間より少ない	62.2	55.6	64.0	59.8	57.6
		⑤ 1時間より少ない	67.6	57.4	68.0	63.0	62.5
		⑥ まったく利用していない	69.2	59.5	68.5	63.5	65.2
		差①-⑥	-21.4	-19.6	-23.5	-17.3	-25.3
16	勉強は好きですか。	① 好き	69.1	63.5	72.5	67.4	68.8
		② どちらかといえば好き	65.8	59.7	68.6	63.1	62.6
		③ どちらかといえばきらい	59.8	50.9	59.7	56.6	53.2
		④ きらい	53.2	43.4	49.9	49.3	44.1
		差①-④	15.9	20.1	22.6	18.1	24.7
17	授業は楽しいと思いますか。	① 思う	61.7	55.9	64.0	60.0	57.9
		② どちらかといえば思う	60.6	52.7	61.0	57.7	54.7
		③ あまり思わない	57.8	47.6	55.6	53.5	49.5
		④ まったく思わない	51.6	41.7	47.5	47.7	43.8
		差①-④	10.1	14.2	16.5	12.3	14.1
19	授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができますか。	① できている	66.4	60.6	69.7	64.6	63.9
		② どちらかといえばできている	62.2	53.6	62.8	58.6	55.6
		③ あまりできていない	53.5	44.0	50.3	49.9	45.3
		④ まったくできていない	42.9	34.4	37.4	41.4	35.6
		差①-④	23.5	26.2	32.3	23.2	28.3

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
21	分からない問題があるとき、見方や考え方を 変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	65.6	58.9	69.0	63.5	62.7
		② どちらかといえば取り組んでいる	60.6	51.5	60.1	56.6	53.5
		③ あまり取り組んでいない	52.2	42.8	48.1	48.7	43.1
		④ まったく取り組んでいない	42.2	35.8	37.7	41.8	36.5
		差①－④	23.4	23.1	31.3	21.7	26.2
24	授業では、学級やグループの中で、自分たち で課題を立て、その解決に向けて情報を集 め、話し合いながら整理して発表する学習活 動に取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	62.1	53.7	62.2	58.0	56.1
		② どちらかといえば取り組んでいる	59.5	50.9	58.9	56.1	52.9
		③ あまり取り組んでいない	55.9	47.3	54.8	53.7	48.7
		④ まったく取り組んでいない	45.3	39.4	43.5	45.1	40.6
		差①－④	16.8	14.3	18.7	12.9	15.5
29	普段の授業では、自分の考えを発表する機会 が与えられていると思いますか。	① 思う	61.8	54.4	62.8	59.1	56.2
		② どちらかといえば思う	60.0	50.9	59.3	56.0	52.9
		③ あまり思わない	53.6	44.0	50.9	50.4	46.5
		④ まったく思わない	42.1	35.3	37.6	42.5	36.9
		差①－④	19.7	19.1	25.2	16.6	19.3
30	授業で、自分の考えを発表する機会では、自 分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話 の組み立てなどを工夫して発表していますか。	① している	64.0	56.7	65.3	60.9	59.7
		② どちらかといえばしている	61.4	52.9	61.5	57.8	54.7
		③ あまりしていない	55.5	46.3	53.7	52.2	48.0
		④ まったくしていない	48.8	40.9	45.6	47.1	42.1
		差①－④	15.2	15.8	19.7	13.8	17.6
31	普段の授業では、学級の友達との間で話し合 う活動をよく行っていると思いますか。	① 思う	60.9	52.5	60.7	57.2	54.9
		② どちらかといえば思う	59.3	50.8	59.1	56.2	52.6
		③ あまり思わない	54.9	46.1	53.1	52.1	47.8
		④ まったく思わない	44.7	40.1	41.3	45.3	39.5
		差①－④	16.2	12.4	19.4	11.9	15.4
32	普段の授業では、友達と話し合うとき、目的を もって取り組んでいますか。	① 取り組んでいる	60.9	52.6	61.1	57.2	55.5
		② どちらかといえば取り組んでいる	60.1	51.4	59.7	56.7	53.1
		③ あまり取り組んでいない	56.0	47.2	54.7	53.4	49.2
		④ 取り組んでいない	49.9	43.9	46.3	48.6	43.4
		差①－④	11.0	8.7	14.8	8.6	12.1
33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、 自分の考えを広げたり、深めたりすることがで きていますか。	① できている	62.7	54.4	63.2	59.0	57.0
		② どちらかといえばできている	59.7	51.2	59.3	56.2	52.8
		③ あまりできていない	52.6	43.5	50.2	50.1	45.3
		④ まったくできていない	44.9	39.2	41.2	45.5	39.7
		差①－④	17.8	15.2	22.0	13.5	17.3
37	家で、自分で計画を立てて勉強をしています か。	① している	63.4	56.1	64.4	60.2	60.2
		② どちらかといえばしている	61.6	52.5	61.3	57.2	55.1
		③ あまりしていない	58.5	49.3	57.4	55.0	50.4
		④ まったくしていない	51.7	44.4	50.2	50.6	45.0
		差①－④	11.7	11.7	14.2	9.6	15.2
44	読書は好きですか。	① 好き	65.6	57.5	65.0	61.5	59.6
		② どちらかといえば好き	60.3	51.7	60.0	57.1	54.0
		③ どちらかといえばきらい	56.0	47.3	55.5	53.0	49.0
		④ きらい	51.0	42.4	49.9	48.5	44.1
		差①－④	14.6	15.1	15.1	13.0	15.5
47	学校に行くのは楽しいと思いますか。	① 思う	60.2	52.4	60.7	57.2	54.4
		② どちらかといえば思う	59.2	50.5	58.6	55.8	52.5
		③ あまり思わない	58.3	48.5	56.2	54.3	51.0
		④ まったく思わない	51.8	43.6	48.3	49.8	44.0
		差①－④	8.4	8.8	12.4	7.4	10.4
48	学級では、安心して自分の意見を言うことが できますか。	① できる	59.7	52.4	60.5	56.9	53.8
		② どちらかといえばできる	60.2	51.4	59.9	56.6	53.5
		③ どちらかといえばできない	57.8	47.4	54.8	54.1	50.3
		④ できない	50.7	42.0	46.5	48.5	44.2
		差①－④	9.0	10.4	14.0	8.4	9.6

令和 7 年度香川県学習状況調査

結果に特徴の見られる質問【学校質問紙】

※ 肯定的な回答とは、回答選択肢 1+2 を指す。

※ 時間や頻度を問う質問項目は除く。

小学校

○回答選択肢 1 の回答の割合が 80% を上回る質問項目

質問番号	質問項目	%
32	小・中が連携し、小学 6 年生の児童に対して、中学校への進学に対する不安をなくすための取組を行いましたか。（予定を含む）	94.3

○肯定的な回答の割合が 70% を下回る質問項目

質問番号	質問項目	%
6	いじめの認知件数や学校いじめ対策組織の構成員を保護者等へ積極的に情報提供していますか。	46.5
1	地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	52.2
45	就学前教育と小学校教育の相互理解を図り、校区において幼保小による架け橋期のカリキュラムを作成し実施していますか。	55.3
37	現職教育等で「生徒指導提要（改訂版）」を活用していますか。	57.8
36	現職教育等で「学校教育実践の手引き」を活用していますか。	61.6

※ 質問項目 1 は、選択肢 1：「はい」、選択肢 2：「いいえ」となっているため、選択肢 1 のみの割合を示している。

※ 質問項目 45 は、選択肢 1：「作成し、実施している」、選択肢 2：「作成しているが、実施はできていない」となっているため、選択肢 1 のみの割合を示している。

中学校

○回答選択肢 1 の回答の割合が 80% を上回る質問項目

質問番号	質問項目	%
32	小・中が連携し、小学 6 年生の児童に対して、中学校への進学に対する不安をなくすための取組を行いましたか。（予定を含む）	97.2

○肯定的な回答の割合が 70% を下回る質問項目

質問番号	質問項目	%
24	新聞や学校図書館等を活用した授業を行っていますか。	39.4
37	現職教育等で「生徒指導提要（改訂版）」を活用していますか。	45.0
6	いじめの認知件数や学校いじめ対策組織の構成員を保護者等へ積極的に情報提供していますか。	50.8
36	現職教育等で「学校教育実践の手引き」を活用していますか。	53.6
1	地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	54.9
3	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。	69.0

※ 質問項目 1 は、選択肢 1：「はい」、選択肢 2：「いいえ」となっているため、選択肢 1 のみの割合を示している。

Question
1
学習意欲

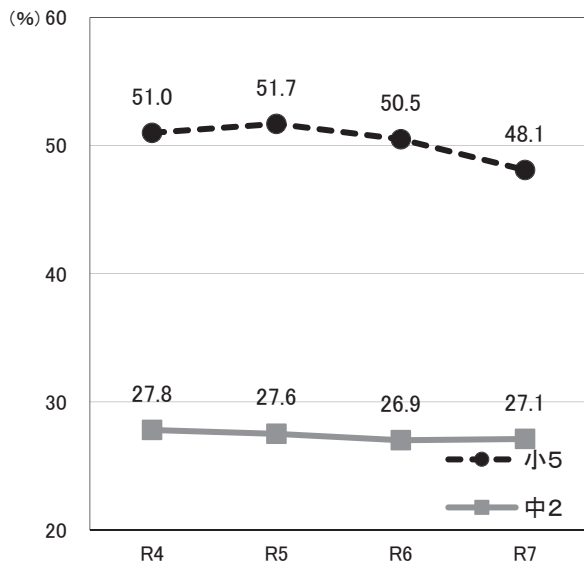
「学習意欲」に関わる質問紙調査結果については、どのような傾向が見られましたか。

- Answer 1 「◇16/16 勉強は好き」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、中学校はほぼ横ばいだが、小学校では 2.4pt 減少している。
- 2 「◇17/17 授業は楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では 1.4pt、中学校では 0.5pt 増加している。

◇16/16 勉強は好きですか。

【児童生徒質問紙】

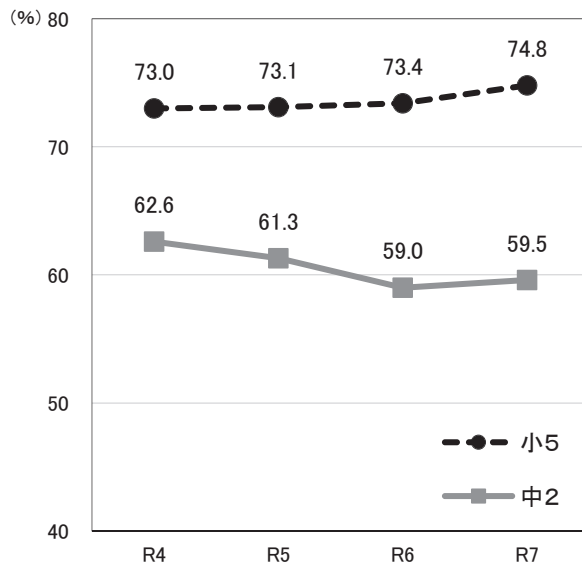
※「好き」+「どちらかといえば好き」と回答



◇17/17 授業は楽しいと思いますか。

【児童生徒質問紙】

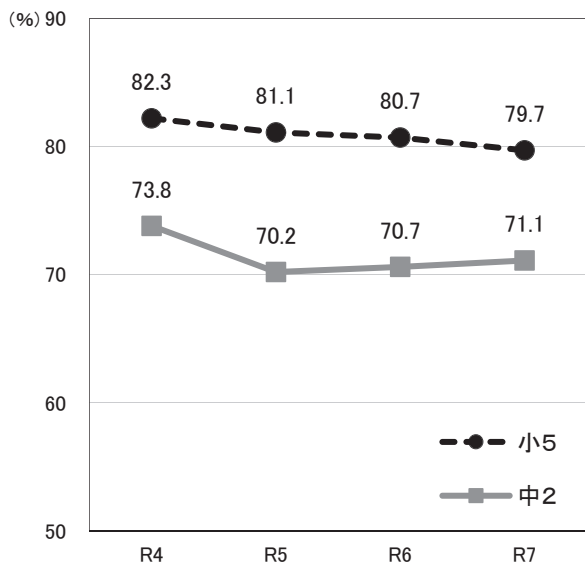
※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答



◇21/21 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。

【児童生徒質問紙】

※「取り組んでいる」+「どちらかといえば取り組んでいる」と回答



Column

～「好き」を育む～

「学力向上モデル校」※のある小学校では、昨年度より児童が「分かった・できた」を実感できる国語科の授業を目指して研究を進めてきた結果、全国学力・学習状況調査において「国語が好き」と肯定的に回答した児童の割合が、前年度と比較して約 20pt 増加しました。

この小学校では、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にしたうえで、単元計画を児童生徒とともに作成したり、児童の思いを起点に単元を通した課題を設定したりするなど、単元設計の工夫に取り組みました。また、課題意識の向上のために、可視化した単元計画を活用したり、価値ある課題との出会いを工夫したりしました。

児童生徒の学ぶ姿をもとに授業をつくることが「好き」を育むことにつながった実践でした。

取組の詳細は、香川県教育委員会 HP、香川県教育センターHP に掲載しておりますので、ご覧ください。

※p10

Question
2
言語活動

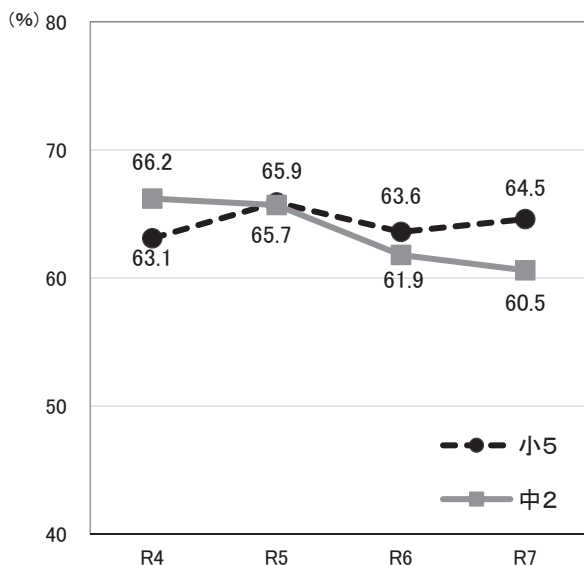
「言語活動」に関わる質問紙調査結果については、どのような傾向が見られましたか。

- Answer 1 「◇30/30 自分の考えを発表する機会では、工夫して発表している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校はわずかに増加しているが、中学校はR4年度以降減少している。
- 2 「◇32/32 友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加している。

◇30/30 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。

【児童生徒質問紙】

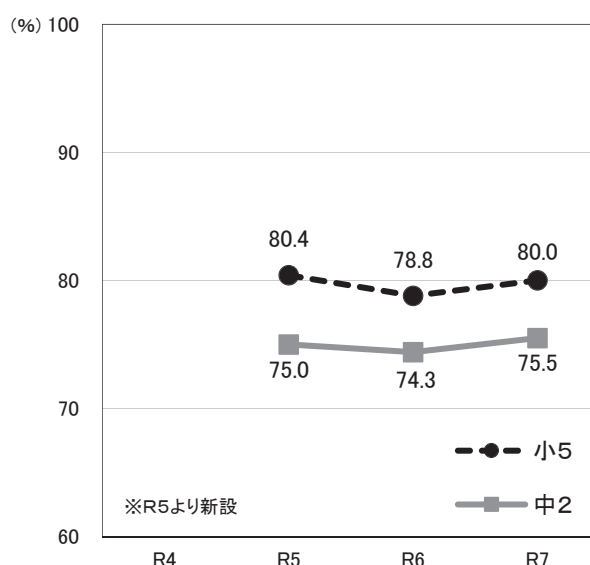
※「している」+「どちらかといえばしている」と回答



◇32/32 普段の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。

【児童生徒質問紙】

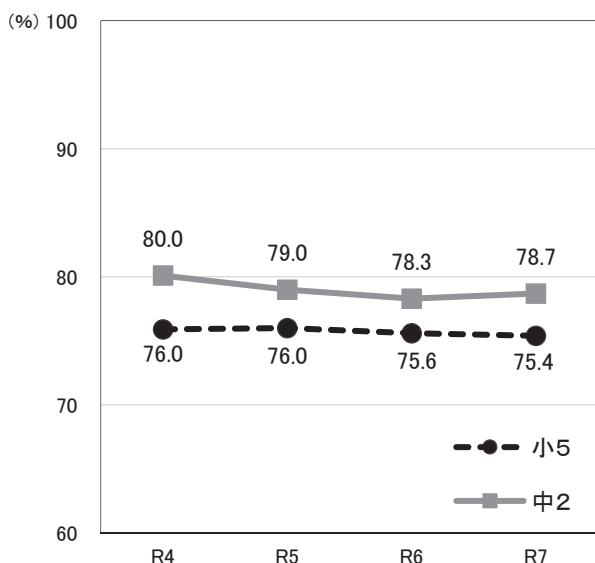
※「取り組んでいる」+「どちらかといえば取り組んでいる」と回答



◇33/33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができますか。

【児童生徒質問紙】

※「できている」+「どちらかといえばできている」と回答



Column

～深まりを実感できる話し合う活動～

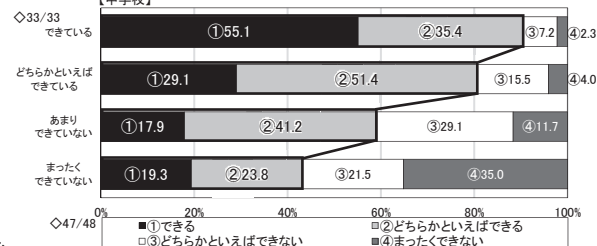
中学校において、「◇33/33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができます」と肯定的に回答している生徒の割合が高くなっています。これは、小学校から発達段階に応じた話し合う活動を積み重ねることによって、中学校での話し合う活動が充実し、学びの深まりの実感として表れているものと推察されます。

また、「◇33/33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができます」と肯定的に回答している生徒ほど、「◇47/48 学級では、安心して自分の意見を言うことができます」と回答する傾向にあります。互いを認め合う学級風土が基盤にあることが分かります。

「◇33/33 話し合う活動を通して考えを広げたり、深めたりできている」

「◇47/48 学級では、安心して自分の意見を言うことができる」

【中学校】



Question
3
学習習慣

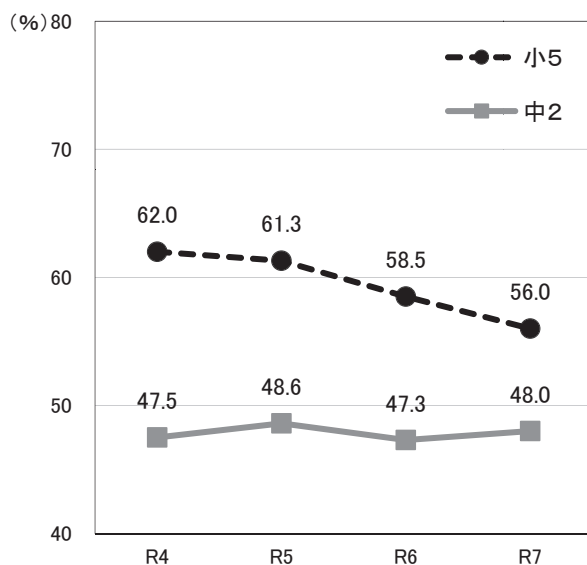
「学習習慣」に関する質問紙調査結果については、どのような傾向が見られましたか。

- Answer 1 「◇36/37 家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校では減少しているが、中学校ではわずかに増加している。
2 「◇38/39 平日に1時間以上勉強をしている」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに減少している。

◇36/37 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【児童生徒質問紙】

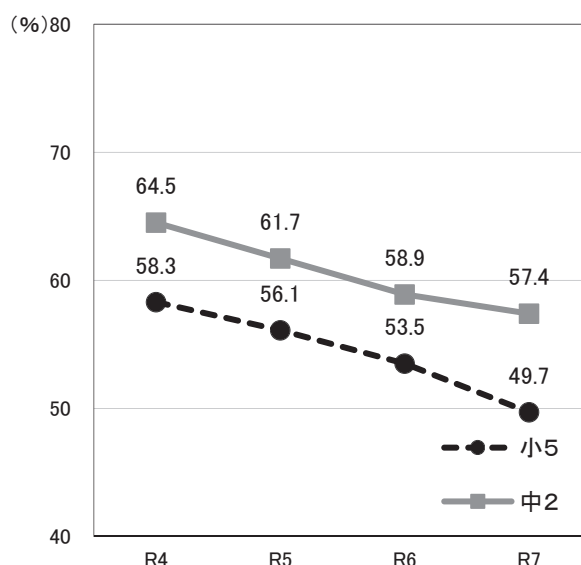
※「している」+「どちらかといえばしている」と回答



◇38/39 学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)

【児童生徒質問紙】

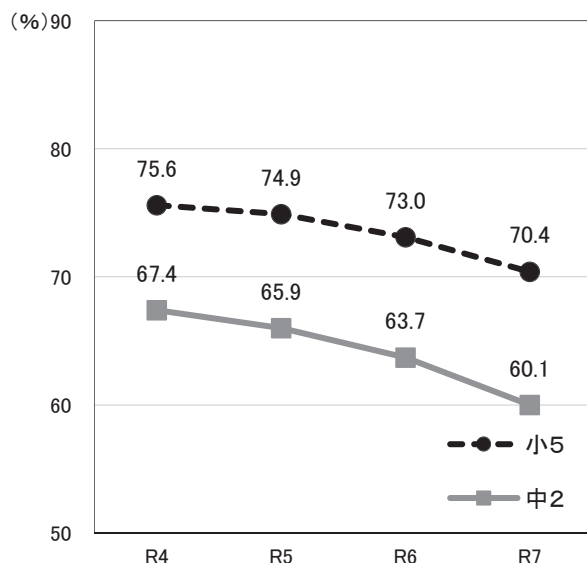
※「1時間以上」と回答



◇43/44 読書は好きですか。

【児童生徒質問紙】

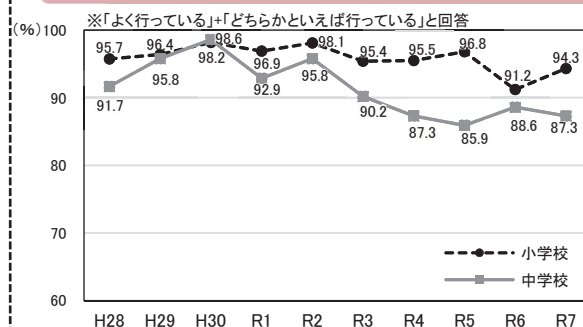
※「好き」+「どちらかといえば好き」と回答



Column

～家庭学習の内容の充実に向けて～

◆33 家庭学習の取組みとして、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。【学校質問紙】



「◆33 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」と肯定的に回答している学校は、近年、小・中学校ともに90%近くで推移しています。家庭での時間の使い方が変化していることを把握したうえで、家庭学習の取り組み方を示すことが大切です。

家庭学習にも主体的に取り組むことができるようにするために、ICT機器の活用や課題を選択できるようにすることなどの工夫をしましょう。そのことが、学習習慣を身に付けていく支援となります。

Question
4
自己有用感
規範意識等

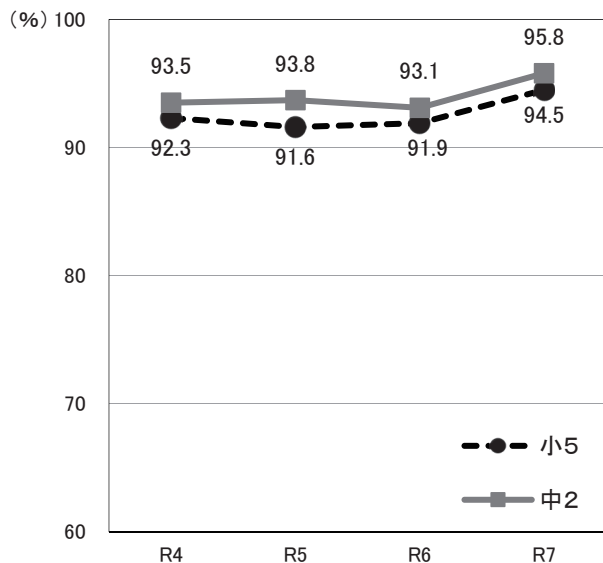
「自己有用感 規範意識等」に関わる質問紙調査結果については、
どのような傾向が見られましたか。

- Answer 1 「◇2/2 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加している。
- 2 「◇5/5 将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、中学校は増加しているが、小学校はわずかに減少している。

◇2/2 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。

【児童生徒質問紙】

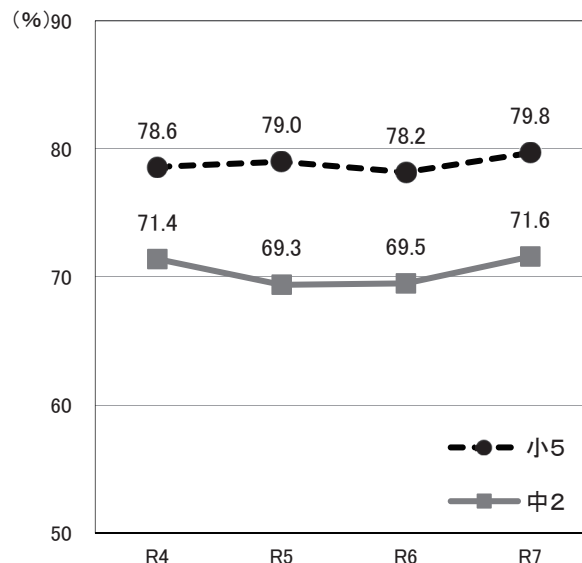
※「ある」+「どちらかといえばある」と回答



◇3/3 むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。

【児童生徒質問紙】

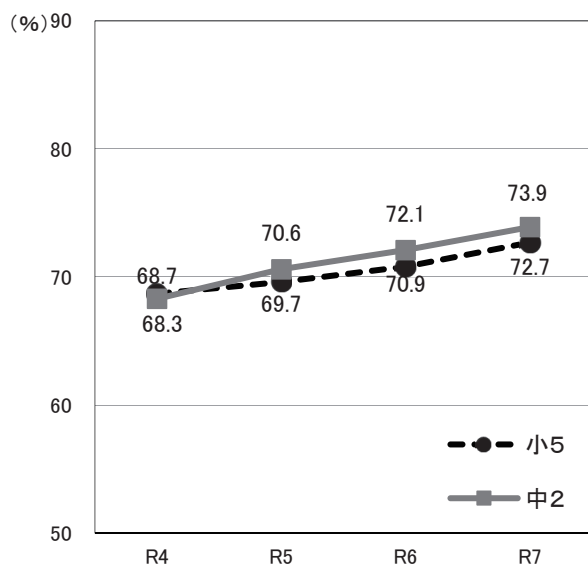
※「している」+「どちらかといえばしている」と回答



◇4/4 自分には、よいところがあると思いますか。

【児童生徒質問紙】

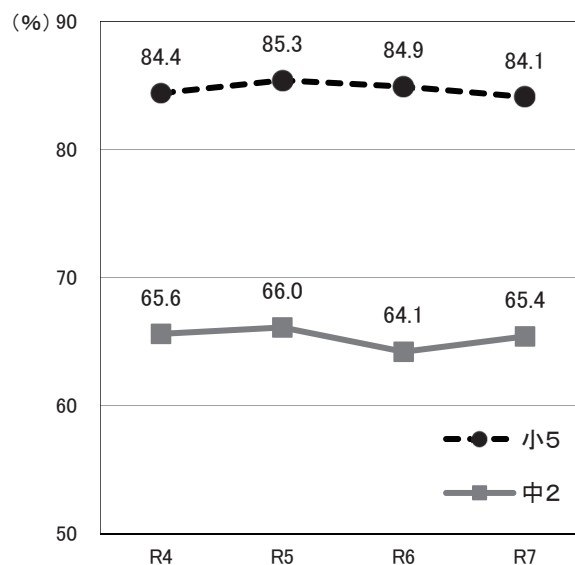
※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答



◇5/5 将来の夢や目標をもっていますか。

【児童生徒質問紙】

※「はっきりもっている」+「はっきりではないがもっている」と回答



Question
5
学校生活

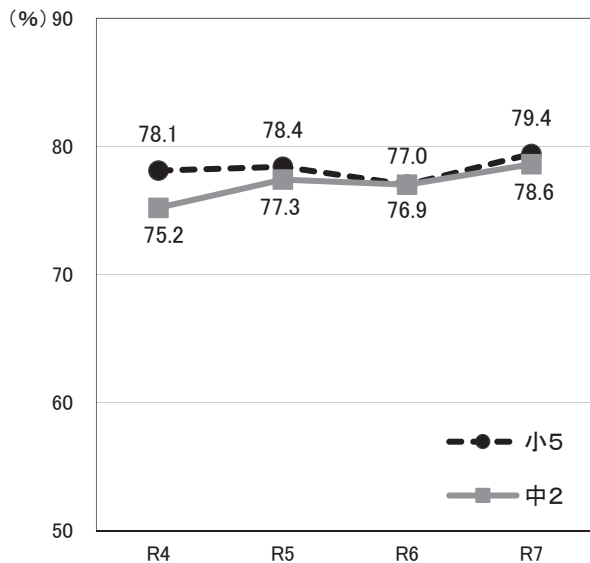
「学校生活」に関わる質問紙調査結果については、どのような傾向が見られましたか。

- Answer 1 「◇46/47 学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加している。
- 2 「◇47/48 学級では、安心して自分の意見を言うことができる」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校では 0.9pt、中学校では 1.2pt 増加している。

◇46/47 学校に行くのは楽しいと思いますか。

【児童生徒質問紙】

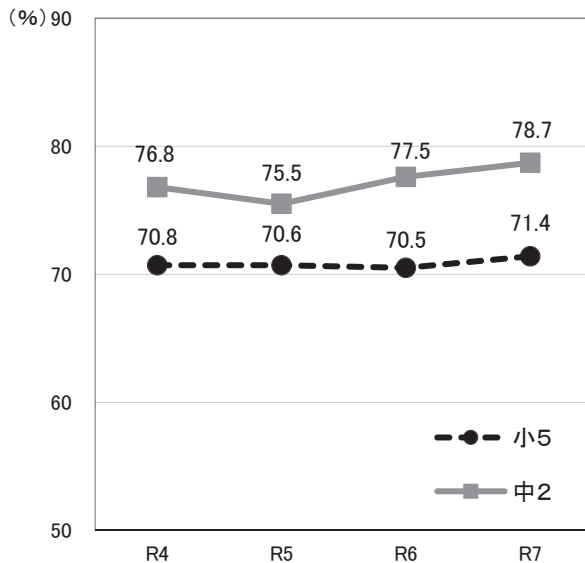
※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答



◇47/48 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

【児童生徒質問紙】

※「できる」+「どちらかといえばできる」と回答



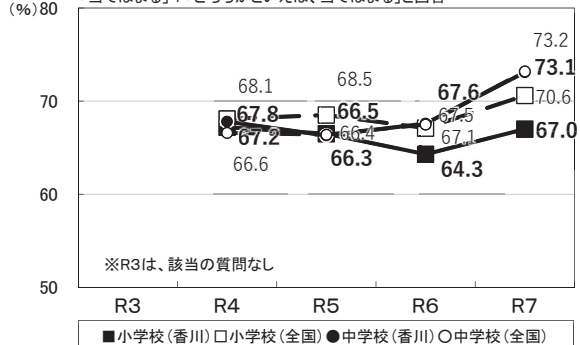
Column

～相談体制の充実で、誰もが安心して過ごせる学校に～

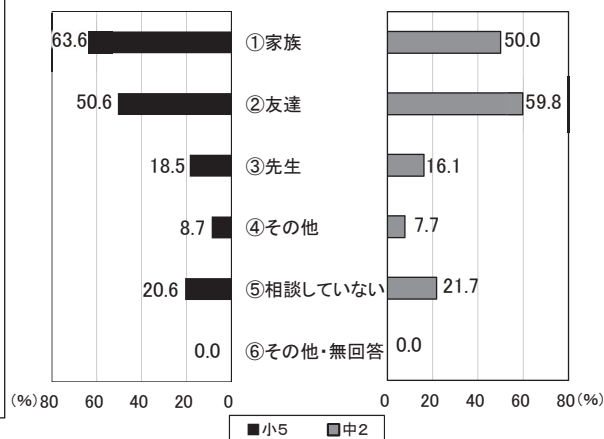
全国学力・学習状況調査結果〔R7〕

□10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか 【児童生徒質問調査】

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



◇42/43 悩みや困ったことがあったとき、だれに相談していますか。(複数回答可) 【児童生徒質問紙】



全国学力・学習状況調査結果からは、校内相談体制が充実してきていることがうかがえます。一方で「◇42/43 だれに相談しているか」という質問に「相談していない」と回答している児童生徒の割合が、小・中学校ともに約 20%であることが分かります。「相談していない」理由は、児童生徒によって異なることが推察されますが、35 人学級ならば約 7 人が相談の機会をもてていない可能性があります。

学級担任としては、まずは「相談しづらい」と感じている児童生徒を把握することが大切です。そして、「相談しよう」と思える心理的安全性の高い環境を目指して、どのような取組が効果的か今後とも考え続けていきましょう。

Question
6
メディアの利用

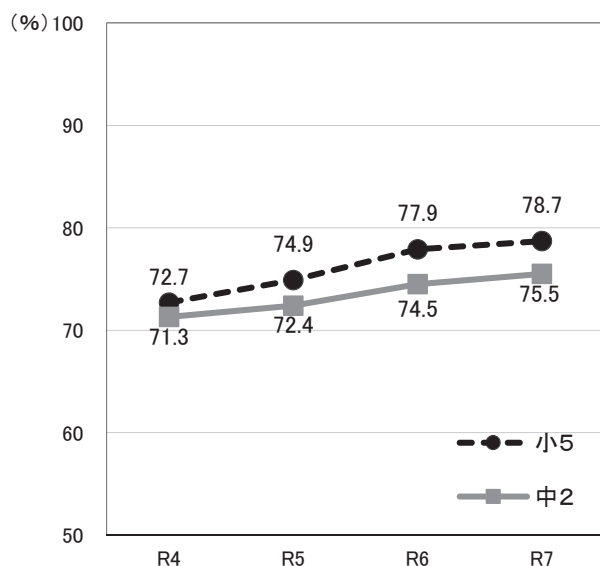
「メディアの利用」に関する質問紙調査結果については、どのような傾向が見られましたか。

Answer

- 1 「◇12/12 平日に 1 時間以上ゲームをする」と回答した児童生徒の割合は、小学校では 0.8pt、中学校では 1.0pt 増加している。
- 2 「◇13/13 平日に 1 時間以上通話やメール、インターネットをする」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、中学校は引き続き増加しているが、小学校では 1.1pt 減少している。

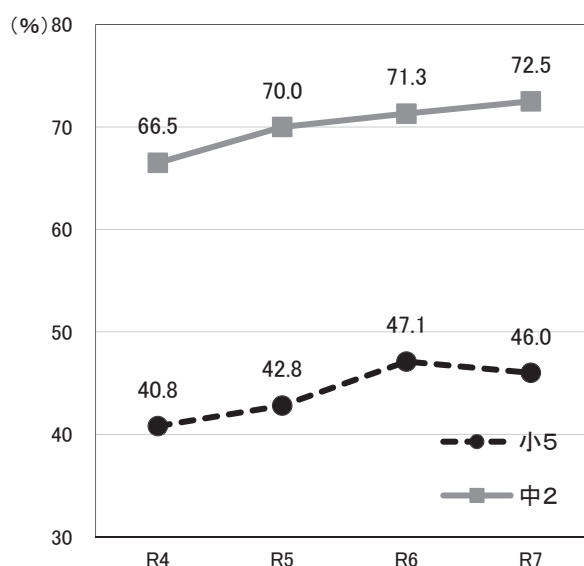
◇12/12 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。【児童生徒質問紙】

※「1時間以上」と回答



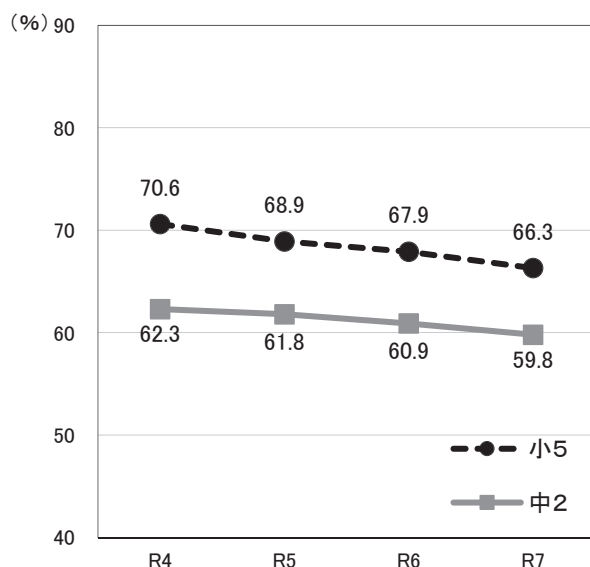
◇13/13 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)【児童生徒質問紙】

※「1時間以上」と回答



◇14/14 携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか。【児童生徒質問紙】

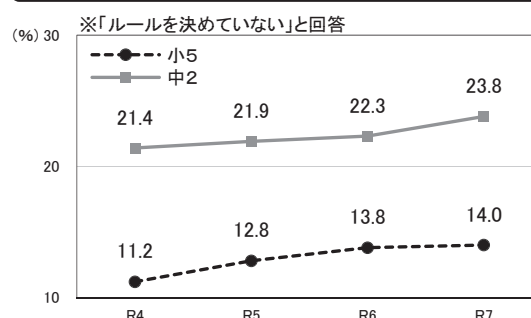
※「守っている」+「どちらかといえば守っている」と回答



Column

～正しい判断をするためのモラルを～

◇14/14 家の人と決めた使用ルールを守っていますか。



左の質問に「◇14/14 ルールを決めていない」と回答した児童生徒の割合は、増加傾向です。制限を設けるのではなく、自分自身で使い方を判断させている家庭が増えていることも考えられます。

これからも、携帯電話やスマートフォンなどと正しく安全に付き合い続けるためには、自分自身で判断することができるモラルを身に付けることが大切です。学校においては、そういったモラルを身に付ける情報モラル教育のより一層の充実が求められます。何のためにルールがあるのか、なぜ守らなければならないのかなどについて、話し合う機会を大切にしたいものです。

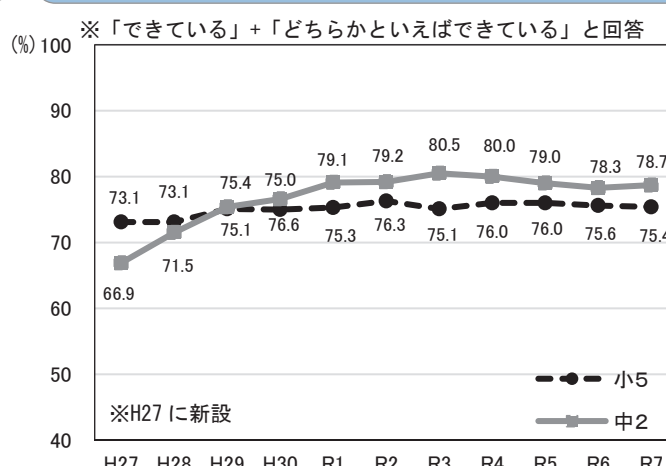
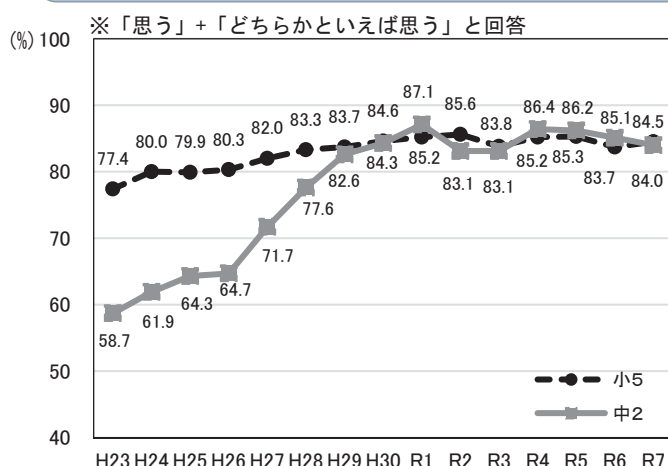
質問調査から見る言語活動の充実と次なる一手

香川県では、思考力・判断力・表現力の育成に向け、学習活動の基盤となる言語活動の充実を重視してきました。本報告書でも「特集」や「Column」で度々取り上げています。

そこで、H23年度の調査実施時期変更以降、県内の言語活動の取組状況の変容を振り返りました。この振り返りから、今後のさらなる充実のための方向性を考察します。

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。
【児童生徒質問紙】

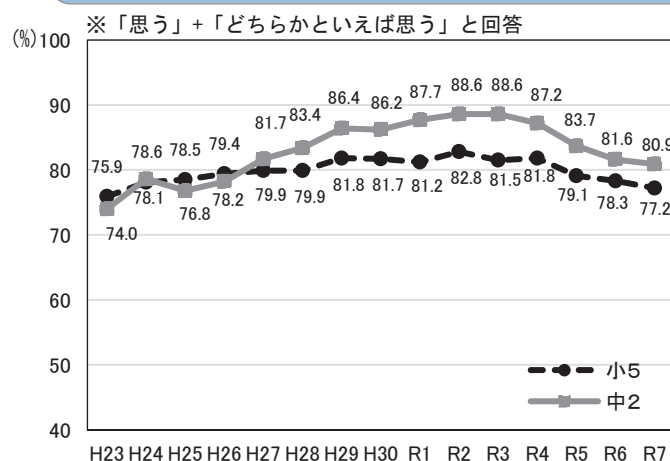
学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。
【児童生徒質問紙】



普段の授業では、自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか。
【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙の言語活動に関する3つの質問項目は、当初と比較すると、小・中学校ともに肯定的な回答が増加しています。

特に、中学校では、「話し合う活動をよく行っている」という肯定的な回答がH23年度から25.3ptも増加しています。また、生徒の約80%が「話し合いを通じて考えが広がったり深まったりしている」と肯定的に回答しており、活動の充実がうかがえます。



Column

この結果から、香川県の小・中学校において話し合い活動が充実していることが分かります。

今後さらに重要になるのは、ペアやグループでの対話・協働を通じて、一人一人の児童生徒が主体的に自分の考えを表出できる言語活動を工夫することです。そのためには、ICT機器の活用も有効な手段です。ICT機器を活用することで、いつでも他者の考えを共有したり、全員の考えを参照したりする機会を創出し、考えを表出する場面を豊かにできます。このことが、教師に指名された代表による発表のような形骸化したものではない、学びを深めるための発表の機会にもつながるのではないのでしょうか。

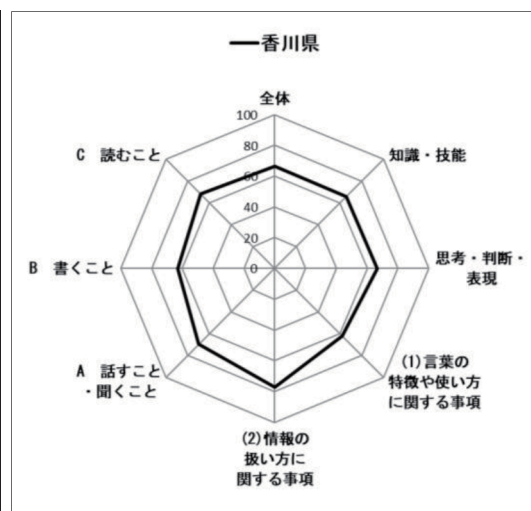
これらの取組を通して、各学校における言語活動がさらに充実していくことを期待します。

Ⅱ 教科に関する調査結果及び分析

小学校国語

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		66.5
内 容 1	①知識・技能	65.8
	②思考・判断・表現	66.7
内 容 2	①言葉の特徴や使い方に関する事項	61.9
	②情報の扱い方に関する事項	77.3
	③我が国の言語文化に関する事項	
	④話すこと・聞くこと	69.8
	⑤書くこと	62.8
	⑥読むこと	68.3



問題番号			問題の内容	内容1		内容2						正答率 (%)	無解答率 (%)
				①	②	①	②	③	④	⑤	⑥	香川県	香川県
一	(一)		目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合えるかどうかをみる。		●				●			49.7	0.5
	(二)		考えとそれを支える理由など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。	●			●					77.3	0.5
	(三)		相手に伝わるように、必要な事柄を選んで、話しているかどうかをみる。		●				●			83.0	0.6
	(四)		互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができるかどうかをみる。		●				●			76.6	0.7
二	(一)		引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。		●					●		78.4	1.0
	(二)		書こうとしたことが明確になっているかなど、文章のよさに気付くことができるかをみる。		●					●		53.1	1.7
	(三)	内容	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる。(内容)		●					●		34.2	5.9
		表現	文末表現を常体にそろえて書くことができるかをみる。(表現)	●		●						61.3	5.9
		字数	整理して条件にある字数で書くことができるかをみる。(字数)		●					●		85.6	5.9
三	(一)		登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる。		●						●	65.0	1.9
	(二)	ア	第4学年までに学習した漢字を文の中で正しく書くことができるかをみる。	●		●						55.4	9.1
		イ	学習した漢字を文の中で正しく読むことができるかをみる。	●		●						69.1	3.3
	(三)		登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる。		●						●	82.9	1.5
	(四)		人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる。		●						●	71.9	2.1
	(五)		文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができるかをみる。		●						●	53.6	8.8

「話すこと・聞くこと」については、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合えるかどうかをみる問題の正答率が 49.7%であり、課題が見られる。

「読むこと」については、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができるかどうかをみる問題の正答率が 53.6%で、無解答率は 8.8%であり、課題が見られる。

「書くこと」については、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が 34.2%であり、課題が見られる。

2 調査結果から授業改善へ

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

小学校第5学年 二(三)

学習指導要領における内容〔第5学年及び第6学年〕
2〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと (1)イ

Ⅱ 教科に関する 調査結果及び分析

山田さんの学級では、総合的な学習の時間に、「かん境問題」について調べています。山田さんは「瀬戸内海のごみ問題」に興味をもち、【調べメモ①】【調べメモ②】をもとに、自分ができることを学級の人々に伝える【意見文】を書いています。あとの問いに答えましょう。

【意見文】

わたしたちのくらす香川県には、瀬戸内海という美しい海がある。瀬戸内海を守るには、自分の生活を見直し、一人一人ができることに取り組むことが大切だと考える。

【資料】から分かるように、瀬戸内海にもたくさんのごみがあり、海岸ごみは約五百五十トン、ひょうろごみは約二十四トン、海底ごみはもっとも多く、約三百二十五トンもある。県のホームページによると、海ごみは山やまちから川などを通じて海へ流れ出たものが多くあるそうだ。例えば、公園で食べたおかしのごみが風で飛ばされて、川に落ちるなど、ごみが正しくすてられないと、やがて海へたどり着き、海底までしずんでしまうことが分かった。

また、同じホームページでは、海ごみの種類で最も多いのがプラスチックごみで、海底ごみ全体の約八十五パーセントをしめていると書かれている。ビニールぶくろなどが海底面をおおって、生き物のすみかをうばい、生き物にもえいきょうを与えていることが香川県内の海でも起きているそうだ。

このことから、わたしは、自分が出したごみにせきにならなう。そのためには、外出したときにはごみを持ち帰ってすてることが必要だ。また、

このように、一人一人ができることを考え実践していくことで、美しい瀬戸内海を守っていききたい。

（参考）「瀬戸内海のごみ問題を学ぼう」（香川県公式ホームページ）

(三)

山田さんは、【意見文】の□の部分に、生活の中で出しているプラスチックごみをへらすために、自分にできることを書くようにしています。あなたが山田さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。

あとの条件1・条件2・条件3に合わせて書きましょう。

条件1 【調べメモ②】の〈考え〉〈方法〉〈例〉の全てを取り上げて書くこと

条件2 例を挙げるときに使う言葉を用いて書くこと

条件3 書き出しの言葉に続けて、六十字以上、九十字以内にまとめて書くこと

【調べメモ②】

○プラスチックごみについて

・海底ごみ全体の約八十五パーセントをしめている。
・ビニールぶくろなどが海底面をおおい、生き物のすみかをうばっている。



〈考え〉…プラスチックごみ自体をへらすくふうを行う。

〈方法〉…使いすて、くり返し使えるものを選ぶ。

〈例〉…マイバッグ、マイボトルなど

問題番号	反応率(%)
二 (三)	①正答 34.2
	②誤答1 15.5
	③誤答2 26.2
	⑧その他 18.2
	⑨無答 5.9

【解答類型】

- ①正答
②考え、方法、例の3つの内容を書いているが、例を挙げる言葉を使って書いていない。
③考え、方法、例の3つの内容を書いていない。
⑧その他
⑨無答

【分析】

二(三)の正答率は34.2%である。解答類型③の反応率は26.2%で、【調べメモ②】を見ながら条件1に当てはまるように書くという意識はあるものの、【調べメモ①】を基にした直前の文章と同じように〈考え〉と〈方法〉を記述し、〈例〉からマイバッグやマイボトルなどの必要な情報を取り上げることができなかった児童がいたと考えられる。また、解答類型②は、〈考え〉〈方法〉〈例〉の3つの内容は書いているものの、「例えば」のような「例を挙げるときに使う言葉」を文章中に用いることができなかった児童がいたと考えられる。決められた字数で書くことや文末表現を他の文と揃えることはできている児童が多いことから、資料【調べメモ②】から必要な情報を取り上げられなかったり、情報を基に筋道の通った文章となるよう正しく構成できなかったりしたことが原因と考える。

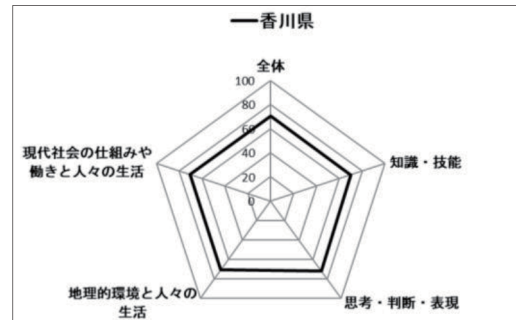
【授業改善のポイント】

本問題のようにメモを基に文章を書く際には、字数や扱う内容等の条件を示し、児童がその条件に合うように書くことを意識することが大切である。また、自分が書いた文章等を見ながら、〈考え〉〈方法〉〈例〉がどのようにつながっているかや「例を挙げるときに使う言葉」の使い方を学級全体やグループ等で説明し合う時間をもつことも考えられる。さらに、読み手の立場から「文章がどのようにつながれば、筋道の通った文章になるのか」「例を挙げる言葉に着目し、その前後の文章構成が分かりやすくつながっているか」ということを中心にアドバイスし合う場面を設定したり、友達が書いた推敲する前と推敲した後の文章を比べ、どのような意図で修正したのかを考えたりするのも効果的である。その他、各単元の終末で自分の考えをまとめる際や連絡帳を活用した一言日記等でも、自分の書いた文章についてポイントを絞って推敲する機会を増やすなど、国語の学びを日常生活に取り入れていきたい。

小学校社会

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		70.5
内 容 1	①知識・技能	69.9
	②思考・判断・表現	71.8
内 容 2	①地理的環境と人々の生活	70.5
	②現代社会の仕組みや働きと人々の生活	70.4
	③歴史と人々の生活	



問題番号			問題の内容		内容1		内容2			正答率 (%)	無解答率 (%)
					①	②	①	②	③	香川県	香川県
1	(1)	①	方位を正しく理解しているかをみる。		●		●			72.1	0.2
		②	等高線と地形の関係を読み取れるかをみる。		●		●			69.2	0.3
		③	等高線から地図上の場所の高さを読み取れるかをみる。		●		●			71.1	0.3
		④	地図から土地利用の様子、記号や位置関係を正しく読み取れるかをみる。		●		●			48.2	0.4
	(2)	①	近隣の都道府県名を正しく理解しているかをみる。		●		●			84.5	0.4
		②	地図帳での位置の表し方を理解しているかをみる。		●		●			86.6	0.7
	(3)		自分の学校がある市町名と地図上の位置を理解しているかをみる。		●		●			82.2	1.4
2	(1)		人々が我が国の気候に適應して住居を工夫をしていることを理解しているかをみる。		●		●			78.5	0.2
	(2)		人々が災害から身を守るための工夫をしながら生活していることを理解しているかをみる。		●		●			78.9	0.3
	(3)		人々が地域の自然を生かしながら観光業を営んでいることを理解しているかをみる。		●		●			92.8	0.4
	(4)		人々が地形条件や気候条件を生かして生活していることを2つの事例地の共通項から捉えられているかをみる。			●	●			78.0	0.6
3	(1)		耕地整理のよさについて理解をしているかをみる。		●			●		63.8	0.3
	(2)		米づくりが盛んな地域の気候の特色をグラフから読み取れるかをみる。		●		●			51.0	0.5
	(3)		複数の資料から、生産者の願いが捉えられているかをみる。			●		●		68.2	0.7
4	(1)		暖流・寒流それぞれの名称を理解し、2つの資料から必要な情報を適切に読み取ることができているかをみる。		●			●		62.2	0.7
	(2)	①	複数の資料を関連付けて、費用を類別することができているかをみる。			●		●		47.1	1.4
		②	複数の資料から、水産物の輸送に関わる人々の工夫を読み取ることができるかをみる。		●			●		81.4	3.1
5	(1)	①	複数の資料の中から文章の根拠となる資料を選択することができるかをみる。			●		●		75.0	0.9
		②	複数の資料の中から文章の根拠となる資料を選択することができるかをみる。			●		●		84.7	1.1
		③	複数の資料の中から文章の根拠となる資料を選択することができるかをみる。			●		●		81.5	1.3
	(2)		資料を適切に読み取り、情報を正しく活用できているかをみる。			●		●		74.4	1.3
	(3)		資料に基づいて、情報の妥当性を正しく判断しているかをみる。			●		●		65.7	1.8
6	(1)	①	世界の大陸名とその位置を理解しているかをみる。		●		●			70.2	4.0
		②	世界地図や地球儀を用いて、赤道の位置を正しく理解しているかをみる。		●		●			60.5	1.7
	(2)	①	わが国固有の領土である北方領土について理解しているかをみる。		●		●			73.9	1.5
		②	わが国の領土の端に位置する島について理解しているかをみる。		●		●			50.3	1.7
		③	わが国周辺の海洋名とその位置を理解しているかをみる。		●		●			50.8	1.9

「知識・技能」については、地図から土地利用の様子や位置関係を正しく読み取ったり、わが国の領土の端に位置する島名や周辺の海洋名とその位置を答えたりする問題での正答率が 50%程度と低く、課題が見られる。また、世界の大陸名とその位置を答える問題では、正答率が高いものの無解答率が 4.0%と最も高かった。「思考・判断・表現」については、複数の資料を関連付けて、情報を正しく類別することができているかをみる問題での正答率が 47.1%であり、課題が見られる。

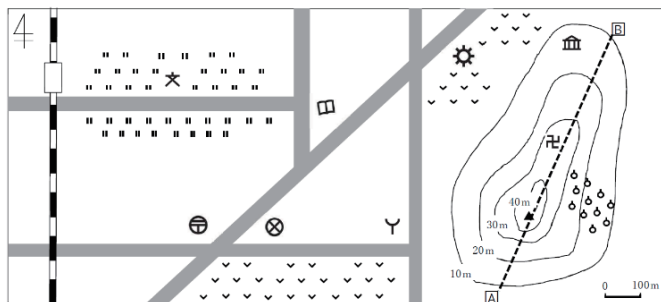
2 調査結果から授業改善へ

地図帳や地球儀などを用いて、方位や位置関係、範囲などを読み取ることができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

小学校第5学年 1(1)

④ 地図を見て、町の様子について分かったことをまとめました。正しいものを、次のア～エの中から一つ選びましょう。



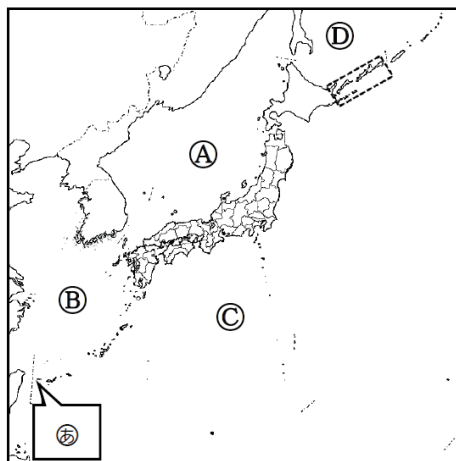
学習指導要領における内容〔第3学年〕 (1) 身近な地域や市区町村の様子

問題番号	反応率(%)	解答類型
1 (1)	①正答 48.2	①エ 正答 ⑧その他 ⑨無答
	⑧誤答 51.3	
	⑨無答 0.4	

- ア 警察署は消防署の東にある
イ 鉄道は町の東西を通っている
ウ 学校の周囲には、畑が広がっている
エ 山の東側の斜面には果樹園が広がっている

小学校第5学年 6(2)

下の【資料】の日本の周りを囲んでいる①～④の海の名前の組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選びましょう。



【資料】日本の領土とその周りの国々

	①	②	③	④
ア	日本海	オホーツク海	太平洋	東シナ海
イ	東シナ海	日本海	太平洋	オホーツク海
ウ	日本海	東シナ海	太平洋	オホーツク海
エ	オホーツク海	日本海	東シナ海	太平洋

学習指導要領における内容〔第5学年〕 (2) 我が国の国土の様子と国民生活

問題番号	反応率(%)	解答類型
6 (2)	①正答 50.8	①ウ 正答 ⑧その他 ⑨無答
	⑧誤答 47.3	
	⑨無答 1.9	

【分析】

2つの設問は、どちらも正答率が50%前後であり、地球儀や地図資料を調べてその位置や範囲を把握する技能に課題が見られる。社会科における「地図に関する学習や地図活用」は、情報活用能力の育成において、今後ますます重要になると考える。具体的な作業を行う中で、児童は地図資料に親しみ「社会的事象の見方・考え方」の基礎が培われていくと考える。そのためにも、小学校3年生から6年生まで系統的に地図を活用する学習を位置付けていきたい。

【授業改善のポイント】

地球儀や地図帳を活用し、各種資料に親しむ活動の充実

設問1の内容においては、第3学年から繰り返し地図に親しむ活動を取り入れたい。例えば、「身近な地域や自分たちの市の様子に関する内容」では都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がりなどを確認したり、「地域に見られる生産や販売の仕事」において、産地の分布や商品の出荷先等を確認する際に活用したりして、繰り返し地図帳を活用していくことを想定しておきたい。

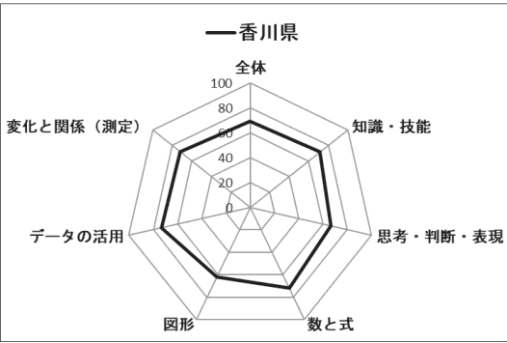
また、第4学年においても、自分たちの都道府県の地理的環境の特色を調べたり、都道府県を確認したりする活動、第5学年においても、我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状について調べる活動等で活用が可能である。また、地図アプリなどデジタル資料と関連させながら調べることで、デジタルとアナログの双方の良さを認識し、より効果的な地図活用につながると考える。

地図や地球儀を活用することで、社会科の見方・考え方を育み、情報活用能力を育むことができると考える。3年生での地図との出会いを大切に、4年生以降、児童自らが日常的に地図に親しむ環境を整えるためにも、いつ、どのタイミングで地図が活用できるか、計画的に準備しておきたい。

小学校算数

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		69.1
内 容 1	①知識・技能	71.5
	②思考・判断・表現	66.4
内 容 2	①数と式	72.1
	②図形	62.0
	③データの活用	73.0
	④変化と関係・測定	72.0



問題番号			問題の内容	内容1		内容2				正答率 (%)	無解答率 (%)
				①	②	①	②	③	④	香川県	香川県
1	(1)	①	加法と除法が混在した整数の計算ができるかをみる。	●		●				47.1	0.9
		②	小数の乗法の計算ができるかをみる。	●		●				90.3	0.8
	(2)		最小公倍数について理解して、最小公倍数を求めることができるかをみる。	●		●				83.7	1.8
	(3)	①	問題場面に合う式を選ぶことができるかをみる。		●	●				50.8	0.1
		②	問題場面に合う式を選ぶことができるかをみる。		●	●				68.3	0.2
	(4)		式を見て、適切な状況を選ぶことができるかをみる。		●	●				89.0	0.2
	(5)	①	図から白いリボンの長さを読み取ることができるかをみる。	●		●				95.8	0.6
		②	図から赤いリボンの長さは白いリボンの長さの何倍にあたるかを読み取ることができるかをみる。	●		●				69.4	1.1
		③	乗法が割合に当たる大きさを求める計算であることを理解し、図を基に赤いリボンの長さを求めることができるかをみる。	●		●				54.6	2.2
2	(1)	①	直方体について、正しく理解しているかをみる。	●			●			30.6	4.8
		②あ	直方体の構成要素である面の形と数の関係について理解しているかをみる。	●			●			71.1	1.3
		②い	直方体の構成要素である面の形と数の関係について理解しているかをみる。	●			●			72.4	1.4
		②う	直方体の構成要素である面の形と数の関係について理解しているかをみる。	●			●			75.0	1.4
		③	直方体の構成要素である面を通る直線に着目して、正しい展開図を選ぶことができるかをみる。		●		●			73.0	0.5
		④	示された条件をもとに、直方体の構成要素である面を通る直線の長さの合計を求めることができるかをみる。		●		●			17.4	3.5
	(2)	ア	円の直径と半径の関係をもとに、長方形のたての長さを求めることができるかをみる。		●		●			80.5	1.6
		イ	円の直径と半径の関係をもとに、長方形の横の長さを求めることができるかをみる。		●		●			75.8	1.7
3	(1)		水のかさと全体の重さの変化の関係を表す表をもとに、4Lの時の全体の重さを求めることができるかをみる。	●					●	97.2	1.1
	(2)	①	水のかさと全体の重さの変化の関係を表すグラフをもとに、4.5Lの時の全体の重さを読み取ることができるかをみる。	●					●	69.9	1.3
		②	水のかさと全体の重さの変化の関係を表すグラフをもとに、全体の重さが3kgの時の水のかさを読み取ることができるかをみる。	●					●	53.0	1.3
	(3)		水のかさと全体の重さの変化の関係を表すグラフをもとに、正しいグラフを判断することができるかをみる。		●				●	68.1	0.7
4	(1)		全体と部分の関係に着目して、宝探しに当たる数を求めることができるかをみる。	●				●		90.5	1.9
	(2)		分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察することができるかをみる。		●			●		49.3	1.0
	(3)	①	目的に応じて棒グラフを選択することができるかをみる。		●			●		78.3	1.9
		②	選んだ棒グラフから、必要な情報を読み取ることができるかをみる。		●			●		78.8	1.1
	(4)		提示された考え方を基に、他の遊びのポイント数の求め方と答えを式や言葉を用いて書くことができるかをみる。	●				●		67.9	4.5

「数と式」については、加法と除法が混在した整数の計算をする問題や、問題場面に合う式を選ぶ問題の正答率が低く、課題が見られる。また、「図形」については、直方体について正しく理解することや、示された条件をもとに、直方体の構成要素である面を通る直線の長さの合計を求めることができるかどうかをみる問題の正答率が低く、課題が見られる。

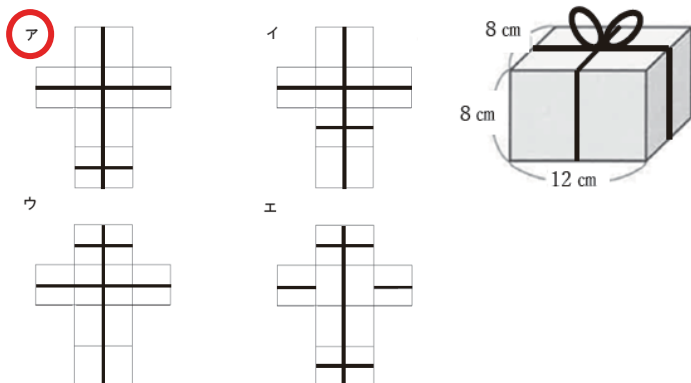
2 調査結果から授業改善へ

示された条件をもとに、直方体の構成要素である面を通る直線の長さの合計を求めことができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

小学校第5学年 ②(1)④

- ③ はるのさんは、右の図のようにリボンをかけることにしました。
リボンがかかる場所を太線で正しく示した展開図はどれでしょう。
下のア～エから1つ選びましょう。



- ④ ちょう結びの部分に 30 cm 使うとすると、リボンは何cm必要でしょう。答えをかきましょう。

学習指導要領における内容〔第4学年〕
B(2)立方体、直方体などの立体図形

73.0%の児童が正しい展開図を選択できているのに、長さを求められないのはなぜだろう？



問題番号			反応率 (%)	
②	(1)	③	①正答	73.0
			⑧誤答	26.5
			⑨無答	0.5

問題番号			反応率 (%)	
②	(1)	④	①正答	17.4
			②誤答1	3.1
			⑧誤答2	75.9
			⑨無答	3.5

②(1)④の【解答類型】

- ①正答 ②誤答1 : 72 cm
⑧誤答2 : その他 ⑨無答

【分析】

本設問は、示された条件をもとに、直方体につけられたリボンの全長を求める問題である。②(1)③の展開図を選ぶ問題は73.0%の児童が正答しているが、本設問の正答率は17.4%にとどまっている。正答率が低くなる要因として、展開図と見取り図をつなげて立体的に思考することができずに、裏側や底面をイメージできていないことが考えられる。これは、本県の課題である「資料の意図を解釈し表現すること」にも深く関わる。

【授業改善のポイント】

本設問で見られた課題を解決し、他の単元や問題にも応用できる力を育てるために、以下の3つの視点を提案する。

① 「素朴なつまづき」を問いの出発点にする

問題と出合ったとき、児童は「見えている部分だけ足せばいい」「直方体だから体積の公式かな」といった素直な反応を示すことが考えられるだろう。これをすぐに正すのではなく、学習課題を焦点化するためのチャンスと捉え、働きかけを工夫することが大切である。

例えば、児童の考えた式に対し、「本当にその長さで足りるかな？」「リボンが通る面は他にないかな？」と揺さぶる発問を投げかける。この揺さぶりによって、児童の中に「見えない部分があるかもしれない」「図を正しく読み取らなければ」という必要感が生まれる。このプロセスが、資料（問題場面）を深く解釈しようとする態度を育てるだろう。

② 図と式を行き来し、根拠を語らせる活動を充実させる

算数において、図は抽象的な問題をイメージするための重要なツールである。しかし、「見取り図」と「展開図」、そして「式」が頭の中でつながらない児童がいることも考えられる。そのため、教師が両者を結びつける働きかけを行うことが重要である。

例えば、「見取り図で見えない『底面』は、展開図だとどこ？」と問い、見えない情報を展開図で補完できるようにする。また、「式のこの『8』は、図のどの部分を表している？」と問い、式の意味を図を使って説明できるようにする。このように、図や式を根拠に自分の考えを表現する場を大切にしたい。

③ 思考のプロセスを可視化し、「学び方」を自覚させる

正解が出れば終わりではなく、「どう考えれば解けたのか」という思考のプロセスを振り返ることが重要である。それが、次に出会う初見の問題でも、資料を正しく解釈できる力の育成につながる。そのためには、教師は板書やICTを活用して「思考の過程」を可視化し、児童一人一人がその要点を捉えられるようにする必要がある。そのうえで、振り返りの視点を示し、児童一人一人が「見えない部分を見取り図にかき込む」「展開図で確かめる」といった解決のコツ（学び方）を言語化し、自分自身の学びを自覚できるように工夫することが大切である。

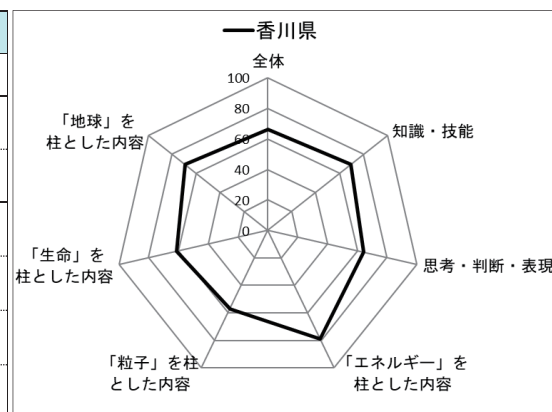


こうした日々の授業改善の積み重ねこそが、本県の課題である「資料に書かれている文や図が示している意図を解釈し、表現する力」の確実な育成につながるだろう。

小学校理科

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		66.3
内 容 1	①知識・技能	69.5
	②思考・判断・表現	64.4
内 容 2	①「エネルギー」を柱とした内容	78.7
	②「粒子」を柱とした内容	57.1
	③「生命」を柱とした内容	61.4
	④「地球」を柱とした内容	69.5



問題番号			問題の内容		内容1		内容2				正答率 (%)	無解答率 (%)
					①	②	①	②	③	④	香川県	香川県
1	(1)		ゴムのはたらきについて理解しているか		●		●				92.1	0.1
	(2)		実験結果をもとに考察することができているか			●	●				86.9	0.1
	(3)		実験結果をもとに考察し、予想を確かめることができているか			●	●				48.2	0.2
	(4)		予想を確かめるための実験方法について、整理して考えることができているか			●	●				79.6	0.3
	(5)		学習したことがらを、日常の事物・現象と結び付けて捉えられているか		●		●				81.5	0.1
	(6)		学習したことがらを、日常の事物・現象と結び付けて捉えられているか		●		●				83.9	0.3
2	(1)		棒温度計の正しい使い方について理解しているか		●					●	79.8	0.2
	(2)		実験結果をもとに考察し、結果につながる要因を見出すことができているか			●				●	75.4	0.4
	(3)		実験結果をもとに考察し、分かったことを整理することができているか		●					●	37.1	0.1
	(4)		2つの資料を比較、関係付けながら、その日の天気について見出すことができているか			●				●	86.2	2.3
	(5)		2つの資料を比較、関係付けながら、その天気を選んだ理由について考えることができているか			●				●	68.9	3.2
3	(1)		金属の熱の伝わり方について理解しているか		●			●			92.9	0.5
	(2)		金属の熱の伝わり方について整理することができているか			●	●				49.7	2.9
	(3)		予想や仮説をもとに、実験結果の見通しをもつことができているか			●	●				57.1	0.3
	(4)		実験結果をもとに考察し、分かったことを整理することができているか			●	●				49.1	0.4
	(5)		学習したことがらを、日常の事物・現象と結びつけて捉えられているか			●	●				79.3	0.5
	(6)		実験で扱う道具について理解しているか		●		●				14.4	12.5
4	(1)		予想を確かめるための実験方法について、整理して考えることができているか			●			●		33.9	0.5
	(2)		予想を確かめるための実験方法について、整理して考えることができているか			●			●		68.5	0.6
	(3)		予想を確かめるための実験方法について、整理して考えることができているか			●			●		69.2	1.3
	(4)		植物の発生についての基本的な用語を理解しているか		●				●		82.1	4.0
	(5)		植物の種子のつくりについて理解しているか		●				●		61.3	7.2
	(6)		実験結果をもとに考察し、新たな条件制御の方法を考えることができているか			●			●		62.9	0.9
	(7)		学習したことがらを、日常の事物・現象と結びつけて捉えられているか			●			●		51.6	0.9

「知識・技能」については、正答率が 69.5%で、特に、実験結果をもとに考察し、分かったことを整理することができているかの正答率が低く課題がある。「思考・判断・表現」については、正答率が 64.4%で、特に、予想を確かめるための実験方法について、整理して考えることができているかの正答率が低く課題がある。

2 調査結果から授業改善へ

実験結果をもとに考察し、新たな条件制御の方法を考えることができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

小学校第5学年 4(6)

学習指導要領における内容〔第5学年〕
B 生命・地球 (1)植物の発芽、成長、結実

みかさんは、芽を出したインゲンマメを見ながら、新しい問題をつくり、それに対する予想を立てました。

【新しい問題】インゲンマメの成長には、どんな条件が必要だろうか。

【みかさんの予想】インゲンマメの成長には、肥料が必要だと思うよ。

肥料と植物の成長との関係を調べようとして、次の表のような条件で実験をしましたが、どちらのインゲンマメもかれ始めてしまいました。

肥料	日光	水	【結果】
あたえる	当てない	あたえる	黄色になり, かれ始めた
あたえない	当てない	あたえる	黄色になり, かれ始めた

(6) 肥料と植物の成長との関係を正しく調べるには、どのように条件を変えて調べればよいか、次の ア～エ の中から正しいものを 1つ 選びましょう。

- ア 肥料をあたえる方には、日光を当てる。
イ 肥料をあたえない方には、水もあたえない。
ウ どちらにも日光を当てる。
エ どちらにも肥料をあたえない。

問題番号	反応率 (%)
4 (6)	①正答 ウ 62.9
	②誤答 1 ア 25.4
	③誤答 2 イ 5.9
	④誤答 3 エ 4.8
	⑤無答 0.9

【分析】

正答率は 62.9%である。本設問は、実験が予想通りにいかなかったとき、実験結果をもとに考察し、新たな方法を考え直す問題である。児童は、条件制御はできているのに「どうして、どちらも枯れるの？」と悩む。誤答の「ア 肥料をあたえる方には、日光を当てる」「イ 肥料をあたえない方には、水もあたえない」を選んだ児童は、予想通りにするために条件制御の基本原則「一つだけ条件を変える」がおろそかになっている。「エ どちらにも肥料をあたえない」を選んだ児童は、肥料と成長の関係を調べている目的がずれてきている。目的に応じて、正しく考察し条件を整える力を身に付けられるように導きたい。

【授業改善のポイント】

本設問を実際の授業で扱う際には、考察時に「どちらも枯れた」結果を「どうして？」と投げかけ、しっかり結果を解釈させ、個の考えを表現させたい。そのような中で「もしかすると、日光、水、肥料は植物の成長にとって、どれも欠かせない条件かもしれない」という考えを導きたい。それなら「よい方に条件をそろえてやってみよう」と追加実験への意欲が高まる。予想通りにはいかなかったが、決して失敗ではない、新たな予想と方法が分かった素晴らしい経験だと喜び合いたい。

本設問の(7)は家でインゲンマメを植えるのはどの場所がよいかを選ぶ問題である。日当たりのよい南側を選んだ児童は 51.6%であった。生活との関連付けも益々大切である。

今後、各学校に求められる取組としては、理科学習全般を通して、結果をもとにした考察場面において、友達の発言の意図について吟味・共有し、自分の言葉で説明する時間とりたい。また、知識・技能を活用する場面を授業や生活場面に意図的に位置付けるようにしたい。そのような中で、自然を愛する豊かな心情、畏敬の念、科学の有用性について、教師自らが児童と同じ目線で共感する場も大切にしていける必要がある。



中学校国語

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		58.8
内 容 1	①知識・技能	62.7
	②思考・判断・表現	55.0
内 容 2	①言葉の特徴や使い方に関する事項	57.2
	②情報の扱い方に関する事項	61.2
	③我が国の言語文化に関する事項	72.6
	④話すこと・聞くこと	66.3
	⑤書くこと	70.4
	⑥読むこと	38.6



問題番号			問題の内容		内容1		内容2						正答率 (%)	無解答率 (%)
					①	②	①	②	③	④	⑤	⑥	香川県	香川県
一	(一)		必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるかをみる。		●					●			68.1	1.0
	(二)		話の内容を捉え、共通点や相違点などをふまえることができるかをみる。		●					●			70.0	1.0
	(三)		話の内容を捉え、共通点や相違点などをふまえて、自分の考えをまとめることができるかをみる。		●					●			60.8	9.8
二	(一)	ア	学習している漢字を適切に読めるかをみる。		●		●						91.0	2.3
		イ	学年別漢字配当表の小学校第6学年までに配当されている漢字を書くことができるかをみる。		●		●						63.0	17.0
		ウ	学年別漢字配当表の小学校第6学年までに配当されている漢字を書くことができるかをみる。		●		●						62.3	20.7
		エ	学習している漢字を適切に読めるかをみる。		●		●						15.4	6.7
	(二)		言葉の単位(文節)について理解しているかを見る。		●		●						54.1	1.1
	(三)		登場人物の相互関係や心情の変化について描写を基に捉えているかをみる。			●						●	20.4	18.1
	(四)		登場人物の心情や行動の描写を結び付けて内容を捉えているかをみる。			●						●	48.0	1.7
	(五)		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っているかをみる。			●						●	47.8	21.7
三	(一)		歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。		●				●				77.4	4.2
	(二)		古典の原文と現代語訳を対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる。		●				●				51.5	8.2
	(三)		古典の原文と現代語訳を対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる。		●				●				88.8	6.8
	(四)		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っているかをみる。			●						●	38.3	27.6
四	(一)		読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる。			●					●		53.6	3.3
	(二)		目的や意図に応じて、材料を集めることができるかどうかをみる。			●					●		87.2	3.4
	(三)		情報と情報との関係について理解することができるかをみる。		●			●					61.2	3.9

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、学習している漢字を適切に読めるかをみる問題の正答率が 15.4%であり、課題が見られる。

「読むこと」については、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことに課題が見られ、無解答率も 21.7%、27.6%と高かった。その要因として、文章を読んで内容や構造を捉えることだけでなく、自分の解釈の根拠を考えたり、複数の文章を比較して考えたりすることを求められたことなどが考えられる。

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにできるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年 三(四)

学習指導要領における内容〔第1学年〕

2〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと (1)オ

問題番号	反応率(%)	解答類型
三 (四)	①正答	38.3
	②誤答1	3.8
	③誤答2	15.3
	④誤答3	4.1
	⑧その他	10.9
	⑨無答	27.6

長谷川さんは、国語の時間に「御伽草子」の『一寸法師』を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた『一寸法師』を見付け、読み比べてみました。次は【授業で読んだ『一寸法師』の一部】の〈原文〉とその〈現代語訳〉、【学校図書館で見付けた『一寸法師』の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

④ 【学校図書館で見付けた『一寸法師』の一部】は、古典の作品である「御伽草子」の『一寸法師』を、作家の清水義範が初めて古典文学に触れる子供のために現代語で書いたものです。初めて古典文学に触れる子供向けの文章としてどこのように工夫されていますか。【授業で読んだ『一寸法師』の一部】や【学校図書館で見付けた『一寸法師』の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

【分析】

正答率は38.3%である。解答類型②、③、④、⑧の反応率の合計は、34.1%であり、文章を読んで理解したことを基に「筆者が工夫している点」と「文章からの引用」の二つの条件を整理して自分の考えを表現することに課題がある。また、無解答率が27.6%であったことから、複数の文章を比べながら読んで情報を整理し、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することができなかったと考えられる。

【授業改善のポイント】

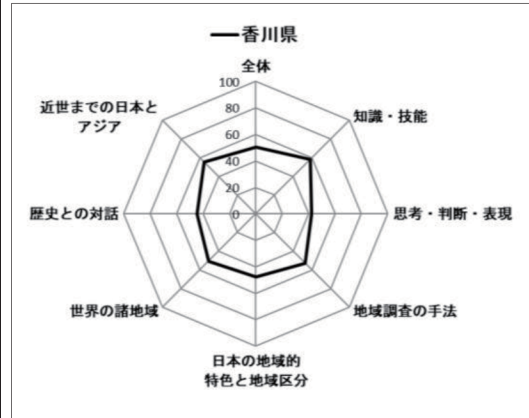
本設問のような授業を行う際には、まず、生徒が古典に親しみをもてるように、生徒の実態に応じて教材を工夫することが重要である。具体的には、古典作品と現代語訳、古典に解釈を加えて現代語で書かれた3つの作品を読み比べる時間を設定し、個々の作品の特徴を生徒が客観的に捉えやすくしたい。さらに、古典作品で描かれている世界と自分たちの日常生活の類似点や相違点を把握することを通して、古典作品独自の魅力や現代にも通じる面白さを感じることで、自分の考えの形成につなげたい。また、他者の考えやその根拠を知ったり、自分の考えを他者に説明したりするなどの説明し合う活動を取り入れた後、考えを再構成することで自分の考えを確かなものに高めることができる。特に、本問題では古典作品を扱っているため、〔知識及び技能〕(3)我が国言語文化に関する事項 イ「古典には様々な種類の作品があることを知ること」、オ「読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること」の指導事項と関連を図ることが効果的である。

今後、各学校に求められる取組としては、主体的な学びにつながる単元構成や言語活動の工夫である。そのためには、単元を通して身に付ける資質・能力を生徒自身が認識できるようにし、生徒一人一人が考えたいと思う課題設定や生徒が目的を意識して「話す」「聞く」「書く」「読む」活動に取り組める言語活動を設定したい。設定する言語活動については、事前に教師が実践し、既習内容の活用場面や生徒がつまずきそうなところ等、具体的なイメージをもつことや生徒が必要感をもてるように総合的な学習の時間や学校行事、学校の取組等と関連させることで学びの深まりが期待できる。

中学校社会

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		50.4
内 容 1	①知識・技能	58.3
	②思考・判断・表現	42.1
内 容 2	①地域調査の手法	53.0
	②日本の地域的特色と地域区分	47.5
	③世界の諸地域	50.8
	④歴史との対話	44.4
	⑤近世までの日本とアジア	55.3



問題番号			問題の内容	内容1		内容2					正答率 (%)	無解答率 (%)
				①	②	①	②	③	④	⑤	香川県	香川県
1	(1)	①	地形図の読み取りについての基本的な技能を身に付けているか。	●	●						70.0	5.7
		②	まとめに関連する資料を適切に判断することができるか。		●	●					53.0	0.9
	(2)		複数の資料を比較して、地形の変化について読み取ることができるか。	●	●						36.0	1.0
		①	鎌倉時代の文化についての基本的な知識を身に付けているか。	●					●		25.3	1.2
2	(3)	②	資料から読み取った情報を活用し、社会的事象の背景について考察することができるか。		●				●		17.5	20.0
			北方領土の位置と範囲を正しく理解できているか。	●			●				33.0	1.1
	(4)		資料から読み取った情報と知識とを結びつけて水力発電所の分布について判断できるか。		●		●				64.6	1.1
			日本のおもな工業地帯・工業地域の位置と範囲を正しく理解できているか。	●			●				60.1	1.2
	(5)		社会的事象の原因について、資料を根拠にして正しく判断できるか。		●		●				31.1	15.8
			エネルギー供給構成の推移について、資料から正しく判断できるか。		●		●				49.2	1.2
3	(6)		説明から読み取った情報と知識とを結びつけて季節風の風向きについて判断できるか。		●		●				47.1	1.5
			ヨーロッパの統合の歴史についての知識を身に付けているか。	●				●			63.0	7.6
	(7)		本初子午線の位置を正しく理解できているか。	●				●			64.1	1.2
		①	資料を正しく読み取ることができるか。	●				●			75.5	1.4
	(8)	②	資料から読み取った情報と知識とを結びつけて農業の分布について判断できるか。		●			●			31.6	2.9
			統合を進めてきたEUの課題である経済格差について説明する資料を適切に読みとり表現することができるか。		●			●			19.8	30.3
	(9)		年代の表し方について、基本的な内容を理解できているか。	●					●		55.1	8.0
			時代区分について、基本的な内容を理解できているか。	●					●	●	68.9	13.8
4	(10)		時代区分について、基本的な内容を理解できているか。	●					●	●	63.7	6.9
			地図資料を活用して「室町」の位置を正しく判断できるか。		●					●	34.7	2.2
	(11)	①	小学校の学習で取り上げられた歴史上の人物の功績を理解できているか。	●						●	86.4	6.3
		②	当時、キリスト教を伝えた地域の位置を、地図上で正しく判断できるか。	●						●	65.9	1.8
	(12)		当時の東アジアとの関わりから、中国や朝鮮の王朝名を正しく判断できるか。		●				●	●	43.9	2.1
		①	カードの内容と年代から、該当する歴史的事象を正しく読み取ることができるか。	●					●	●	40.5	22.9
	(13)	②カード2	カード(文化)の内容から、年表にあてはまる位置を正しく判断できるか。		●				●		38.6	2.6
		③カード3	カード(香川県)の内容から、年表にあてはまる位置を正しく判断できるか。		●				●	●	69.0	2.6
	(14)	④カード4	カード(世界)の内容から、年表にあてはまる位置を正しく判断できるか。		●				●	●	22.1	2.8
					●							
5	(15)		古代文明の類似点について正しく理解できているか。	●						●	63.0	2.2
			日本列島における農耕の広まりと生活の変化について正しく理解できているか。	●						●	64.8	2.2
	(16)		資料から読み取った当時の東アジアの情勢について正しく分析できるか。		●					●	19.4	37.6
		①	資料から古墳等の分布を正しく把握できるか。		●					●	73.1	2.6
	(17)	②	既習の知識について、資料から正しく読み取ることができるか。		●					●	58.0	17.1
			我が国と東アジアとの関わりについて正しく理解できているか。	●						●	55.4	16.4

「知識・技能」については、複数の情報を結び付ける力に課題が見られる。地理的分野における新旧地図の比較による地形の変容の読み取りや、歴史的分野におけるカードの記述内容と年代とを複合的に判断する問題などで、定着が不十分であった。

「思考、判断、表現」については、資料から読み取った情報を基に考察し、説明することに課題が見られた。加盟国の国民総所得の比較から、EUの課題である経済格差について説明する問題の正答率は19.8%であった。

2 調査結果から授業改善へ

諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に読み取ったり地図に表現したりすることができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年 ①(2)

学習指導要領における内容〔地理的分野〕

C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法

(2) 資料1と資料3を比較し、間違った読み取りをしているものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 昭和40年には鉄道が走っていたが、令和3年にはない

イ 「香良洲大橋」の位置は、昭和40年も令和3年も同じである

ウ 昭和40年には香良洲町に町役場があったが、令和3年にはその場所がない

エ 雲出川の南側にある「岡田」周辺は、昭和40年も令和3年も主に田が広がっている

資料1 令和3年発行「松阪港」の25000分の1の地形図（一部拡大により作成）

資料3 昭和40年発行「松阪港」の25000分の1の地形図（資料1と同地域を同率で拡大し作成）



問題番号		反応率(%)					
①	(2)	①正答イ	②誤答ア	③誤答ウ	④誤答エ	⑧その他	⑨無答
		36.0	23.4	34.4	5.1	0.1	1.0

【分析】

この問題の正答率は36.0%で、地形図から変容や位置等の情報を的確に読み取る技能に課題がある。

情報を読み取る技能に関して、地理的分野の学習で用いられる資料には、地図や統計、写真等々あるが、中でも地図は地理的な見方・考え方を働かせる上で最も重要な役割を果たしている。地域間の交流が盛んな現代においては、社会的事象を位置や空間的な広がり等に注目して地図上で捉えることの重要性が高まっている。また、地域の変容が激しい今日、新旧の地図を比較し関連付ける学習は、地域の変容の軌跡を捉え、地域の課題や将来像等について多面的・多角的に考察する上でも大切である。

【授業改善のポイント】

指導にあたっては、生徒の生活舞台を主要な対象地域とした観察や野外調査、文献調査等の実施方法を学ぶC(1)「地域調査の手法」と、地域の将来像を構想するC(4)「地域の在り方」の2つの中項目に分けて構成されていることから、技能の習得を中心とする学習と、地域の地理的な課題の解決を中心とする学習との目的の違いをふまえ、学習のねらいを明確にすることが重要である。

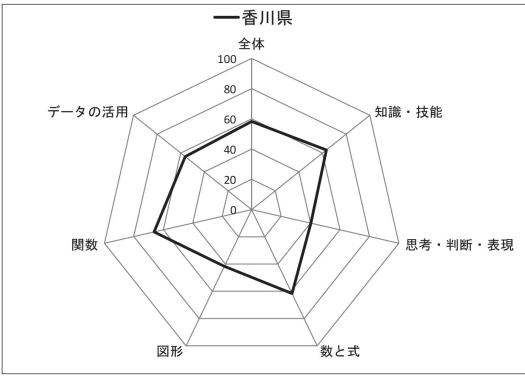
この際、教育課程全体を見渡した工夫が求められる。例えば、職場体験学習と関連付けて、職場体験を行う店舗や事業所等の分布を地図に表す活動や、防災訓練と関連付けて、生徒が登下校する通学路上の地形や危険な箇所、避難に適した場所を地図から読み取ったり地図に表したりする活動が考えられる。その際、単に地図に表すだけでなく、読み取った情報を生徒自身の言葉で説明する時間を授業の中で意図的に設けることも重要である。また、歴史的分野の内容のA(2)「身近な地域の歴史」と関連付けて、歴史的な遺跡などの位置や分布を地形図上で確認し、その地形図を持って現地に行き、地図と現地の対応関係を比べるといった活動も有効である。

大切なのは、こうした作業的で具体的な体験を伴う学習を通して、生徒一人一人に生きて働く地理的技能を身に付けることである。ただし、一度にそれらの技能のすべてを養おうとするのではなく、生徒の習熟の様子をふまえて着実に身に付くよう、繰り返し指導する機会を設けることが大切である。

中学校数学

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		58.3
内 容 1	①知識・技能	63.3
	②思考・判断・表現	40.2
内 容 2	①数と式	61.6
	②図形	41.6
	③関数	66.3
	④データの活用	56.2



問題番号			問題の内容		内容1		内容2				正答率 (%)	無解答率 (%)
					①	②	①	②	③	④	香川県	香川県
1	(1)		文字式に数を代入して式の値を求めることができるかどうかをみる。		●		●				57.4	0.9
	(2)	①	反比例の意味を理解しているかどうかをみる。		●				●		31.0	1.8
		②	与えられた比例のグラフから、xとyの関係を $y=ax$ の式で表すことができるかをみる。		●				●		72.1	0.9
	(3)	①	範囲の意味を理解しているかをみる。		●					●	48.8	1.2
		②	中央値の意味を理解しているかをみる。		●					●	49.6	1.0
	(4)		角の二等分線の意味を理解できているかをみる。		●			●			47.6	1.2
2	(5)		連立方程式を利用して問題解決するため、数量関係に着目して式を作ることができるかをみる。		●		●				62.5	13.0
	(1)		問題場面における考察の対象を、明確に捉えることができるかをみる。		●		●				71.2	8.0
	(2)		統合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるかをみる。		●		●				64.6	1.3
	(3)		問題解決の過程を振り返って考え、結論が成り立つための前提を見いだすことができるかをみる。		●		●				68.8	11.8
3	(4)		目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できるかをみる。			●	●				44.9	17.4
	(1)		立体の展開図の対応する長さを捉えて考えることができるかをみる。		●			●			60.9	1.4
	(2)		立体の底面図を想像して考えることができるかをみる。		●			●			51.0	1.8
	(3)		立体の様々な数値の関係を整理して捉えることができるかをみる。			●		●			34.5	2.2
4	(4)		立体について整理した内容を活用することができるかをみる。			●		●			13.8	25.6
	(1)		事象を理想化・単純化してとらえ、言葉で表現された事柄の数学的な意味を考えることができる。		●				●		46.6	1.7
	(2)		グラフにおけるx軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。		●				●		74.1	1.7
	(3)	ア	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる。		●				●		81.1	6.1
		イ	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる。		●				●		80.3	5.4
		ウ	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる。		●				●		81.0	6.3
		エ	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる。		●				●		79.2	5.6
	(4)	ア	問題解決の過程を振り返って考え、条件を変えた場面で活用することができるかをみる。			●			●		59.2	6.3
		イ	問題解決の過程を振り返って考え、条件を変えた場面で活用することができるかをみる。			●			●		58.2	6.3
5	(1)	①	度数分布表からデータを読み取ることができるかをみる。		●					●	79.8	7.5
		②	度数分布表からデータを読み取ることができるかをみる。		●					●	72.5	8.3
	(2)		度数分布表からデータを読み取ることができるかをみる。		●					●	61.6	2.2
	(3)		相対度数の意味を理解しているかをみる。		●					●	50.7	2.3
	(4)		データをもとに根拠のある主張を述べることをみる。			●				●	30.8	25.8

図や表から関係性を整理して捉えたり、それを活用したりすることに課題が見られる。用語の意味を理解しているかをみる問題のほとんどで正答率は 50%を下回り、習得した知識を用いて思考・判断・表現することに課題が見られる。「数と式」では、事柄が成り立つ理由を説明することに、「図形」では、立体を展開させてその特徴を捉えることに、「関数」では、問題解決の過程を振り返って考えて条件を変えた場面で活用することに、「データの活用」では、データをもとに根拠のある主張を述べることに課題が見られる。

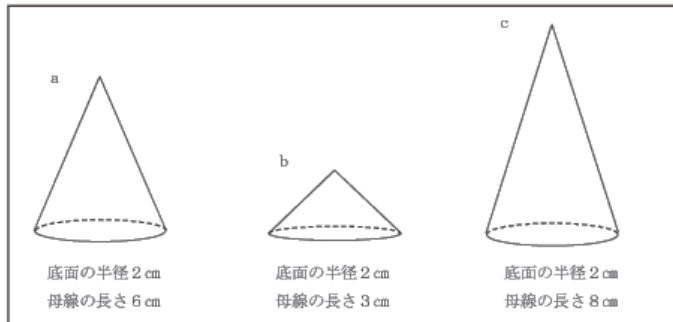
2 調査結果から授業改善へ

図や問題文から立体の特徴に気付き、問題解決に必要な要素を説明できるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年 ③ (4)

静香さんと武志さんは、次のa～cの円錐について話し合っています。対話文を読んで、下の(1)～(4)の問いに答えなさい。



3つの円錐の底面は、同じ面積の円だね。

本当だね。側面を展開したおうぎ形の面積はどうなるのかな？

①側面のおうぎ形の弧の長さと底面の円周の長さが同じになるから、母線の長さによって面積や中心角も変わるね。

確かにそうだね。②おうぎ形の中心角はどうなるのかな？

③展開した時の底面の円と側面のおうぎ形の関係を整理したらわかるかもしれないね。

そうだね。図や表をかくて整理してみよう。

<中略>

(4) 円錐bの表面積を求めなさい。

【分析】

③ (4) は立体について整理した内容を活用することができるかをみる問題であり、正答率は13.8%である。側面を円として考えた誤答1の反応率が0.7%であることから、側面がおうぎ形になることは概ね理解できていると言える。一方で、おうぎ形の中心角や面積が求められなかった、あるいは、問われている面積がどの部分かを十分に理解できていなかった可能性がある。

【授業改善のポイント】

・目的を明らかにして、そこから逆向きに考えて解決できるようにする

本単元では、平面図形の運動によって空間図形が構成されることや展開図など、平面図形と空間図形のつながりを必要とする場面が多くみられる。本設問でも、展開図をイメージして表面積を考える必要がある。そのため、どのような展開図をかき、どの要素が分かればよいか、そのためにはどのような性質や関係を用いればよいかを調べていくなど、目的を明らかにして、そこから逆向きに考えて解決していく力が求められる。このように、筋道を立てて説明することを通して、空間図形についての理解を一層深め、論理的に考察し表現する力が養われると考える。

・課題を解決するために必要な要素に着目し、説明できるようにする

本設問を使って授業を行う際には、対話文を展開図と照らし合わせて、それを自分の言葉で説明する時間を設けて、内容を汲み取れるようにしたい。例えば円錐b、cの展開図もかいて、3つの展開図を比較する活動や、用語が展開図のどの部分を示しているのか生徒同士が説明し合う活動などが考えられる。その上で、おうぎ形の面積を求めるためには中心角が分かればよいこと、そのためにはおうぎ形の弧の長さと底面の円周が等しくなることなど課題を解決するために必要な要素に着目できるようにする。

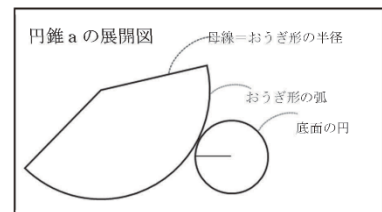
生徒は、小学校で図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察してきた。また、本設問の前にはおうぎ形の弧の長さと面積の求め方について学習している。本設問を解決するためにこれまでの知識・技能を活用して、学習した内容を確実に習得することも必要である。

学習指導要領における内容〔第1学年〕
B(2) 空間図形

問題番号	反応率(%)
③ (4)	①正答 13.8
	②誤答1 0.7
	⑧誤答2 59.9
	⑨無答 25.6

【解答類型】

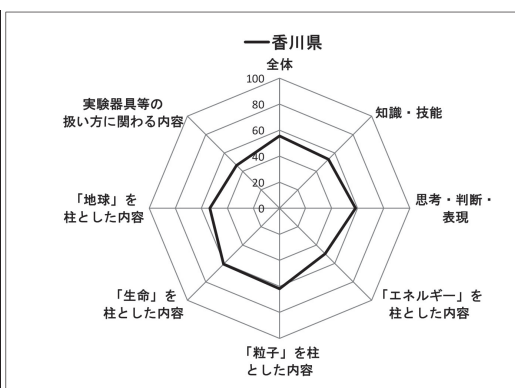
- ①正答
②誤答1 : 13π
⑧誤答2 : その他
⑨無答



中学校理科

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		55.6
内 容 1	①知識・技能	53.1
	②思考・判断・表現	58.4
内 容 2	①「エネルギー」を柱とした内容	49.5
	②「粒子」を柱とした内容	61.8
	③「生命」を柱とした内容	60.8
	④「地球」を柱とした内容	53.5
	⑤実験器具等の扱い方に関わる内容	46.6



問題番号			問題の内容		内容1							正答率 (%)	無解答率 (%)
					①	②	①	②	③	④	⑤		
1	1		動物について説明した各項目内容から「違う」と判断した根拠を見つけることができるかをみる。		●				●			81.6	0.7
	2		動物について説明した各項目内容から、共通点を見つけ分類をすることができるかをみる。		●				●			86.2	0.8
	3		外部形態の共通点を各動物の説明の中から生活場所をもとに判断することができるかをみる。		●				●			83.9	1.0
2	1		1人あたりにかかる時間の求め方を説明できるかをみる。		●				●			55.3	0.9
	2		神経系の各部分の役割を理解しているかをみる。		●				●			37.0	0.8
	3		実験の内容から刺激の伝わる経路について正しく理解できているかをみる。		●				●			67.0	0.9
	4		実験の方法についてそのねらいを考察することができているかをみる。			●			●			14.2	0.9
3	1		状態変化と化学変化の違いについて理解できているかをみる。		●				●			50.4	0.9
	2		水酸化ナトリウム水溶液を使った理由について理解できているかをみる。		●				●			85.8	0.9
	3		実験結果から集まった気体を推測することができているかをみる。			●			●			67.9	1.0
	4		実験結果や会話文の内容から水の電気分解の化学反応式を正しく書くことができるかをみる。			●			●			21.6	22.3
4	1		ガスバーナーの正しい使い方を理解しているかをみる。		●						●	46.6	0.9
	2		実験の結果から質量比を推察できているかをみる。			●			●			73.5	1.0
	3		実験の操作の効果を正しく理解しているかをみる。		●				●			67.7	1.1
	4		実験の操作の効果から、結果を推察することができているかをみる。			●			●			65.6	1.1
5	1		地層ができた当時の時代を推測することができる化石の名称を理解しているかをみる。		●					●		36.3	19.3
	2		示準化石として認められる条件を正しく理解しているかをみる。		●					●		81.1	1.1
	3		示準化石として認められる条件を正しく理解しているかをみる。		●					●		79.6	1.1
	4		地層のできかたを推測することができているかをみる。			●				●		84.0	1.1
6	1		金属の性質について理解できているかをみる。		●					●		51.6	1.1
	2		岩石のつくりの名称を正しく理解しているかをみる。		●					●		18.9	31.4
	3		岩石のつくりの特徴からその名称について正しく判断できるかをみる。			●				●		35.6	1.4
	4		岩石のでき方について理解しているかをみる。		●					●		40.8	1.5
7	1	①	写真1の光が水面に反射する時の道筋について正しく説明することができるかをみる。			●	●					53.0	1.6
		②	写真2の光が水面で屈折する時の道筋について正しく説明することができるかをみる。			●	●					52.1	1.7
	2		光の屈折角について正しく理解できているかをみる。		●		●					49.9	1.8
	3		光の進み方によって物体がどのように見えるかを推察することができるかをみる。			●	●					57.5	1.8
8	1	カ	ばねがおもりを引く力について正しく理解できているかをみる。		●		●					37.4	1.6
		説明	ばねがおもりを引く力について正しく理解できているかをみる。		●		●					60.1	1.8
	2		図3をもとにグラフの横軸の単位と数字を正しく変えることができるかをみる。			●	●					44.2	2.9
	3		力の大きさとばねのびが比例の関係にあることを何となく理解できているかをみる。		●		●					41.4	19.1
	4		ニュートンばかりについて正しく理解できているかをみる。		●		●					50.2	1.7

『エネルギー』を柱とした内容については正答率が49.5%で、特に、ばねがおもりを引く力について正しく理解したり、事象の道筋について正しく説明したりすることに課題が見られる。

『地球』を柱とした内容については、岩石のつくりの特徴から名称について正しく判断するなどの問題の正答率が低く、課題が見られる。

全体を通して、実験結果や資料、既知の知識を活用し、関連付けながら解釈し説明する力に課題が見られる。

2 調査結果から授業改善へ

動物について集めた情報から「根拠」を明確にして判断、説明できるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年 ①(1)

学習指導要領における内容〔第1学年〕
〔第2分野〕(1)いろいろな生物とその共通点

- ① 次の文は、水族館で見た図の3種類の動物について話し合った時の【会話文】です。これについて、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

【会話文】

生徒A：水族館にはかわいい動物がたくさんいたけど、図の3種類の動物について、弟と話したんだ。
生徒B：どんな話をしたの。
生徒A：弟が、「この3種類の動物は、水族館にいるからみんな同じなかなまだよね」と、私に聞いてきたので、私は「違うよ」と答えたんだ。けれど、それって正しかったのか不安になったので、3種類の動物についてこっそり生成AIで調べてから、その理由を(①)と教えてあげたよ。
(※資料1【生成AIによる説明】参照)
生徒B：インターネットで検索もできるけど、生成AIを使うとたくさん情報をすっきりまとめてくれるんだね。でも、間違いではないと思うけど、「同じなかな」とも言えるよね。
生徒A：そうだね。「違う」にしても、「同じ」にしても、なかな分けした理由が大切ってことだね。
生徒B：動物の分類について興味をもつなんて、なかなか科学好きな弟さんだね。そんな弟さんに、あしの形について話してあげたら喜ぶかもしれないね。

資料1【生成AIによる説明】

アシカ

呼吸方法:肺で呼吸を行います。水中で活動中、一定時間ごとに水面に浮上して空気を吸入します。
体表:体表は滑らかな皮膚で覆われており、短くて密集した毛が生えています。また、流線型の体形は水中での抵抗を減らし、効率的な泳ぎを可能にします。
子の生まれ方:胎生で、母親の体内で子供を育てます。妊娠期間は約11か月で通常1頭の子を出産します。

ペンギン

呼吸方法:肺で呼吸を行います。水中での活動中に空気を吸入するために水面に浮上します。
体表:体表は密集した短い羽毛で覆われており、この羽毛は防水性と断熱性に優れています。また、体は流線型で、水中での抵抗を減らし効率的な泳ぎを可能にしています。

【分析】

水族館で見た動物について弟からの問いに答える状況設定である。アシカ、ペンギン、アザラシに関する生成AIからの情報をもとに共通点、差異点に着目して分類していく。生成AIが整理して提示した各動物の「呼吸方法」「体表」「子の生まれ方」を読み取り、分類の根拠を明確にして判断することが求められる。(1)の正答率は、選択肢の文言の中に「子の生まれ方が違うから～」「体表の感じが違うから～」と分類の根拠が記されていたため81.6%と高かった。選択肢がなくても分類の根拠を探し出す力を育てたいと願い本設問の文脈を取り上げた。(2)で着目する点は、生徒Aは「同じなかな」という観点から、「骨格」「生活場所」という視点を予測し、生成AIに再度、問い返し、「脊椎動物」という見方を見いだしたことである。また、(3)で生徒Bの助言を参考に翼や足の形について調べ、弟に説明しようとしたことも理科学習で学んだことを生活場面で活用する例として活用できる。

【授業改善のポイント】

今後、生成AIはどんどん日常生活の中に入ってくるだろう。よさとして①短時間で応答や成果を提示することから、達成感を得やすい②多様な形式で表現したり、多様な視点を提供したりするので自己の考えの整理や他者理解に役立つ③繰り返し問いかけることで思考が深まったり、広がったりする④誤答やバイアスに触れる経験を通して「すべてを鵜呑みにしない」「最後は自分で判断する」といった態度が育つ、などが考えられる。大人も生徒も生活場面で有効に使えるようにしたい。

各学校に求められる取組として、事実(結果)や情報、既存の知識を拠り所にしなが、根拠をもとに自分の言葉で説明し合う過程を大切にしたい。また、理科で学んだことを活用する生活場面を授業で扱いたい。そのような中で、自然を愛する豊かな心情、畏敬の念、科学の有用性について、教師自らが生徒と同じ目線で共感する場を大切にしていきたい。

アザラシ

呼吸方法:肺で呼吸を行います。水中での活動中に一定間隔で水面に浮上して空気を吸入します。

体表:体表は滑らかな皮膚と短く密集した毛で覆われています。また、体は流線型で、水中での抵抗を最小限に抑え、効率的な泳ぎを可能にしています。
子の生まれ方:胎生で母親の体内で子供を育てます。妊娠期間は一般的には9～11か月です。

- (1) 生徒Aが、【生成AIによる説明】をもとに、「違う」と判断して弟に話した(①)に当てはまる説明は何ですか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

ア「子の生まれ方が違うから、アシカだけ違うなかなまだよ」
イ「子の生まれ方が違うから、ペンギンだけ違うなかなまだよ」
ウ「体表の感じが違うから、アザラシだけ違うなかなまだよ」
エ「体表の感じが違うから、全部違うなかなまだよ」

問題番号		反応率(%)	
1	(1)	①正答 イ	81.6
		②誤答1ア	3.7
		③誤答2ウ	4.2
		④誤答3エ	9.8
		⑤無答	0.7

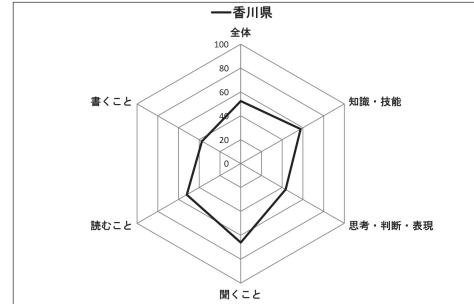
* この後、(2)の設問では、3種類の動物が「同じなかな」であることを説明するために「骨格」「生活場所」について更に生成AIで調べ、それをもとにどのようなグループにまとめられるか問うている。

(3)の設問では3種類の動物の翼や足の共通点を弟に説明する文章を問うている。

中学校英語

1 調査結果

項 目		正答率 (%)
全 体		52.4
内 容 1	①知識・技能	57.8
	②思考・判断・表現	43.4
内 容 2	①聞くこと	66.1
	②読むこと	52.1
	③書くこと	37.4



問題番号	問題の内容		内容1			内容2			正答率 (%)	無解答率 (%)
			①	②	③	①	②	③	香川県	香川県
1	(1)	英語を聞いて、情報を正確に聞き取れるかをみる。	●			●			77.3	1.0
	(2)	英語を聞いて、情報を正確に聞き取れるかをみる。	●			●			81.6	0.9
	(3)	英語を聞いて、情報を正確に聞き取れるかをみる。	●			●			64.1	1.0
	(4)	英語を聞いて、情報を正確に聞き取れるかをみる。	●			●			90.4	1.0
	(5)	英語を聞いて、情報を正確に聞き取れるかをみる。	●			●			76.3	1.3
2	(1)	英語での対話を聞いて、簡単な英語で適切に応じられるかをみる。		●		●			70.3	0.9
	(2)	英語での対話を聞いて、簡単な英語で適切に応じられるかをみる。		●		●			54.5	1.0
	(3)	英語での対話を聞いて、簡単な英語で適切に応じられるかをみる。		●		●			23.1	1.0
	(4)	英語での対話を聞いて、簡単な英語で適切に応じられるかをみる。		●		●			48.7	1.2
3		まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができるかをみる。		●		●			75.1	1.1
4	(1)	文脈に応じて主に特定の言語材料を使って正しく文の一部を書くことができるかをみる。	●					●	47.8	10.5
	(2)	文脈に応じて主に特定の言語材料を使って正しく文の一部を書くことができるかをみる。	●					●	51.5	8.2
5	(1)	文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる。	●				●		28.0	1.5
	(2)	文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる。	●				●		48.0	0.8
	(3)	文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる。	●				●		70.8	0.9
	(4)	文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる。	●				●		72.6	1.0
	(5)	文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる。	●				●		62.3	1.1
6	(1)	対話の内容や場面に合った表現を、正しく選択できるかをみる。	●				●		41.9	1.1
	(2)	対話の内容や場面に合った表現を、正しく選択できるかをみる。	●				●		59.2	1.3
	(3)	対話の内容や場面に合った表現を、正しく選択できるかをみる。	●				●		48.6	1.6
7	(1)	場面にに応じて特定の言語材料を正しく並べかえられるかをみる。	●					●	39.5	4.9
	(2)	場面にに応じて特定の言語材料を正しく並べかえられるかをみる。	●					●	43.7	4.6
	(3)	場面にに応じて特定の言語材料を正しく並べかえられるかをみる。	●					●	27.2	8.2
8	(1)	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかをみる。		●			●		47.4	1.9
	(2)	日常的な話題について、自分の考えやその理由を正しく伝える文を書くことができるかをみる。		●				●	34.6	26.9
9	(1)	初歩的な英語を用いて、対話の流れに沿った文を書くことができるかをみる。		●				●	32.4	20.5
	(2)	初歩的な英語を用いて、対話の流れに沿った文を書くことができるかをみる。		●				●	27.1	25.5
10		日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるかをみる。	●				●		67.2	1.4
11	(1)	文と文との関係を正確に読み取ることができるかをみる。	●				●		57.5	2.2
	(2)	まとまりのある英文を読み、読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句を用いてまとまりのある文を書くことができるかをみる。		●				●	32.5	30.0
12	(1)	日常な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかをみる。		●			●		31.5	2.7
	(2)	日常な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかをみる。		●			●		42.9	3.1

「知識・技能」については、文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかをみる問題や場面に
に応じて特定の言語材料を正しく並べかえられるかをみる問題で正答率が 30%を下回る問題があり、
課題が見られる。

「思考・判断・表現」については、英語での対話を聞いて、簡単な英語で適切に応じられるかをみ
る問題や初歩的な英語を用いて、対話の流れに沿った文章を書くことができるかをみる問題で正答率
が 30%を下回る問題があり、課題が見られる。

2 調査結果から授業改善へ

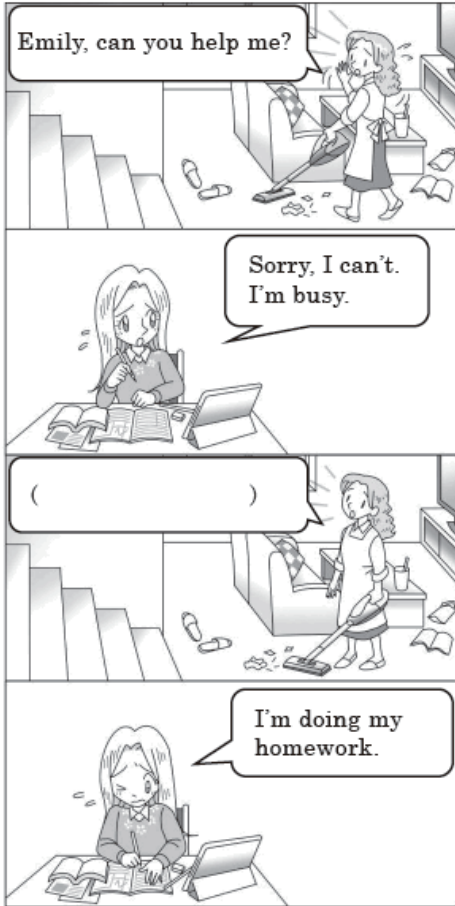
初歩的な英語を用いて、対話の流れに沿った文を書くことができるようにする

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年 9(2)

次の対話が自然なものになるように、(1), (2)の()内に適する英文を書きなさい。ただし、英文は3語以上で書くこと。

(2)



学習指導要領における内容

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
力 書くこと

問題番号	反応率(%)	【解答類型】
9 (2)	①正答 27.1	①正答 ②進行形を使っていない ③Are you doing your homework? と質問している。 ⑧その他 ⑨無答
	②誤答 1 8.9	
	③誤答 2 0.2	
	⑧誤答 3 38.3	
	⑨無答 25.5	

【分析】

正答率は27.1%で、「書くこと」の中では最も低い。無解答率は25.5%である。対話文を読み取り、その場面や状況に応じて文を書くこと、また基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題が見られる。

解答類型②の反応率は8.9%である。応答の文に進行形が使われているので、尋ねる文にも進行形を使用するといった基礎的な技能に関しても課題があると考えられる。

【授業改善のポイント】

今後、指導にあたっては、「話すこと」「書くこと」のスキルアップが図れるように指導することが求められる。そのため、基本的な定型文を扱う際には、文法事項や意味の理解に加え、どのような場面で使用するのかを理解した上で、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、アウトプットする機会を計画的に設定したい。例えば、進行形を扱う場合には、練習の機会として、ペアで「応答文に対する質問文を答えるクイズ」を出し合ったり、グループで「質問文と応答文の2枚のカードを一致させるカルタ」を行ったりすることが考えられる。その上で、生活につないで、「していること」を想像してペアでやり取りする活動につなぐことも方法の一つである。「今は○曜日の夜○時です」あるいは「今あなたは(心や体の状態が) ○○な状態です」等のお題にもとづき、What are you doing?と聞き合えば、伝えたいことを英語でどのように表現すればよいかと考えを深める機会になる。このようにして、「話すこと」を通して身に付けたスキルを、次は「書くこと」につなげるとよい。例えば、カルタで話した内容を、第三者に伝えるために英語で書く Kenta is hungry. So he is eating two hamburgers and sandwiches. というように「話したこと」を「書く」といった技能を統合した活動を取り入れることが有効である。「話して」「書くこと」が習慣付けられるように、帯活動等の時間を設定し、継続的な指導が求められる。

【授業改善のヒントとなる問題の概要】

中学校第2学年
放送問題 ②(3)

学習指導要領における内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

あなたのクラスは、アメリカにある姉妹校の生徒とオンラインで学校紹介をしています。次の(1)～(4)の対話では、その最後に(♪)というチャイムになります。その部分に話される英語として最も適するものを、それぞれア～エの中から一つずつ選びなさい。英文は2回ずつ言います。

- (3) ア Yes. I like math very much.
イ Yes. I want to join the class too.
ウ No. I'm interested in *kabuki*.
エ No. I'm interested in Japanese culture.

問題番号		反応率(%)		【解答類型】
2	(3)	①正答	23.1	①正答 ②ア ③ウ ④エ ⑧その他 ⑨無答
		②誤答1	8.9	
		③誤答2	21.8	
		④誤答3	45.1	
		⑧誤答4	0.1	
		⑨無答	1.0	

(スクリプト)

女子: Our school has a special class in January.

男子: What is it?

女子: It's a class for learning *kabuki*. Are you interested in Japanese culture?

男子: (♪)

【分析】

正答率は23.1%で、全問題の中で最も低い。自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取り、状況に応じた応答を選択することに課題が見られる。本問の発話者は、アメリカの姉妹校の生徒であるということを押さえておきたい。話題は、1月に歌舞伎について学ぶ特別な授業があり、日本の学生から、日本文化に興味があるか尋ねられた後の応答を選択する問題である。解答類型③の反応率は21.8%、解答類型④の反応率は45.1%である。チャイムのすぐ前の女子の質問文がAre you interested in Japanese culture?であったことから、I'm interested in ～. が使用されている両解答を選択したと考えられる。誤答ウ、エはともに、No.と答えた後 I'm interested in *kabuki* / Japanese culture. と続いており、尋ねられていることと相反する答えとなっていることから、誤答であるという判断をすることができるような指導が求められる。

【授業改善のポイント】

今後、指導に当たっては、友達からの遊びやスポーツ観戦への誘いなど、身近な事柄に関する簡単な問いを聞き、その内容を把握し、適切に応じる活動や、留守番電話のメッセージを聞いて、相手が伝えたい内容を理解し、返事の電話をかける活動等の言語活動を行うことが有効である。言語活動を行うに当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。インプットの機会を十分に確保した上で、文構造を意識したアウトプットの活動を継続的に実施し、定着を図ることが求められる。

過去のデータから見つける社会科授業改善のヒント

R8年度より香川県学習状況調査が質問紙調査のみとなること、また全国学力・学習状況調査に社会科調査がないことを受け、県教育センターが報告書作成を担当したH24年度以降の社会科調査を振り返りました。これまで、本報告書で示してきた社会科調査結果から明らかになった課題と、それを改善するための具体的な指導をまとめて整理します。

【課題として挙がってきたことの共通点】

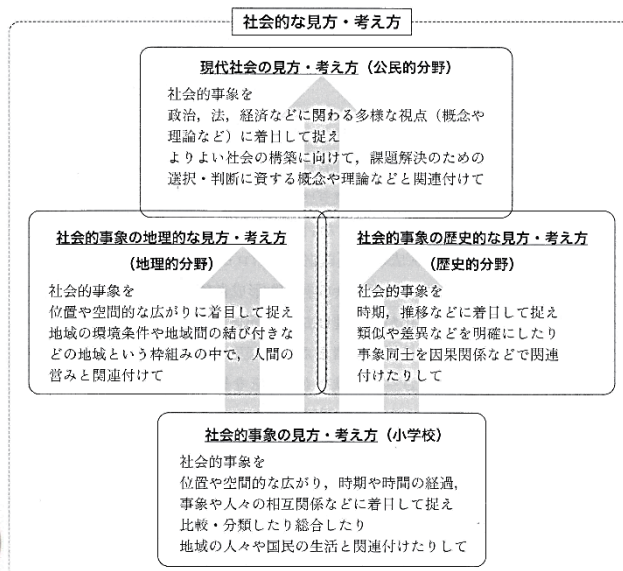
- 知識の関連付けや総合的な思考力に課題があり、個別の事象を点として捉える傾向がある。
- 資料からの情報読み取りと、それを根拠とする思考力・表現力に課題がある。

〔地理的分野〕

- 地理情報を読み取れても、それを統合して地形的特色を考察する力に課題がある。

〔歴史的分野〕

- 歴史事象の意味・意義・特色・相互関連について、多面的・多角的に考察する力に課題がある。



Ⅱ 教科に関する調査結果及び分析

【具体的な指導として述べられてきたことの共通点】

（小学校学習指導要領解説 社会編より）

1 地図やグラフを正しく読む練習と、比べたりつなげたりして使う習慣づくり

多様な資料（図表、地図、年表、写真、グラフなど）を授業で活用し、必要な情報を正確に読み解く力を育成します。複数の資料を関連付けて比較したり、作業的な学習（読図、距離・方位確認など）を粘り強く積み重ねたりすることが重要です。これにより、資料に基づき論理的に考察・判断する力の土台として、資料から正確に情報を得る技能の定着を図ります。

2 社会的な事象の理由を、単元を通して「なぜ？」と問い続ける授業づくり

単元全体を通して「大きな問い」（例：「なぜ、この地域はこのような暮らしになったのだろうか？」）を設定することで、児童生徒の学習への動機付けを図ります。そのうえで、資料の事実の確認だけでなく、「なぜ、そうなったのか」「どのように変わっていったのか」という背景や要因に着目させる問いを各場面を設定します。このように、児童生徒が主体的に探究できる問いを設定することで、社会科の見方・考え方を深めます。

3 複数の資料や出来事のつながりを見つけ、考察する時間の設定

複数の資料を比較・総合し、読み取った事象間の「つながり」を考える学習を重視します。資料を比べて共通点や相違点を見つけ、「それはどういう意味があるのか」を説明するなど、一歩踏み込んで考える時間を設けます。例えば、「昔の様子と今の様子」を結び付けて考えたり、「住んでいる場所と人々の仕事」のつながりを考えたりするというように多面的・多角的な考察を促します。分かった事実と自分の考えを往還する時間をしっかりと設けることで、深く考察する力を養います。

4 考えたことを見える化し、資料を指して説明する場の設定

分かったことや考えたことを、文章や図、グラフ、白地図などにまとめて目に見える形にします。考えを説明するときは、「このグラフのこの部分が根拠です」というように、資料を指し示しながら伝える場を意図的に設けることを大切にします。資料（事実）を基に、根拠を明確にして説明・議論する活動を繰り返し継続して行うことで、表現力と論理的思考力を養います。

あのときの5年生は今？

本年度の全国学力・学習状況調査報告書では、「あのときの6年生は今？」と題し、同一児童生徒に注目し、経年比較を行いました。

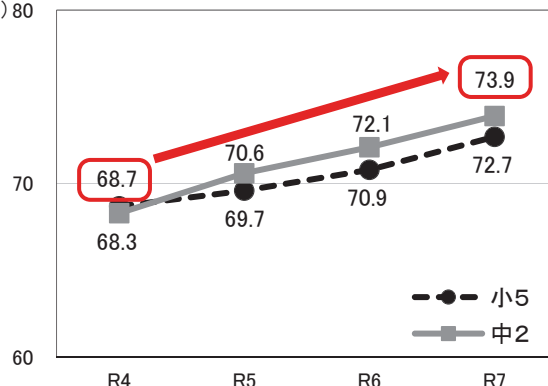
本調査でも同様に、R4年度の小学校5年生とR7年度の中学校2年生に着目し、同一児童生徒で比較をしました。



◇4/4 自分には、よいところがあると思いますか。

【児童生徒質問紙】

※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答
(%) 80



児童生徒質問紙調査結果を分析すると、次の質問項目で肯定的回答の割合が増加していました。

質問項目		R4	R7	差
2	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。 ※「ある」+「どちらかといえばある」と回答	92.3	95.8	+3.5pt
4	自分には、よいところがあると思いますか。 ※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答	68.7	73.9	+5.2pt
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。 ※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答	93.8	94.2	+0.4pt
33	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。 ※「できている」+「どちらかといえばできている」と回答	76.0	78.7	+2.7pt
34	普段の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。 ※「ほぼ毎日」+「週3回以上」と回答	34.8	58.2	+23.4pt
40	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。) ※「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」+「2時間以上、3時間より少ない」と回答	28.1	34.8	+6.7pt
47	学校に行くのは楽しいと思いますか。 ※「思う」+「どちらかといえば思う」と回答	78.1	78.6	+0.5pt
48	学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。 ※「できる」+「どちらかといえばある」と回答	70.8	78.7	+7.9pt

この結果から、各学校で児童生徒が「自分ならできる」という思いを高められる取組や、互いに認め合おうとする風土づくりが、「ものごとをやりとげて、うれしかったことがある」、「自分には、よいところがあると思う」、「学級では、安心して自分の意見を言うことができます」と感じる児童生徒の増加に貢献していると推察されます。

また、ICT機器等の使用頻度が大幅に増加しており、学校生活においてICT機器等の使用が定着してきていることがうかがえます。このことにより、児童生徒一人一人が自分の得意なことや能力を活かせる可能性がさらに高まっているといえるでしょう。

今後も、全ての児童生徒が生き生きと活動し、個性を最大限に輝かせることができるような取組が展開されることが期待されます。

Ⅲ 質問紙調査結果(児童生徒質問紙・学校質問紙)

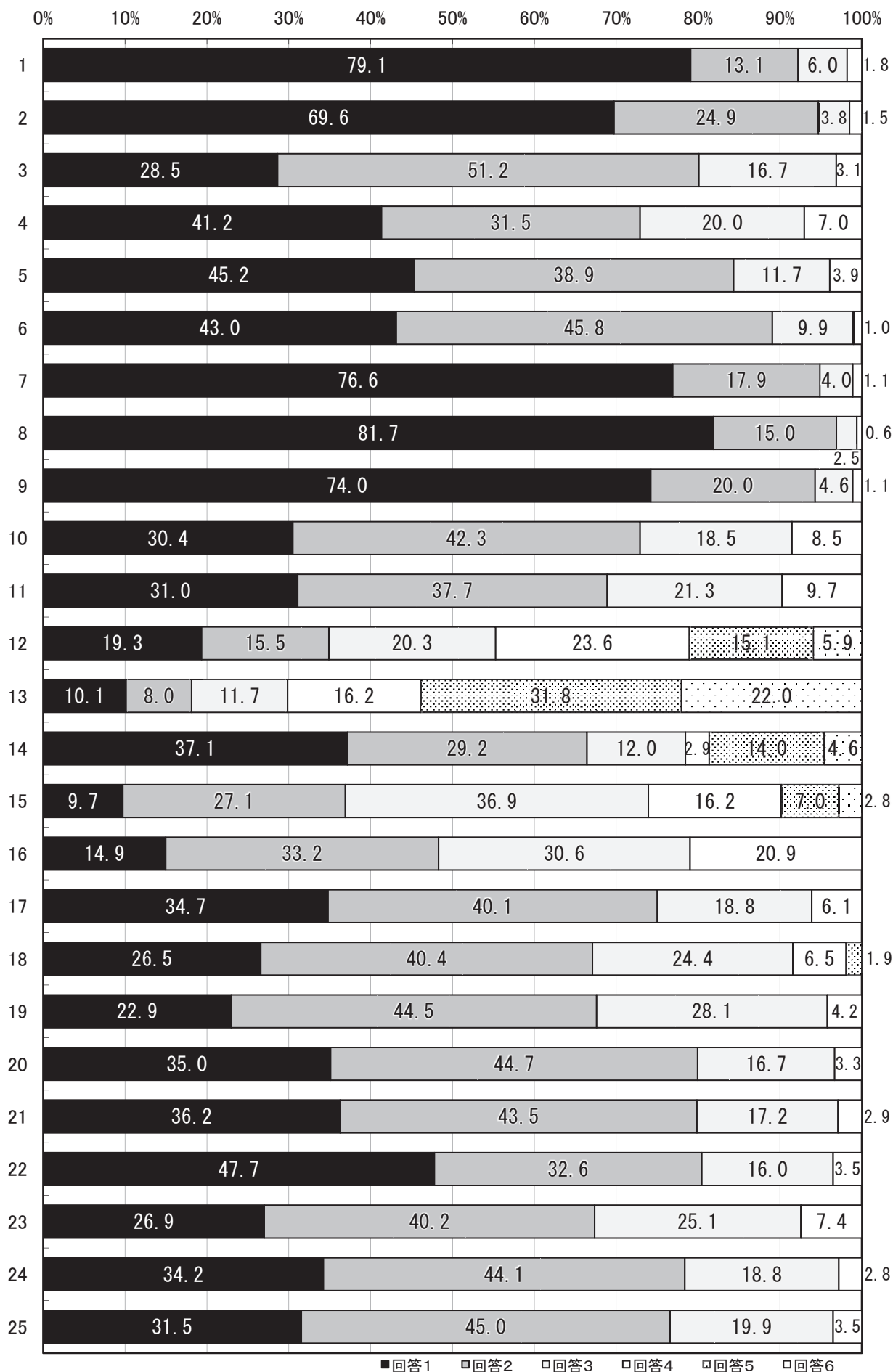
児童生徒質問紙調査結果一覧
 小学校調査結果①

番号	全国 関連	基本 計画 指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	1	(◆)	1 生活	朝食を毎日食べていますか。	毎日食べて いる	食べる日 の方が多い	食べない日 の方が多い	まったく食 べていない		
2			2 自己有用感・ 規範意識等	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	ある	どちらかと いえばある	どちらかと いえばない	ない		
3				むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	している	どちらかと いえばして いる	どちらかと いえばして いない	していない		
4	5	◆		自分には、よいところがあると思いますか。	思う	どちらかと いえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
5	7	(◆)		将来の夢や目標をもっていますか。	はっきり もっている	はっきりで はないが もっている	あまりもっ ていない	まったく もっていな い		
6	8			人が困っているときは、進んで助けていますか。	助けている	どちらかと いえば助け ている	あまり助け ていない	まったく助 けていない		
7		◆		人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	思う	どちらかと いえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
8	9	◆		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	思う	どちらかと いえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
9	11			人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	思う	どちらかと いえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
10			3 関 社 心 会 への	世の中のニュースなどに対して関心がありますか。	ある	どちらかと いえばある	どちらかと いえばない	ない		
11		◆	4 メ デ ィ ア の 利 用	今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。	ある	どちらかと いえばある	どちらかと いえばない	ない		
12				普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯性のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。	4時間以上	3時間以上、 4時間より少 ない	2時間以上、 3時間より少 ない	1時間以上、 2時間より少 ない	1時間より少 ない	まったく利用 していません
13				普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	4時間以上	3時間以上、 4時間より少 ない	2時間以上、 3時間より少 ない	1時間以上、 2時間より少 ない	1時間より少 ない	まったく利用 していません
14		◆		携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか。	守っている	どちらかと いえば守って いる	あまり守って いない	守っていない	ルールを決め ていない	携帯電話やス マートフォン などを持って いない
15				普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。	10時間以上	9時間以上、 10時間より 少ない	8時間以上、 9時間より少 ない	7時間以上、 8時間より少 ない	6時間以上、 7時間より少 ない	6時間より少 ない
16	(45 53 61)	(◆)	5 学 習 意 欲・ 言語活 動・I C T の 活用等	勉強は好きですか。	好き	どちらかと いえば好き	どちらかと いえばきらい	きらい		
17				授業は楽しいと思いますか。	思う	どちらかと いえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
18		◆		授業の内容がどの程度分かりますか。	よく分かる	だいたい分 かる	分かることと 分からないこ とが半分ずつ ある	分からないこ とが多い	ほとんど分 からない	
19	32			授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができているですか。	できている	どちらかと いえばでき ている	あまりでき ていない	まったくでき ていない		
20	34			授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。	当てはまる	どちらかと いえば当て はまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない		
21	(57)			分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	取り組んで いる	どちらかと いえば取り組 んでいる	あまり取り組 んでいない	まったく取 り組んでい ない		
22				分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。	している	どちらかと いえばして いる	あまりして いない	まったくし ていない		
23				授業に、自分の目標(めあて・ねらい)をもって取り組んでいますか。	取り組んで いる	どちらかと いえば取り組 んでいる	あまり取り組 んでいない	取り組んで いない		
24				授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。	取り組んで いる	どちらかと いえば取り組 んでいる	あまり取り組 んでいない	まったく取 り組んでい ない		
25				授業では、何ができたらいいのか、どうすれば解決できそうかという見通しをもって取り組むことができているですか。	できている	どちらかと いえばでき ている	あまりでき ていない	まったくでき ていない		

※「基本計画指標」の欄には、香川県基本計画において数値目標として用いられている質問項目に◆を、類似の質問項目には(◆)を記載している。

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示していません。

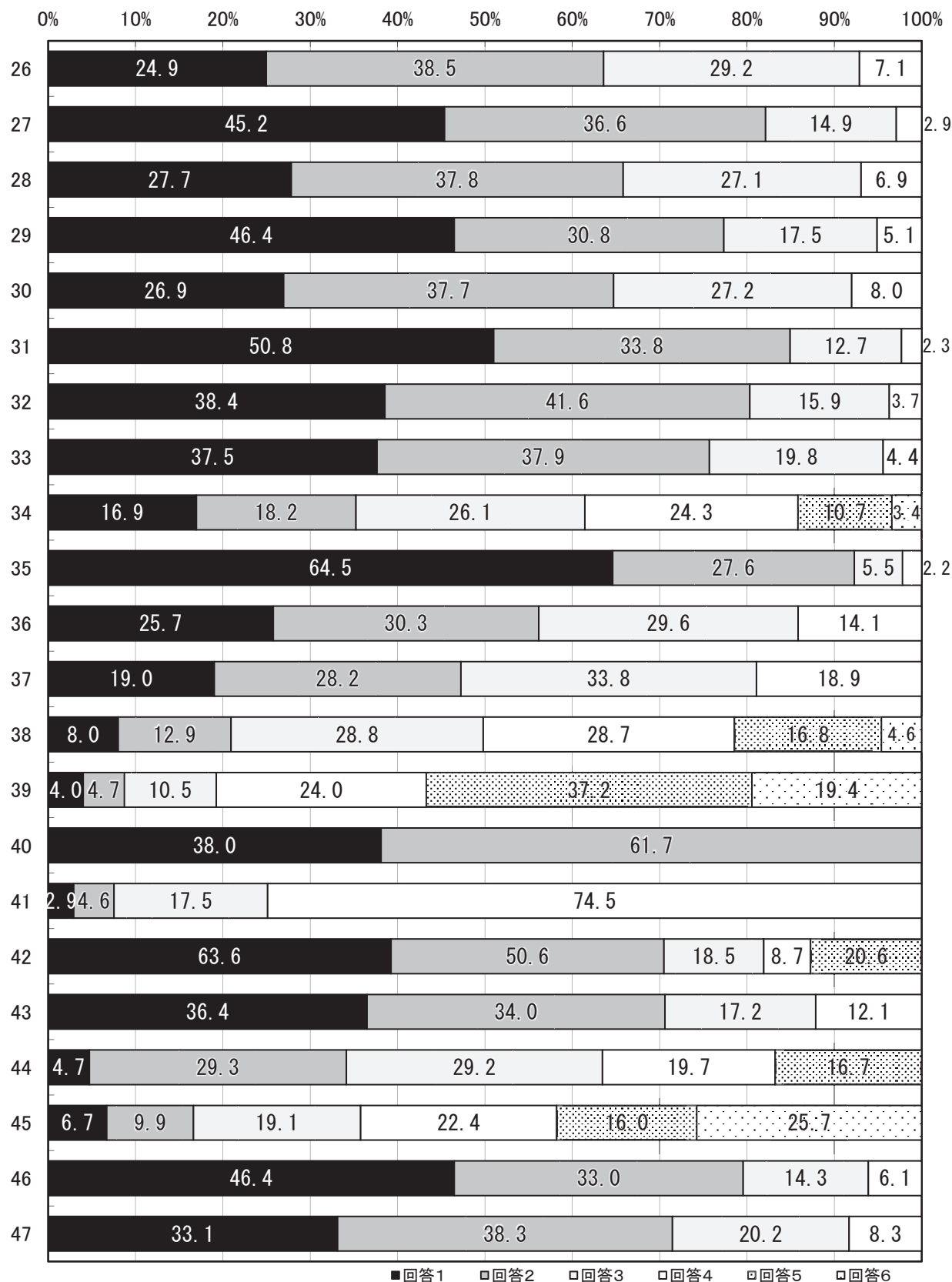


小学校調査結果②

番号	全国 関連	基本 計画 指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
26			5 学習 意欲・ 言語活 動・ICT の活用等	授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。	している	どちらかとい えばしている	あまりして いない	まったくし ていない		
27				授業では、文章や資料等から分かることは何かを考えようとしていますか。	している	どちらかとい えばしている	あまりして いない	まったくし ていない		
28	(36)			学習した内容について分かった点やよく分からなかった点などを見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。	思う	どちらかとい えば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
29				普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	思う	どちらかとい えば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
30	31			授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	している	どちらかとい えばしている	あまりして いない	まったくし ていない		
31				普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	思う	どちらかとい えば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
32				普段の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。	取り組んで いる	どちらかとい えば取り組 んでいる	あまり取り 組んでいな い	取り組んで いない		
33	(35)			学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。	できている	どちらかとい えばできて いる	あまりでき ていない	まったくで きていない		
34	28			普段の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。	ほぼ毎日(1 日に複数の 授業で活用)	ほぼ毎日(1 日に1回く らいの授業)	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
35				学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	役に立つと 思う	どちらかとい えば、役に立 つと思う	どちらかとい えば、役に立 たないと思う	役に立たな いと思う		
36			6 学習 習慣	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	している	どちらかとい えばしてい る	あまりして いない	まったくし ていない		
37				テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか。	している	どちらかとい えばしてい る	あまりして いない	まったくし ていない		
38	17			学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	3時間以上	2時間以上、 3時間より少 ない	1時間以上、 2時間より少 ない	30分以上、 1時間より少 ない	30分より少 ない	まったくして いない
39	19			土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	4時間以上	3時間以上、 4時間より少 ない	2時間以上、 3時間より少 ない	1時間以上、 2時間より少 ない	1時間より少 ない	まったくして いない
40			7 家庭 環境	家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、本来大人がすると想定されている家事や家族のお世話を指します。)	いる	いない				
41				家族のお世話をしていることで、学校を休んだり、勉強や遊びに時間がとれないなど、困っていることがありますか。	よくある	ある	あまりない	ない		
42				悩みや困ったことがあったとき、だれに相談していますか。(複数回答してもかまいません)	家族	友達	先生	その他	相談してい ない	
43	24	◆	8 読 書	読書は好きですか。	好き	どちらかとい えば好き	どちらかとい えばきらい	きらい		
44		◆		本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	だいたい週 に4回以上 行く	週に1～3 回程度行く	月に1～3 回程度行く	年に数回 程度行く	まったく行 かない	
45	21			学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍をふくみます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)	2時間以上	1時間以上、 2時間より少 ない	30分以上、 1時間より少 ない	10分以上、 30分より少 ない	10分より少 ない	まったくして いない
46	12	◆	9 学 校 生 活	学校に行くのは楽しいと思いますか。	思う	どちらかとい えば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
47				学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。	できる	どちらかとい えばでき る	どちらかとい えばでき ない	できない		

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。

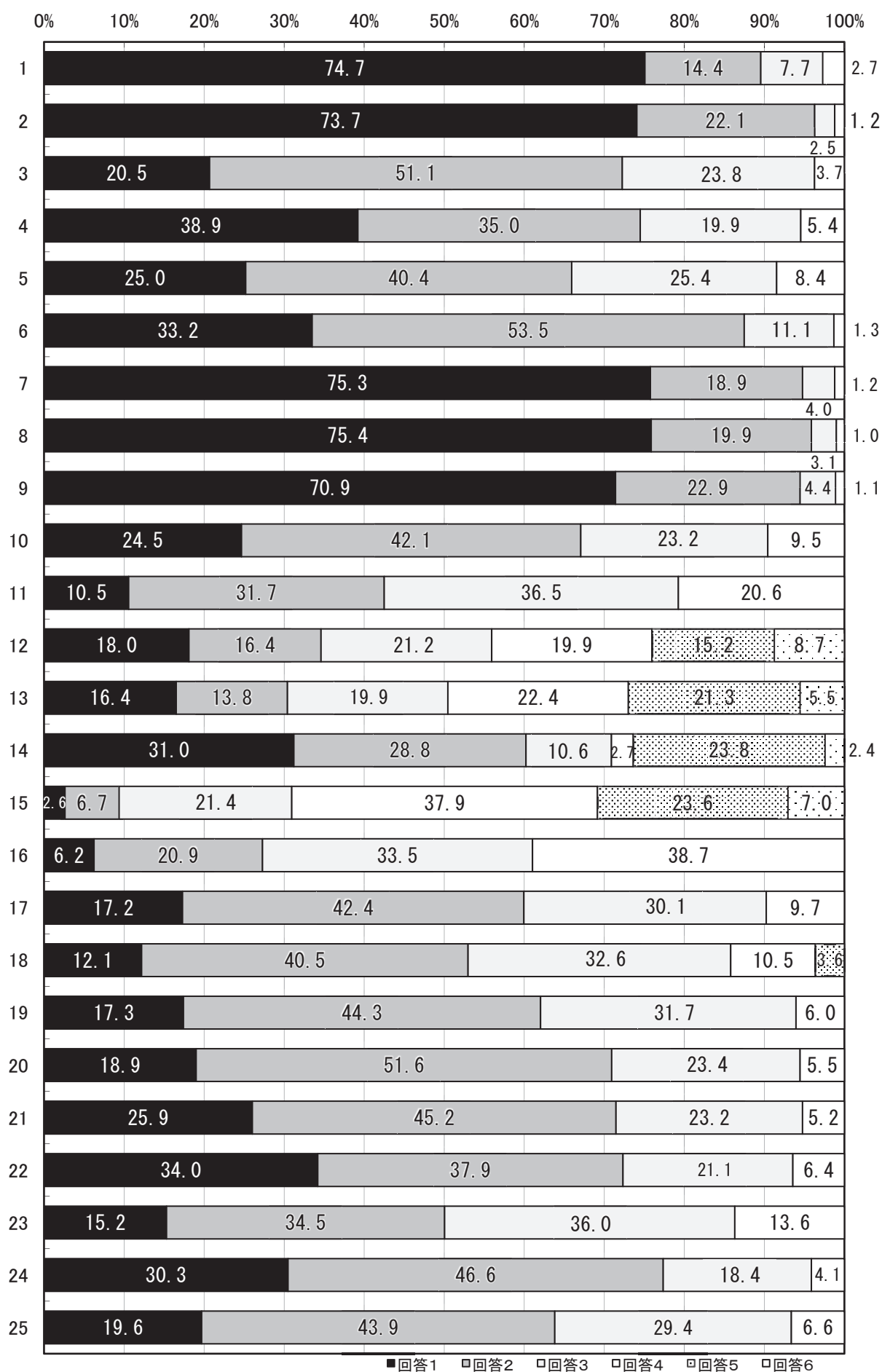


中学校調査結果①

番号	全国 関連	基本 計画 指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	1	(◆)	1 生活	朝食を毎日食べていますか。	毎日食べている	食べる日の方が多い	食べない日の方が多い	まったく食べていない		
2			2 自己有用感・規範意識等	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない		
3				むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。	している	どちらかといえばしている	どちらかといえばしていない	していない		
4	5	◆		自分には、よいところがあると思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない		
5	7	(◆)		将来の夢や目標をもっていますか。	はっきりもっている	はっきりではないがもっている	あまりもっていない	まったくもっていない		
6	8			人が困っているときは、進んで助けていますか。	助けている	どちらかといえば助けている	あまり助けていない	まったく助けていない		
7		◆		人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない		
8	9	◆		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない		
9	11			人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない		
10			3 関社会への	世の中のニュースなどに対して関心がありますか。	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない		
11		◆		今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない		
12			4	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	まったく利用していない
13			メディアの利用	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	まったく利用していない
14		◆		携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか。	守っている	どちらかといえば守っている	あまり守っていない	守っていない	ルールを決めていない	携帯電話やスマートフォンなどを持っていない
15				普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない
16	(45 53 61)	(◆)	5 学習意欲・言語活動・ICTの活用等	勉強は好きですか。	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえばきらい	きらい		
17				授業は楽しいと思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない		
18		◆		授業の内容がどの程度分かりますか。	よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分ずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない	
19	32			授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていますか。	できている	どちらかといえばできている	あまりできていない	まったくできていない		
20	34			授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない		
21	(57)			分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。	取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない		
22				分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。	している	どちらかといえばしている	あまりしていない	まったくしていない		
23				授業に、自分の目標(めあて・ねらい)をもって取り組んでいますか。	取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない		
24				授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。	取り組んでいる	どちらかといえば取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない		
25				授業では、何ができればいいのか、どうすれば解決できそうかという見通しをもって取り組むことができていますか。	できている	どちらかといえばできている	あまりできていない	まったくできていない		

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。

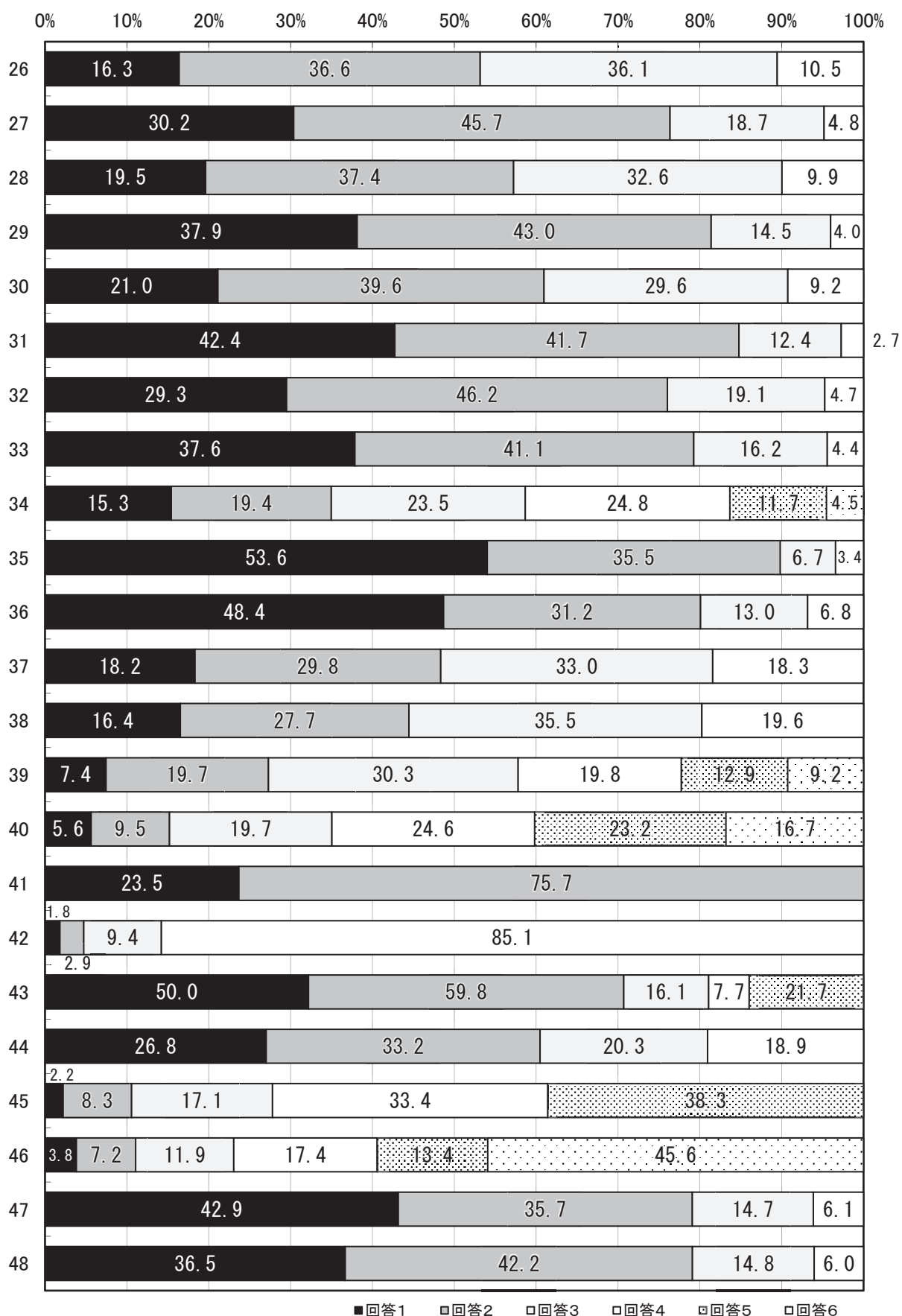


中学校調査結果②

番号	全国 関連	基本 計画 指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
26			5 学習意欲・言語活動・ICTの活用等	授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。	している	どちらかといえばしている	あまりして いない	まったくして いない		
27				授業では、文章や資料等から分かることは何かを考えようとしていますか。	している	どちらかといえばしている	あまりして いない	まったくして いない		
28	(36)			学習した内容について分かった点やよく分からなかった点などを見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
29				普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
30	31			授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。	している	どちらかといえばしている	あまりして いない	まったくして いない		
31				普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
32				普段の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。	取り組んで いる	どちらかといえば取り組んで いる	あまり取り 組んでい ない	取り組んで いない		
33	(35)			学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。	できている	どちらかといえばでき ている	あまりでき ていない	まったくでき ていない		
34	28			普段の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
35				学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立たないと思う	役に立たないと思う		
36		◆	6 学習習慣	英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていますか。	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない		
37				家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	している	どちらかといえばしている	あまりして いない	まったくして いない		
38				テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか。	している	どちらかといえばしている	あまりして いない	まったくして いない		
39	17			学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	まったくして いない
40	19			土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(宿題や学習塾や家庭教師の時間もふくみます。)	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	まったくして いない
41			7 家庭環境	家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、本来大人がすると想定されている家事や家族のお世話をすることを指します。)	いる	いない				
42				家族のお世話をしていることで、学校を休んだり、勉強や部活、遊びに時間がとれないなど、困っていることがありますか。	よくある	ある	あまりない	ない		
43				悩みや困ったことがあったとき、だれに相談していますか。(複数回答可)	家族	友達	先生	その他	相談して いない	
44	24	◆	8 読書	読書は好きですか。	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえばきらい	きらい		
45		◆		本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	だいたい週に4回以上行く	週に1～3回程度行く	月に1～3回程度行く	年に数回程度行く	まったく行かない	
46	21			学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍をふくみます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)	2時間以上	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	まったくして いない
47	12	◆	9 学校生活	学校に行くのは楽しいと思いますか。	思う	どちらかといえば思う	あまり思わ ない	まったく思 わない		
48				学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。	できる	どちらかといえばできる	どちらかといえばできない	できない		

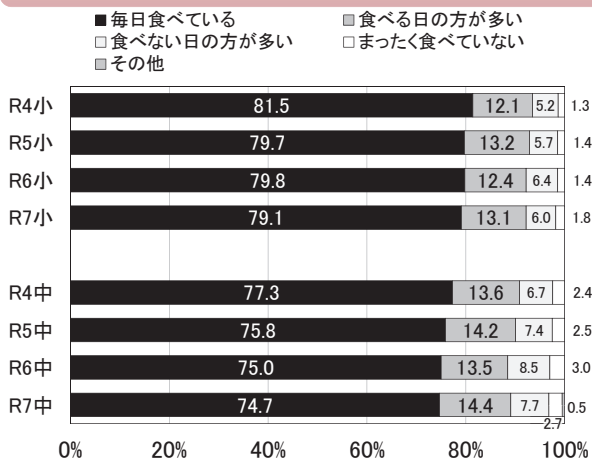
※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。



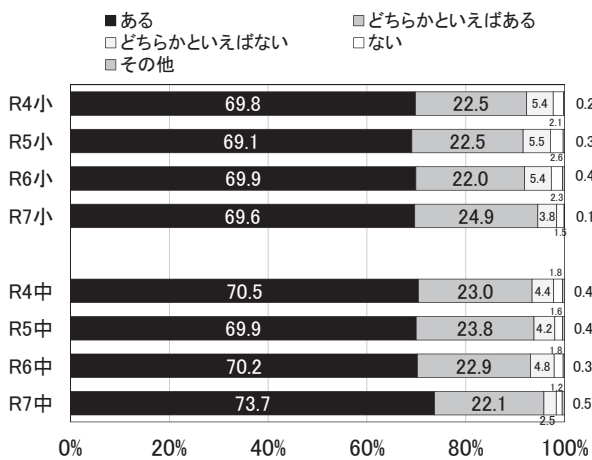
1 生活

1/1 朝食を毎日食べていますか。

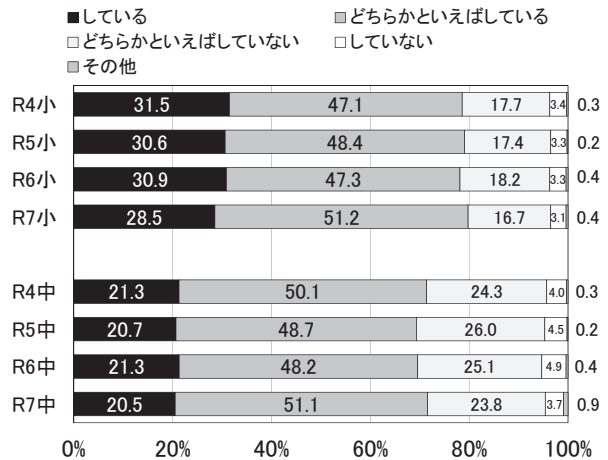


2 自己有用感・規範意識等

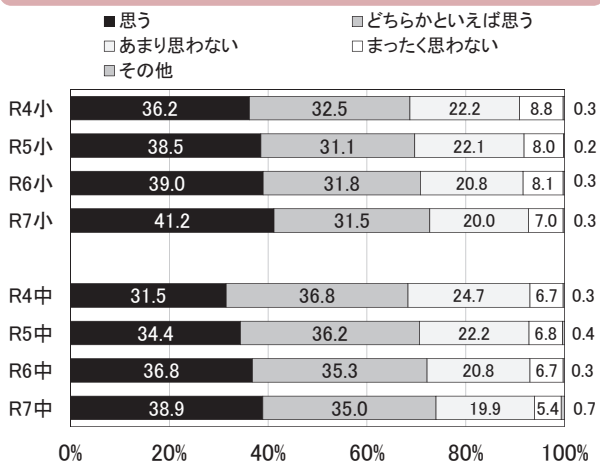
2/2 物ごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。



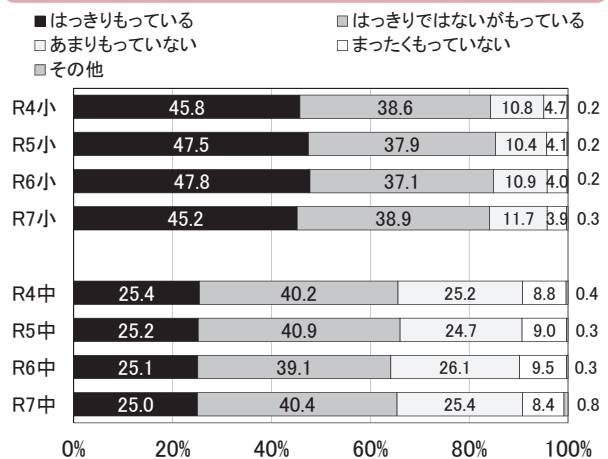
3/3 むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。



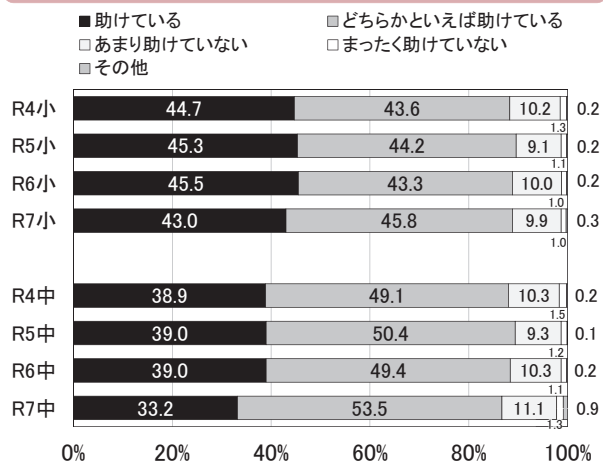
4/4 自分には、よいところがあると思いますか。



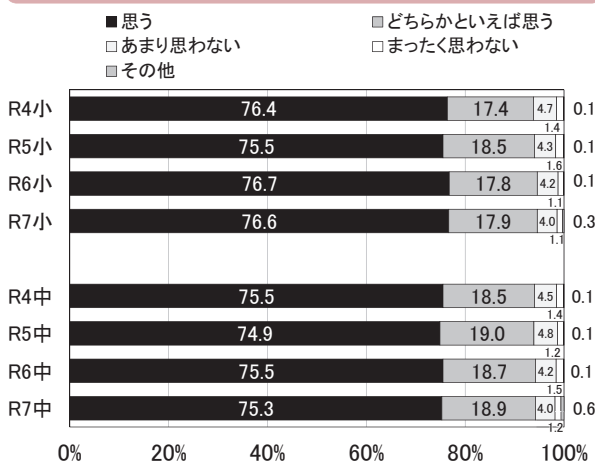
5/5 将来の夢や目標をもっていますか。



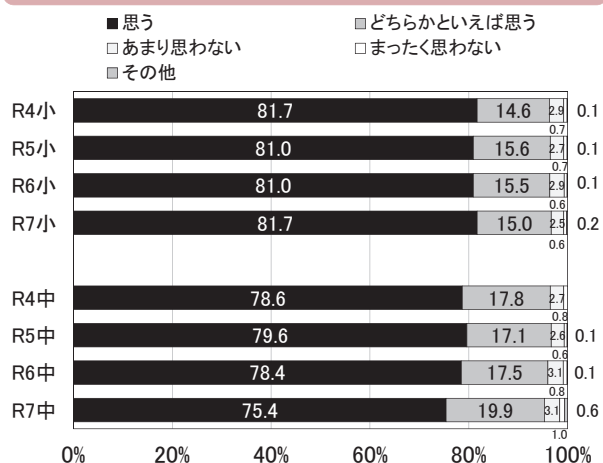
6/6 人が困っているときは、進んで助けていますか。



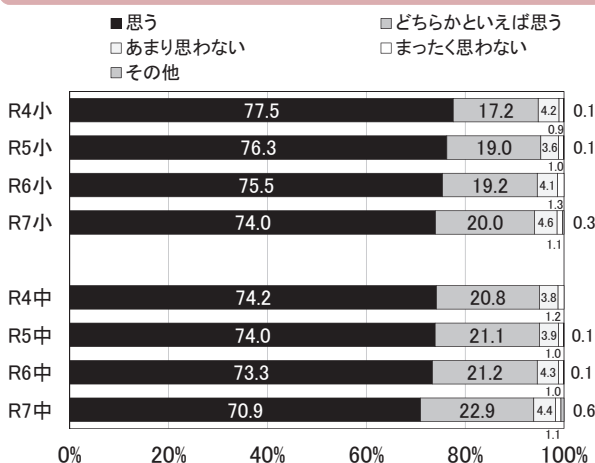
7/7 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



8/8 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



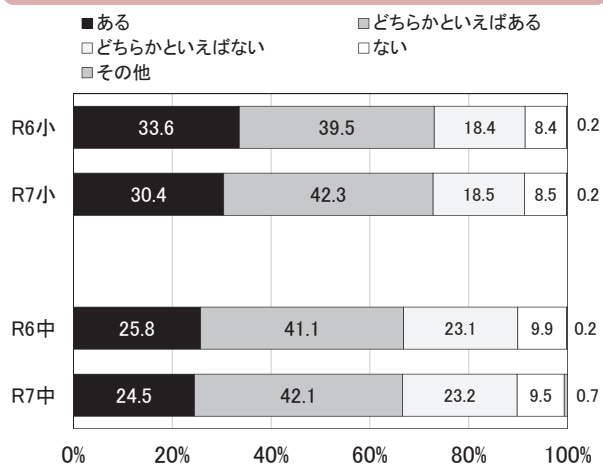
9/9 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



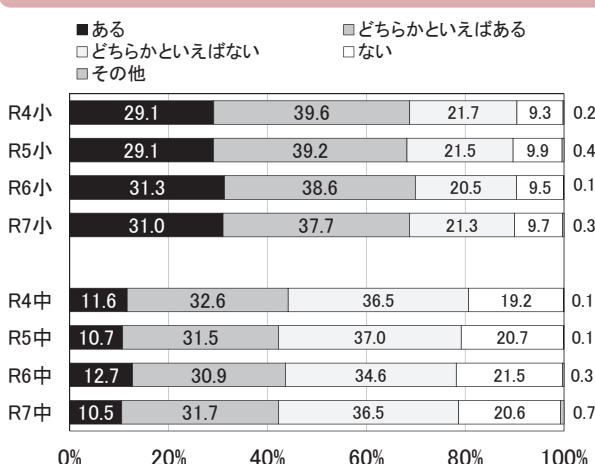
Ⅲ 児童生徒質問紙
調査結果・経年比較

3 社会への関心

10/10 世の中のニュースなどに関心がありますか。



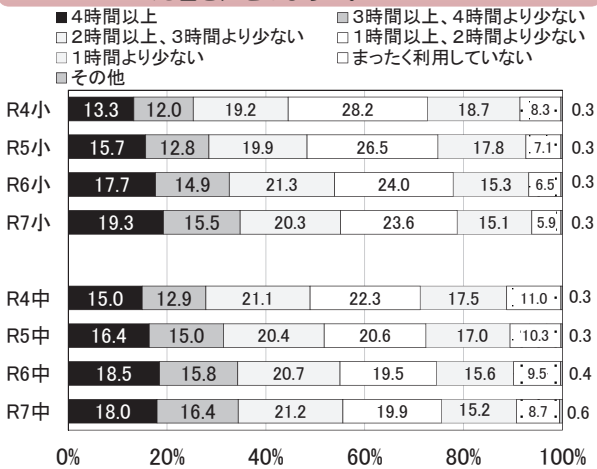
11/11 今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか。



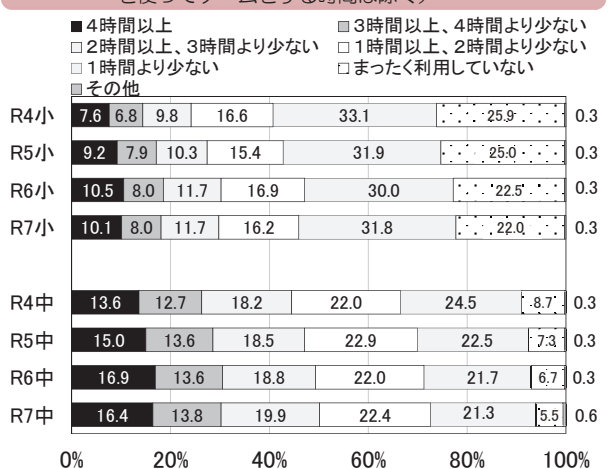
※「0.0」は省略しています。

4 メディアの利用

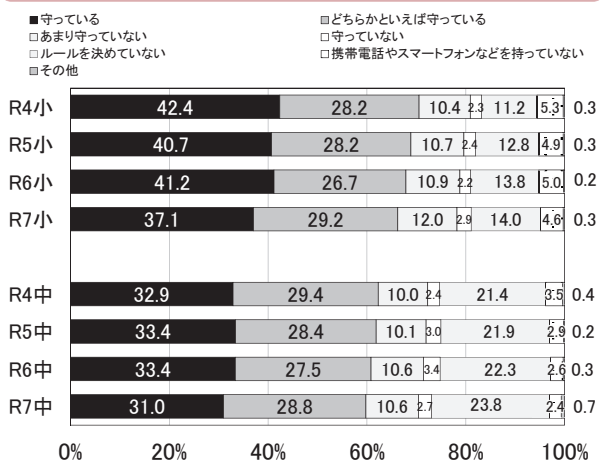
12/12 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



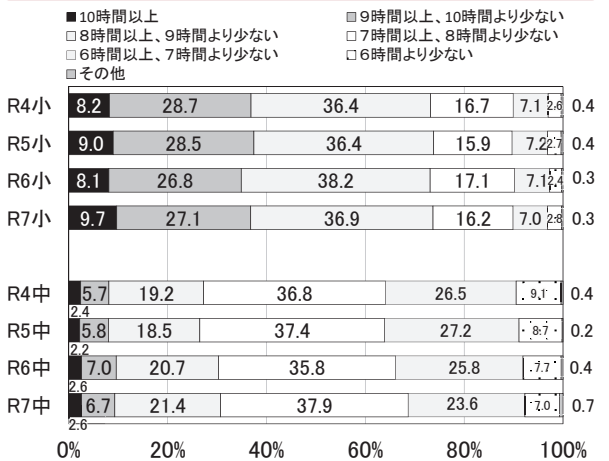
13/13 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



14/14 携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか。

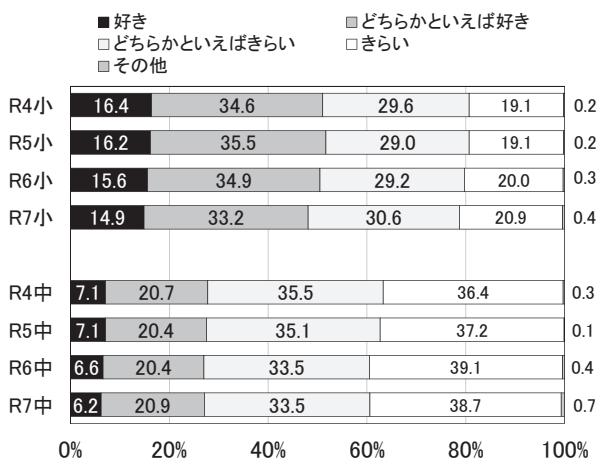


15/15 普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。

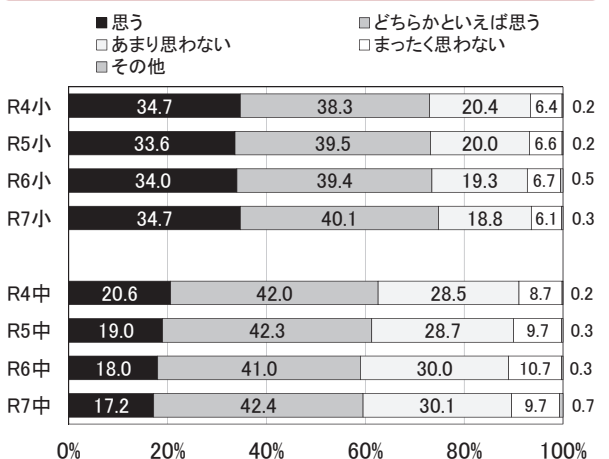


5 学習意欲・言語活動・ICTの活用等

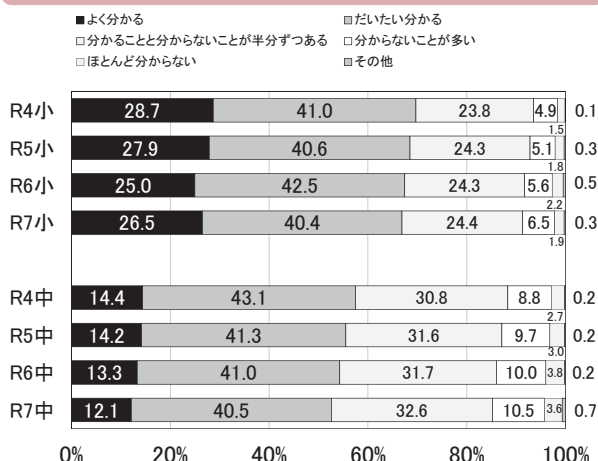
16/16 勉強は好きですか。



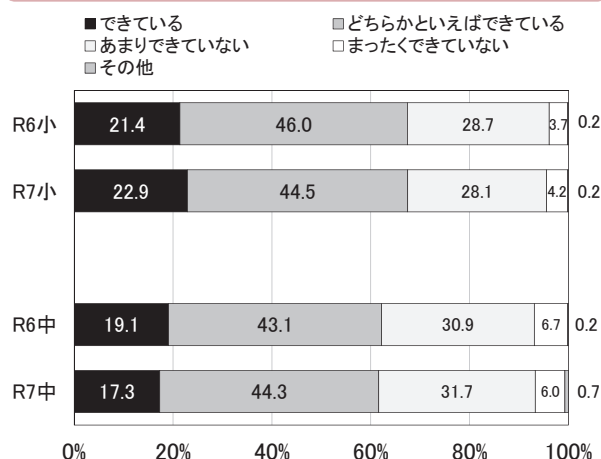
17/17 授業は楽しいと思いますか。



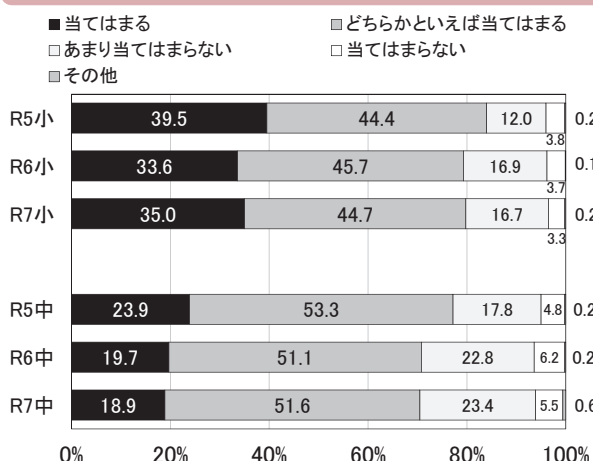
18/18 授業の内容がどの程度分かりますか。



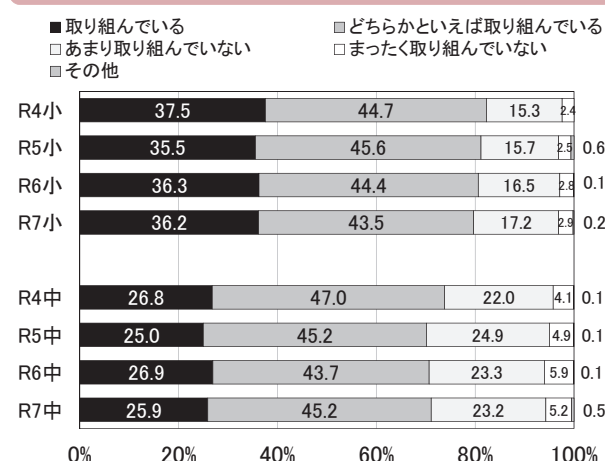
19/19 授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができますか。



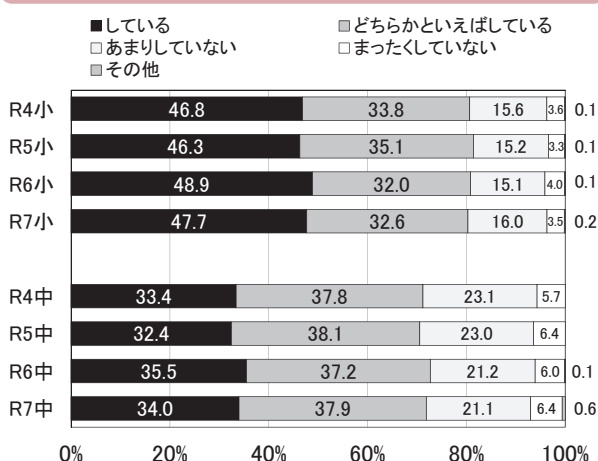
20/20 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。



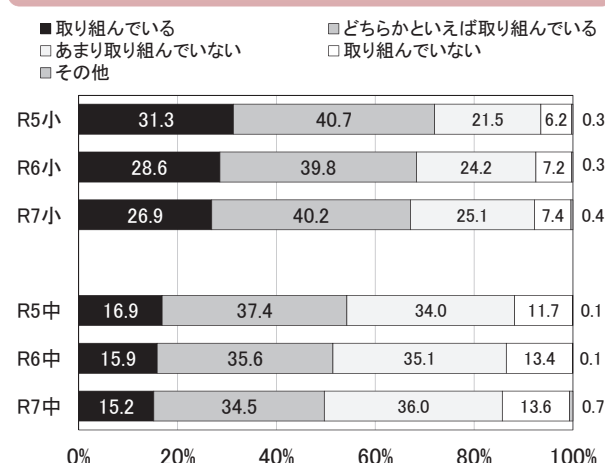
21/21 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。



22/22 分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。

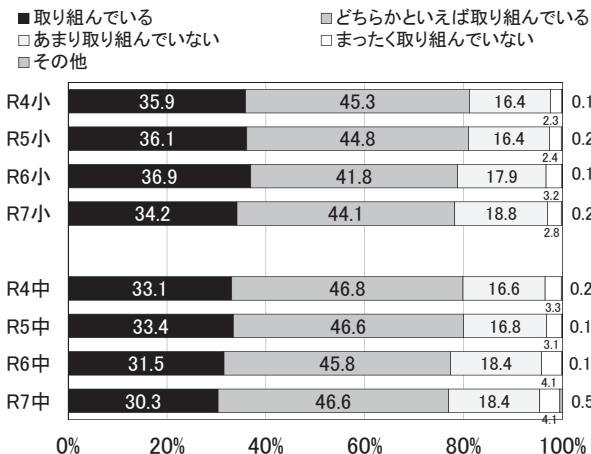


23/23 授業に、自分の目標（めあて・ねらい）をもって取り組んでいますか。

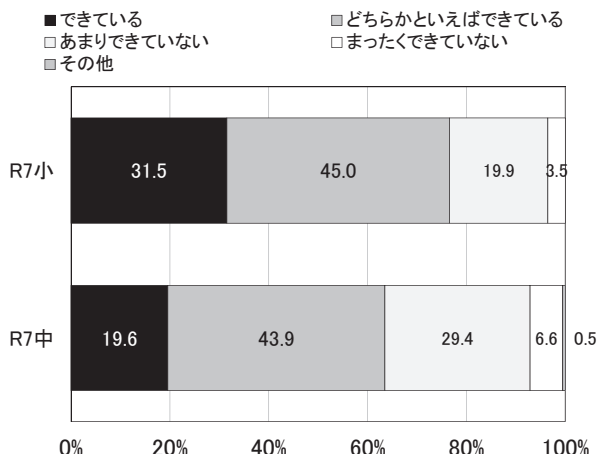


※「0.0」は省略しています。

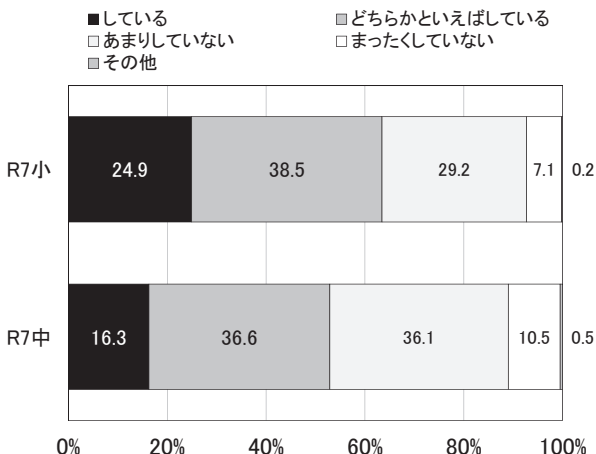
24/24 授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。



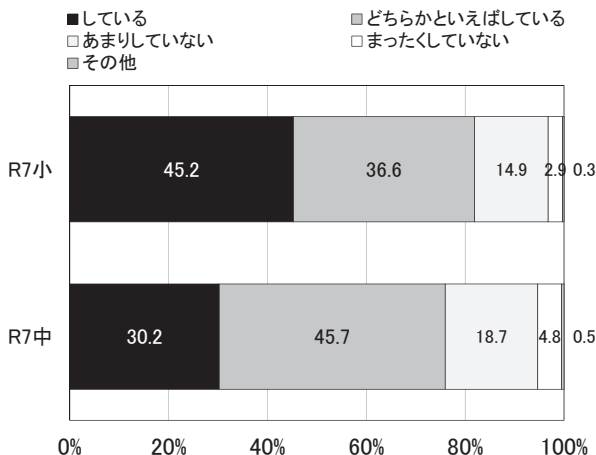
25/25 授業では、何ができたらいいのか、どうすれば解決できそうかという見通しをもって取り組むことができますか。



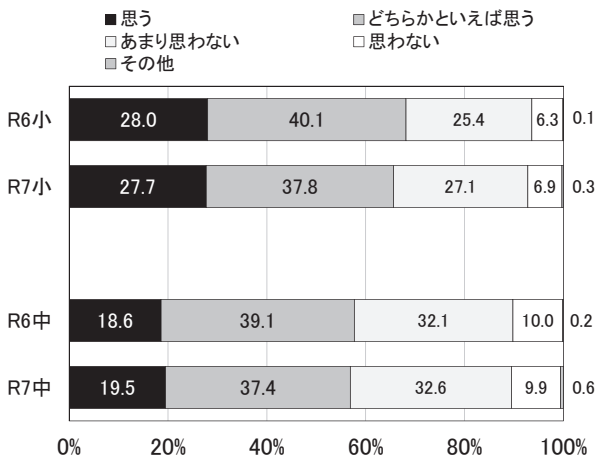
26/26 授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか。



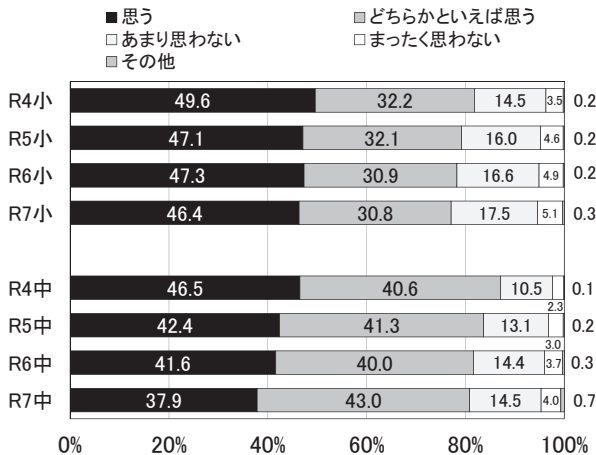
27/27 授業では、文章や資料等から分かることは何かを考えようとしていますか。



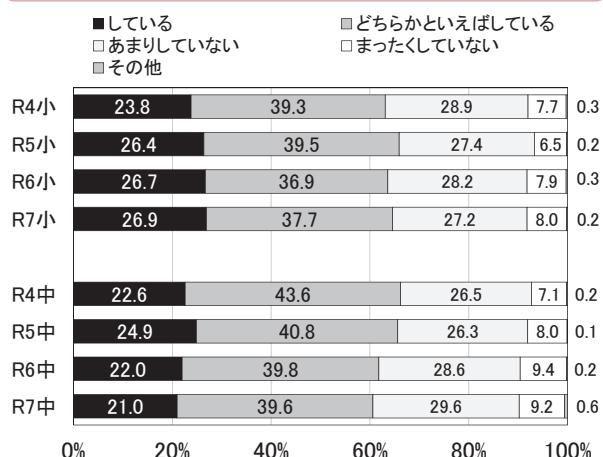
28/28 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点などを見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。



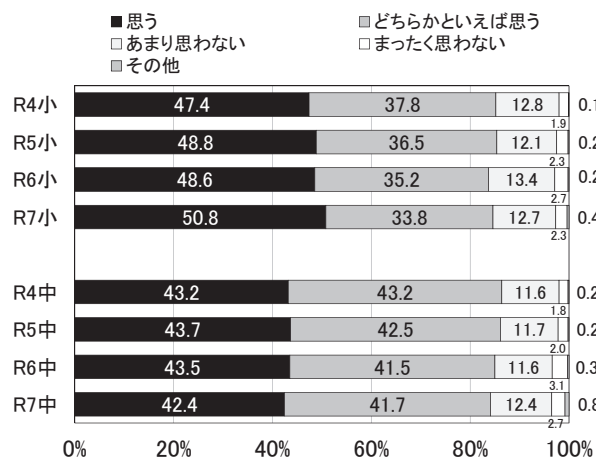
29/29 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



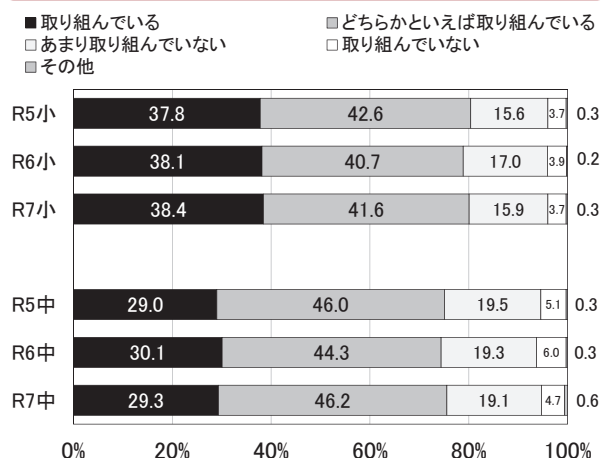
30/30 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。



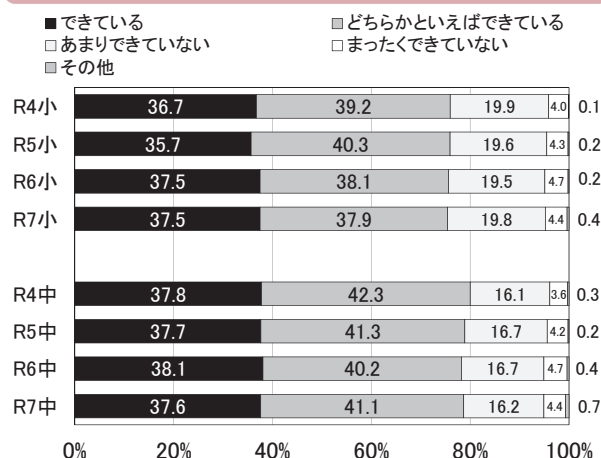
31/31 普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



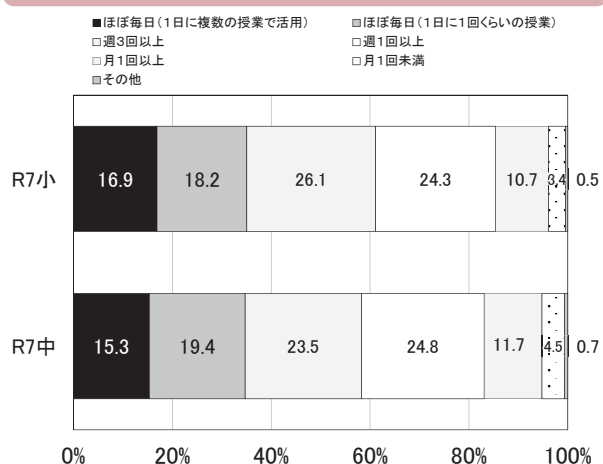
32/32 普通の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。



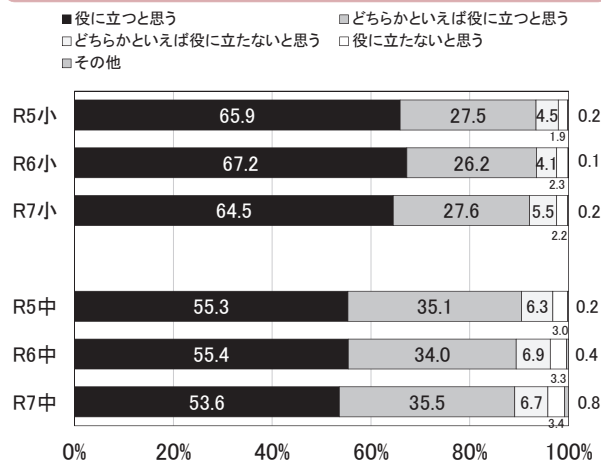
33/33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。



34/34 普通の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。

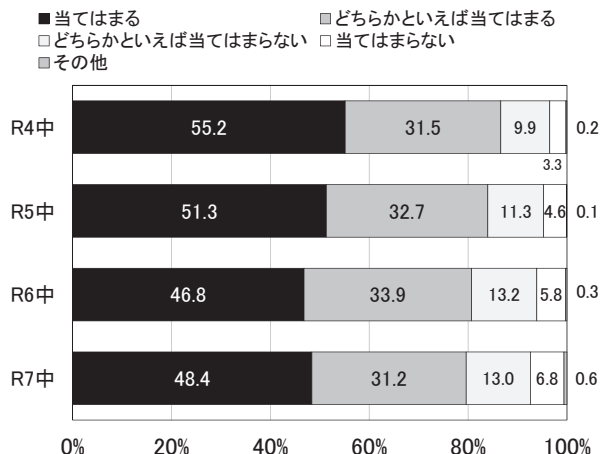


35/35 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



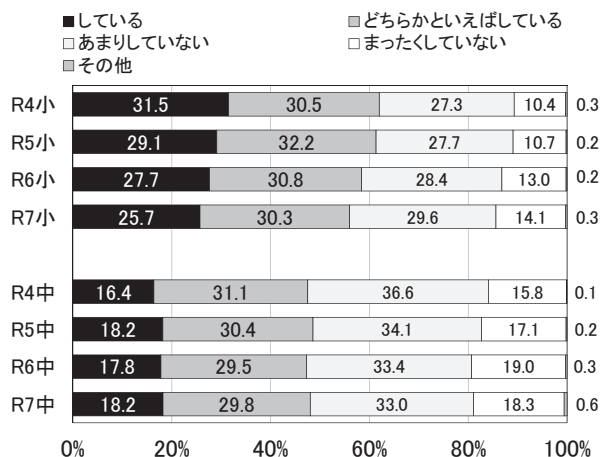
※「0.0」は省略しています。

※/36 英語の授業では、生徒同士で英語で問
答したり意見を述べ合ったりする活動
が行われていますか。

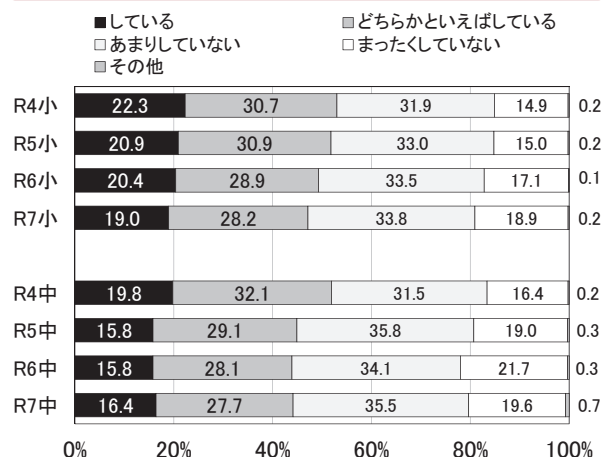


6 学習習慣

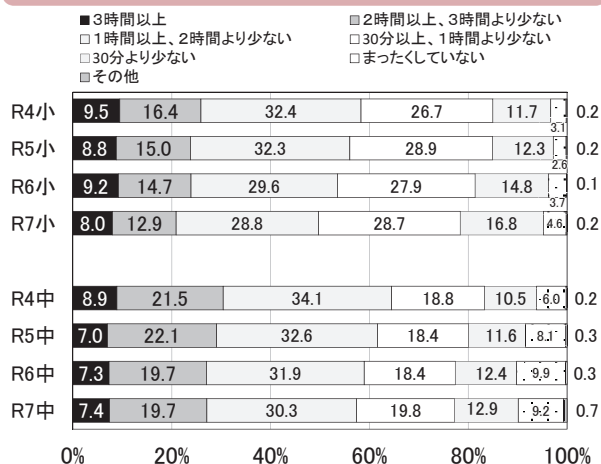
36/37 家で、自分で計画を立てて勉強をして
いますか。



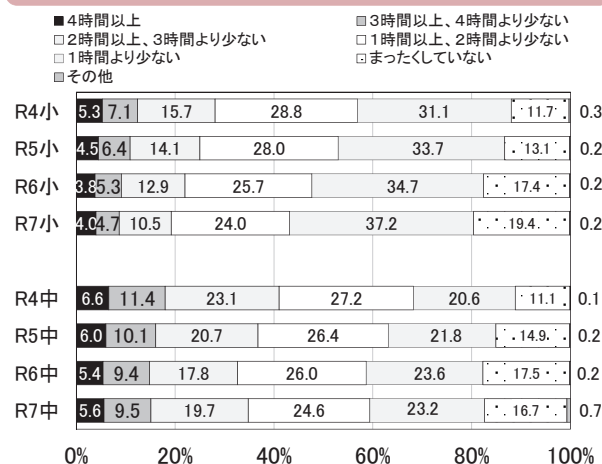
37/38 テストで間違えた問題について、間違
えたところを後で勉強していますか。



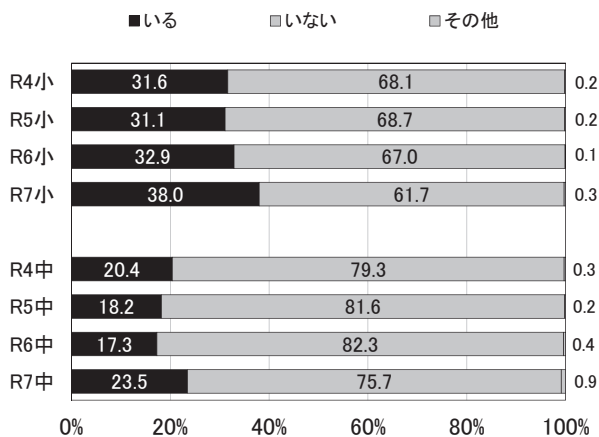
38/39 学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日あた
りどれくらいの時間、勉強をしますか。（宿題や学
習塾や家庭教師の時間もふくみます。）



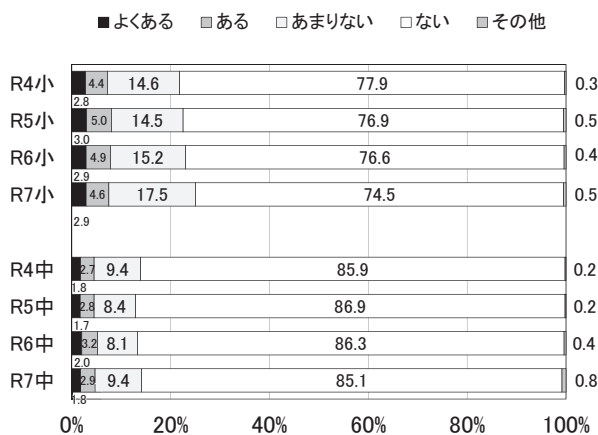
39/40 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり
どれくらいの時間、勉強をしますか。（宿題や学習
塾や家庭教師の時間もふくみます。）



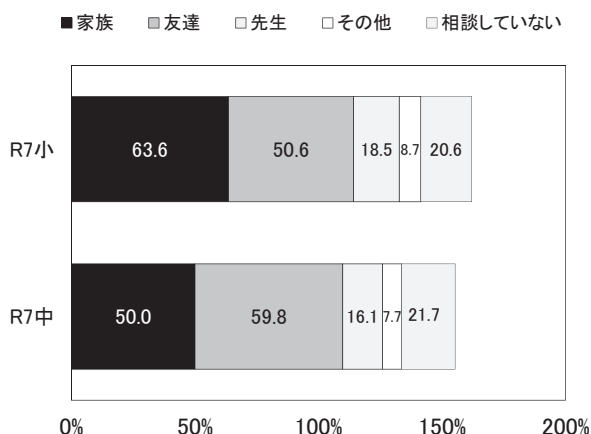
40/41 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。
（ここでお世話とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族のお世話を指します。）



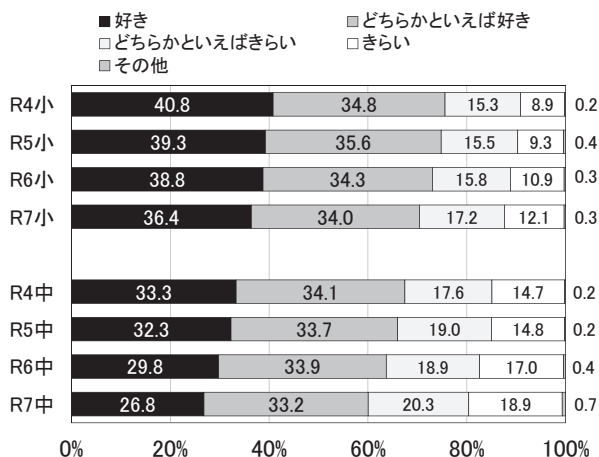
41/42 家族のお世話をしていることで、学校を休んだり、勉強や部活、遊びに時間がとれないなど、困っていることがありますか。



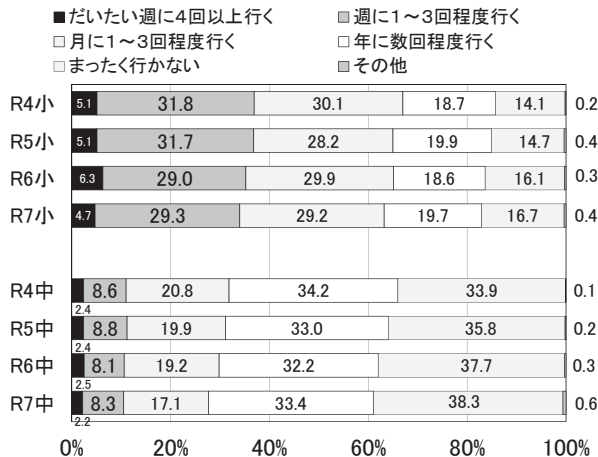
42/43 悩みや困ったことがあったとき、だれに相談していますか。（複数回答可）



43/44 読書は好きですか。

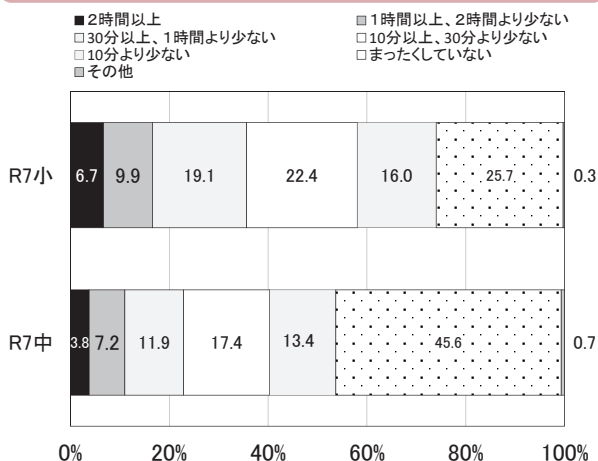


44/45 本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



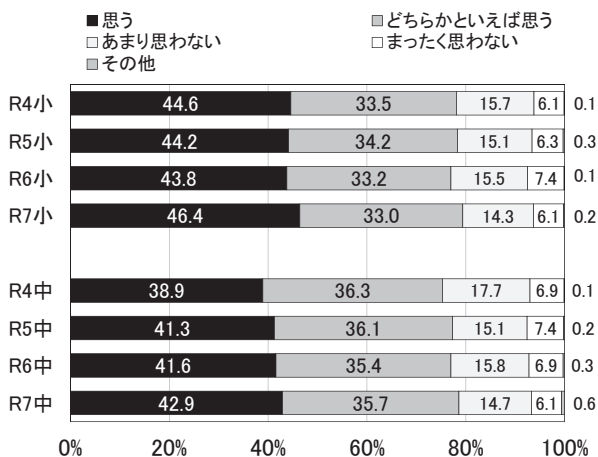
※「0.0」は省略しています。

45/46 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、読書を読みますか。（電子書籍をふくみます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）

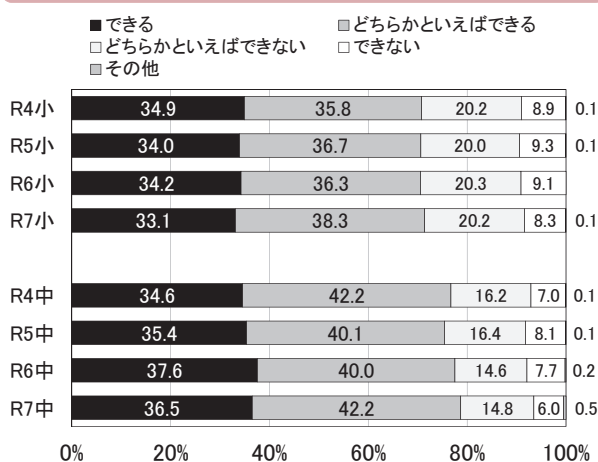


9 学校生活

46/47 学校に行くのは楽しいと思いますか。



47/48 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

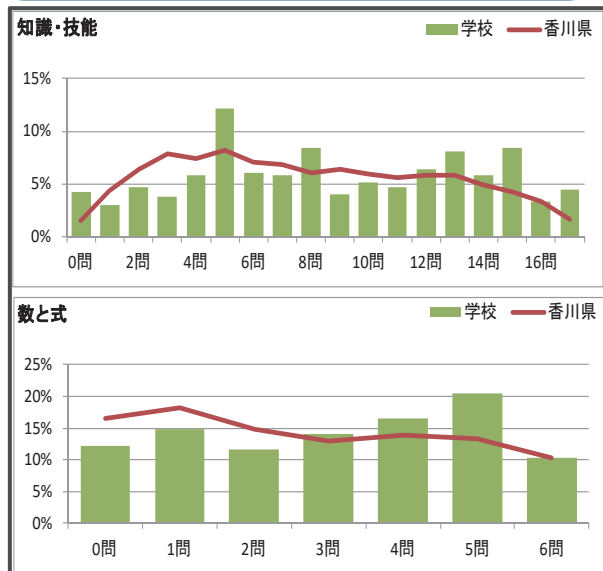


調査結果を学校課題の改善に活用しましょう！

各校にCD-ROMで調査結果が送付されています。全県調査結果との比較等ができますので、教育課程を評価する資料の一つとして分析・検証を行い、学校課題の改善に活用しましょう。

〈調査結果の一例〉

各教科の領域等別の習熟度から分析



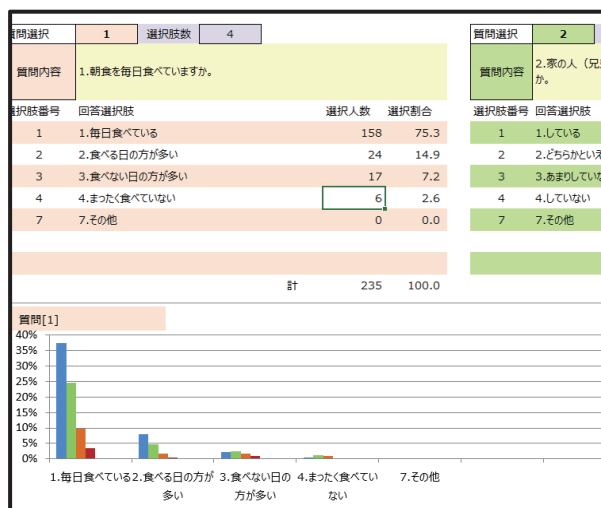
領域等別の習熟度の様子を棒グラフで示しています。平均点に捉われず、棒グラフの高低に着目して習熟度の散らばりを見ることが、授業改善につながります。

質問紙調査の結果一覧から分析

児童生徒質問紙調査結果										
質問No	質問内容	選択数	選択1	選択2	選択3	選択4	選択5	選択6	その他	肯定的割合
2-1	1.朝食を毎日食べていますか。	4	55.3	24.9	17.2	2.6			0.0	90.2
2-2	2.家の人（児童生徒はふくみません）と学校でのできごとについて話していますか。	4	58.1	23.2	14.0	4.7			0.0	81.3
2-3	3.夢の学習をしていますか。	4	17.0	43.0	33.2	6.8			0.0	60.8
2-4	4.ものを最後までやりとげ、うけしめたことがありますか。	4	67.7	26.3	4.7	1.3			0.0	94.0
2-5	5.むずかしいことでも、失敗をおそれずに挑戦していますか。	4	19.6	49.8	24.7	6.0			0.0	69.4
2-6	6.自分には、よいところがあると思いますか。	4	33.6	36.2	21.7	7.7			0.9	69.8
2-7	7.将来の夢や目標を定めていますか。	4	24.0	35.1	27.1	13.8			0.0	63.4
2-8	8.学校のルールを守っていますか。	4	58.4	38.7	2.0	0.4			0.4	97.0
2-9	9.係や委員の仕事など、自分の役割をきちんと果たしていますか。	4	61.7	33.9	3.5	0.9			0.0	95.3
2-10	10.人が困っているときは、助けてあげていますか。	4	34.9	56.6	7.0	1.5			0.0	91.5
2-11	11.近所の人と会ったときは、あいさつをしていますか。	4	41.8	37.7	14.0	6.4			0.0	79.6
2-12	12.人の気持ちを分かる人間になりたいと思いますか。	4	73.6	20.9	3.4	1.7			0.4	94.5

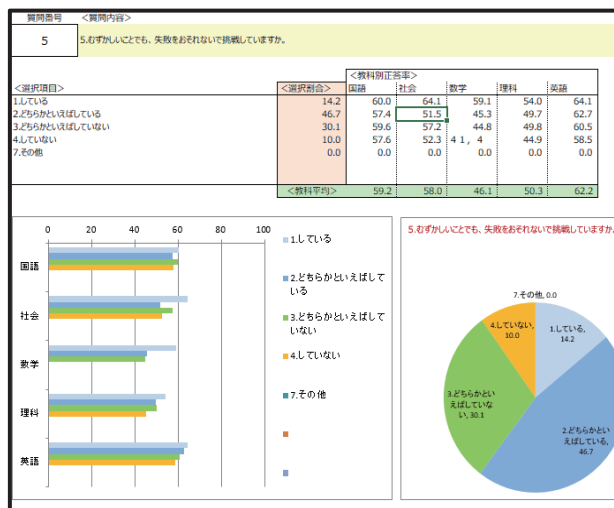
質問紙調査結果の一覧が示されます。並べ替えて肯定的割合が高い順番に表示することもできますので、児童生徒の成果や課題を把握する一つの材料となります。

質問×質問のクロス集計から分析



任意の質問の調査結果が、クロス集計で示されます。児童生徒の生活や学習の状況を把握し、指導内容・指導方法の工夫・改善につなげることができます。

質問×成績のクロス集計から分析



任意の質問の回答別各教科正答率が示されます。生活習慣の改善が、学習に向かう意識の変容につながることも考えられます。

分析・検証の際に整理した成果と課題に基づいて、年間指導計画や校内指導体制等を見直し、次年度計画の作成に生かすことでよりよい学校づくりを目指しましょう。さらに、児童生徒や保護者に対して、送付された個人成績表も加味しながらよさやつまずきの状況を伝え、今後の見通しをもつ機会を積極的に設けましょう。



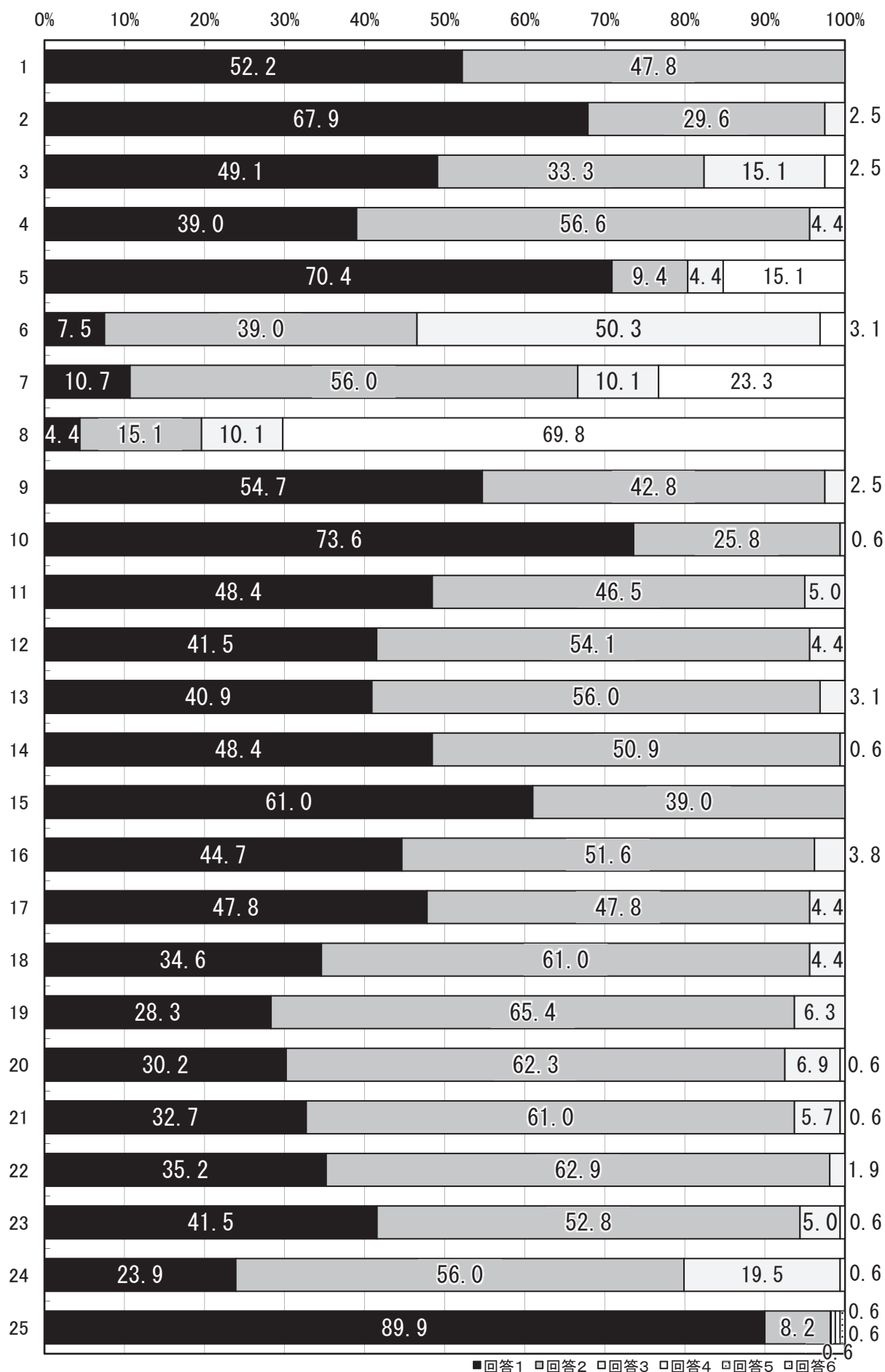
学校質問紙調査結果一覧

小学校調査結果①

番号	全国 関連	基本 計画 指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1			1 家庭・地域との連携	地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	はい	いいえ				
2				PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない		
3		◆		地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。	よく行った	どちらかといえば行った	あまり行っていない	全く行っていない		
4				「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有できるよう取り組んでいますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
5				「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」は、活用していますか。	学活等で指導した	1に加え懇談会で活用した	2に加え事後指導した	配布したが活用していない		
6				いじめの認知件数や学校いじめ対策組織の構成員を保護者等へ積極的に情報提供していますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
7				教室に入りにくい児童(生徒)に対してどのように支援を行っていますか。	別室を用意しているが、支援に当たる教員はいない	教員が交代しながら別室で過ごす児童(生徒)の支援に当たっている	専属の教員が別室で過ごす児童(生徒)の支援に当たっている	教室に入れない児童(生徒)はいない		
8				ヤングケアラーと思われる児童(生徒)について、学校以外の外部の支援につないだケースはありますか。	要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある	要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	外部の支援につないでいない(学校で対応している)	ヤングケアラーと思われる児童(生徒)はいなかった		
9			2 社会 育成・道徳性	学級活動や児童会・生徒会活動は、児童(生徒)による自発的・自治的な取り組みが推進されるよう指導、支援を行っていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
10				学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよさを見つけ、児童(生徒)や保護者に伝えるなど、積極的に評価していますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
11				保護者などに道徳の授業を公開しましたか。(本年度の予定を含む)	全学級で行った	一部の学級で行った	していない			
12	30		3 指導方法等について	学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
13				児童(生徒)の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
14				単元や授業で身に付けさせたい力を明らかにした上で、授業の計画を立てていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
15				授業の最初に、児童(生徒)が自分の目標(めあて・ねらい)をもてるように工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
16				授業の中で、児童(生徒)が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
17				学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を計画的に取り入れていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
18				授業で、児童(生徒)が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めるように授業を工夫していますか。	できている	どちらかといえばできている	あまりできていない	全くできていない		
19				授業で、児童(生徒)が課題解決に向けて試行錯誤する場を設けていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
20	32			授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
21				授業で、児童(生徒)が必要感をもって話し合いができるよう工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
22				普段の授業で、児童(生徒)の自由な発想や多様な考えを受け入れるなど誰もが参加しやすい学び合いになるように工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
23				普段の授業で、児童(生徒)が話し合う活動を通して、考えを広げたり深めたりする機会を設けていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
24				新聞や学校図書館等を活用した授業を行っていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
25	55			普段の授業で、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行っていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。

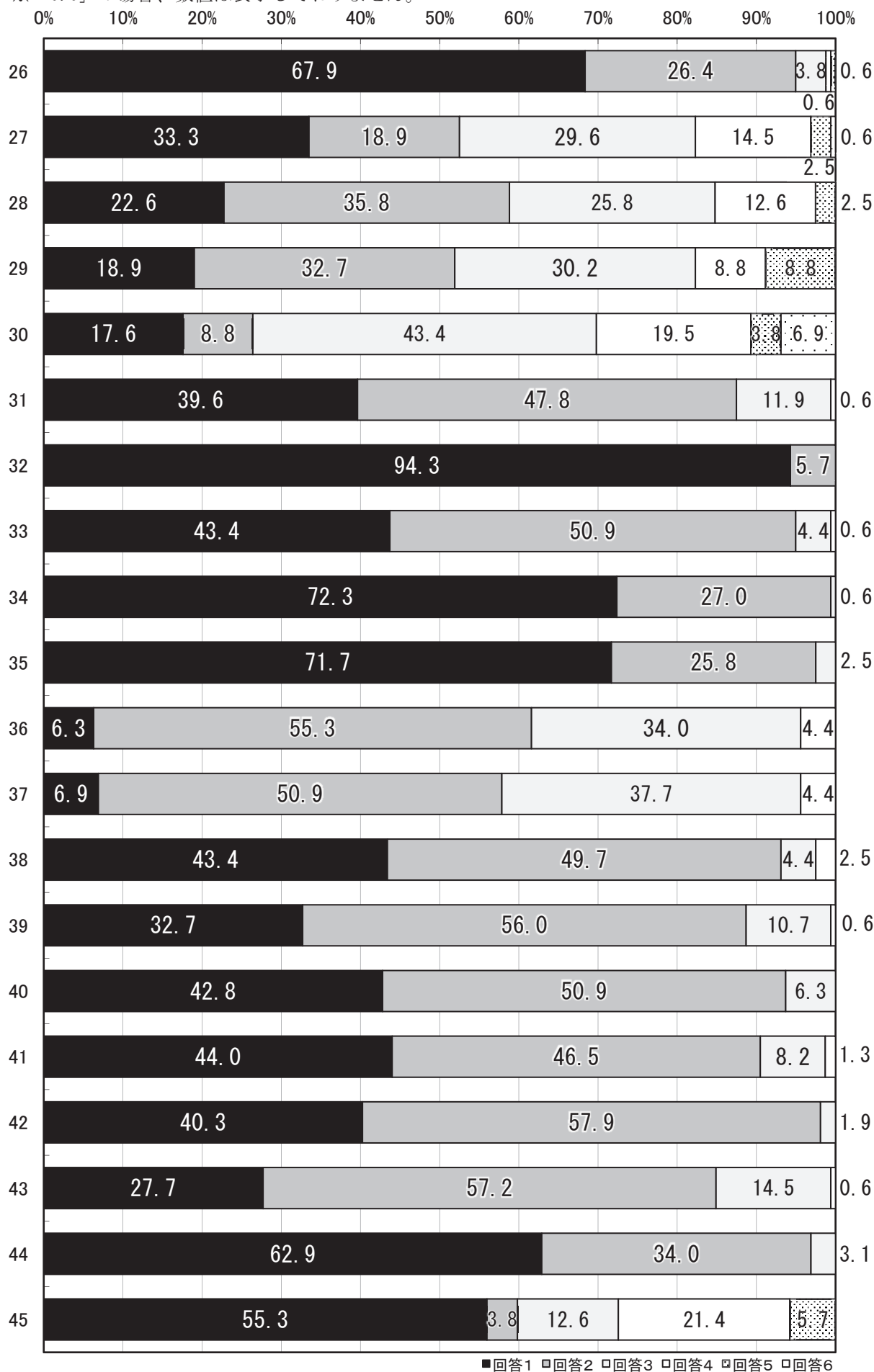


小学校調査結果②

番号	全国 関連	基本計 画指標	分類	質問項目	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6
26	58		3 指導 方法 等 につ いて	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、6年生(3年生)の授業で、どの程度活用していますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
27	59			6年生の児童(3年生の生徒)が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
28	60			6年生の児童(3年生の生徒)が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
29	62			6年生の児童(3年生の生徒)同士がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
30	66			児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	毎日持ち帰って、毎日利用させている	毎日持ち帰って、時々利用させている	時々持ち帰って、時々利用させている	持ち帰らせていない	持ち帰らせてはいけないこととしている	臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている
31		(◆)		「ふるさと教材」等を活用した、ふるさとの素晴らしさを実感させる授業を行っていますか。(社会科や道徳科等での、ふるさとや身近な地域・郷土に関する授業も含む)	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
32				小・中が連携し、小学6年生の児童に対して、中学校への進学に対する不安をなくすための取組みを行いましたか。(予定を含む)	はい	いいえ				
33	80		4 家庭 学習	家庭学習の取組みとして、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
34			5 学校 経営 他	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組みに当たっていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
35				模擬授業や研究授業、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
36				現職教育等で「学校教育実践の手引き」を活用していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
37				現職教育等で「生徒指導提要(改訂版)」を活用していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
38				前年度、県の学習状況調査の結果を分析し、具体的な授業や評価の改善に取り組んだり次年度の指導計画に反映させたりしましたか。	よくした	どちらかといえばした	あまりしなかった	全くしなかった		
39				ノー会議デーやノー残業デーの設置等、教職員が定時に退勤しやすい職場環境づくりに取り組んでいますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
40	56			教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか。	ある	どちらかといえば、ある	どちらかといえば、ない	ない		
41	57			コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない		
42				ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか。	よく取り組んでいる	どちらかといえば、取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない		
43				校務の改善や効率化等により、教職員の退庁時刻は早くなっていますか。	早くなっている	どちらかといえば早くなっている	あまり早くなっていない	早くなっていない		
44				教職員は、毎月の自分の時間外在校等時間を把握していますか。	把握できている	どちらかといえば把握できている	あまり把握できていない	把握できていない		
45				就学前教育と小学校教育の相互理解を図り、校区において幼保小による架け橋期のカリキュラムを作成し実施していますか。	作成し、実施している	作成しているが、実施できていない	作成中である	作成していないが、作成を検討している	作成する予定はない	

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。



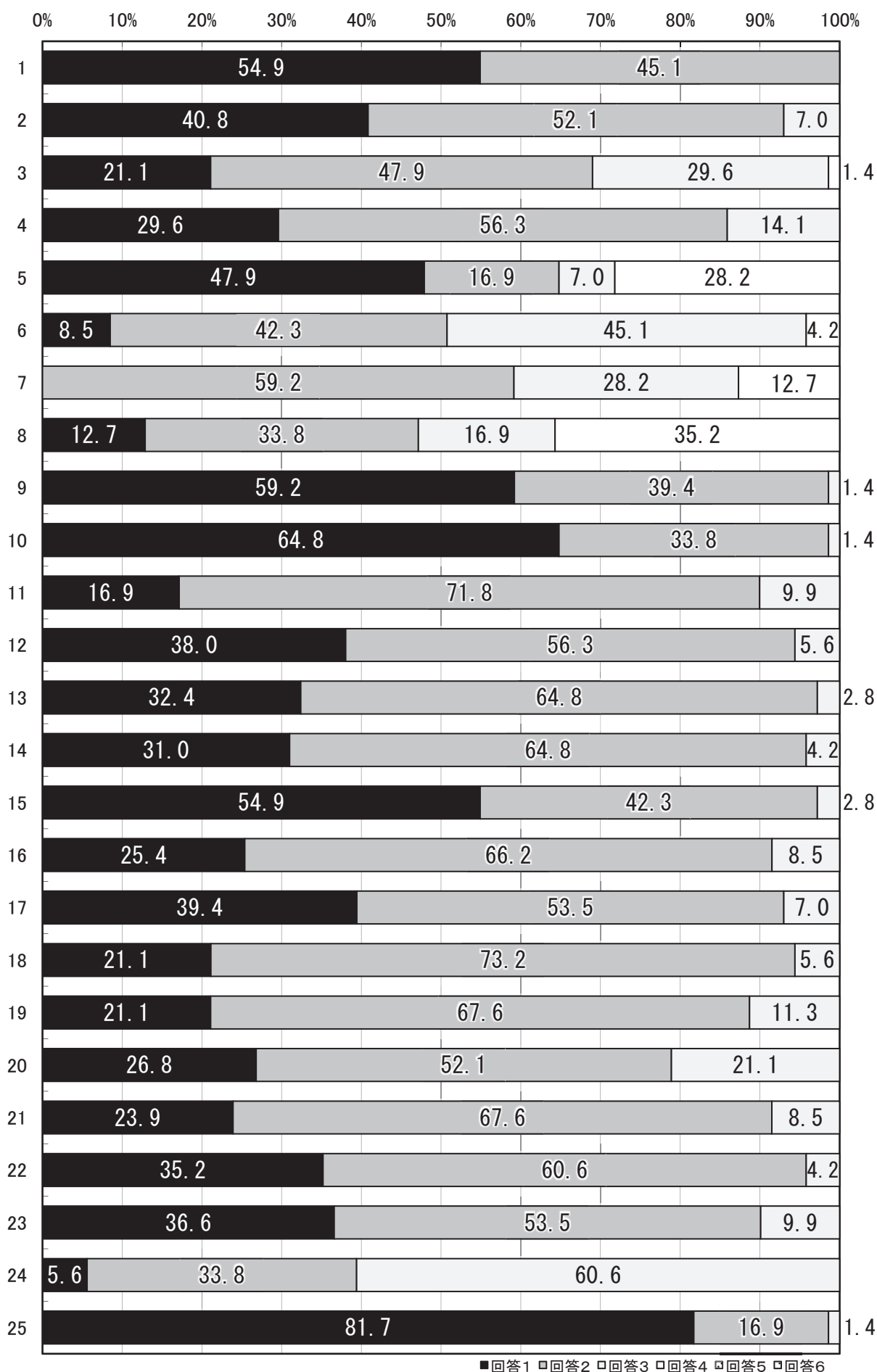
■回答1 □回答2 □回答3 □回答4 □回答5 □回答6

中学校調査結果①

番号	全国 関連	基本計 画指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1			1 家庭・ 地域との 連携	地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。	はい	いいえ				
2				PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない		
3		◆		地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。	よく行った	どちらかといえば行った	あまり行っていない	全く行っていない		
4				「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有できるよう取り組んでいますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
5				「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」は、活用していますか。	学活等で指導した	1に加え懇談会で活用した	2に加え事後指導した	配布したが活用していない		
6				いじめの認知件数や学校いじめ対策組織の構成員を保護者等へ積極的に情報提供していますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
7				教室に入りにくい児童(生徒)に対してどのように支援を行っていますか。	別室を用意しているが、支援に当たる教員はいない	教員が交代しながら別室で過ごす児童(生徒)の支援に当たっている	専属の教員が別室で過ごす児童(生徒)の支援に当たっている	教室に入れない児童(生徒)はいない		
8				ヤングケアラーと思われる児童(生徒)について、学校以外の外部の支援につないだケースはありますか。	要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある	要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	外部の支援につないでいない(学校で対応している)	ヤングケアラーと思われる児童(生徒)はいなかった		
9			2 社会 育性・ 道徳性	学級活動や児童会・生徒会活動は、児童(生徒)による自発的・自治的な取組みが推進されるよう指導、支援を行っていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
10				学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよさを見付け、児童(生徒)や保護者に伝えるなど、積極的に評価していますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
11				保護者などに道徳の授業を公開しましたか。(本年度の予定を含む)	全学級で行った	一部の学級で行った	していない			
12	30		3 指導 方法等 について	学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
13				児童(生徒)の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
14				単元や授業で身に付けさせたい力を明らかにした上で、授業の計画を立てていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
15				授業の最初に、児童(生徒)が自分の目標(めあて・ねらい)をもてるように工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
16				授業の中で、児童(生徒)が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
17				学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を計画的に取り入れていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
18				授業で、児童(生徒)が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めるように授業を工夫していますか。	できている	どちらかといえばできている	あまりできていない	全くできていない		
19				授業で、児童(生徒)が課題解決に向けて試行錯誤する場を設けていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
20	32			授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
21				授業で、児童(生徒)が必要感をもって話し合いができるよう工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
22				普段の授業で、児童(生徒)の自由な発想や多様な考えを受け入れるなど誰もが参加しやすい学び合いになるように工夫していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
23				普段の授業で、児童(生徒)が話し合う活動を通して、考えを広げたり深めたりする機会を設けていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
24				新聞や学校図書館等を活用した授業を行っていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
25	55			普段の授業で、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行っていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。



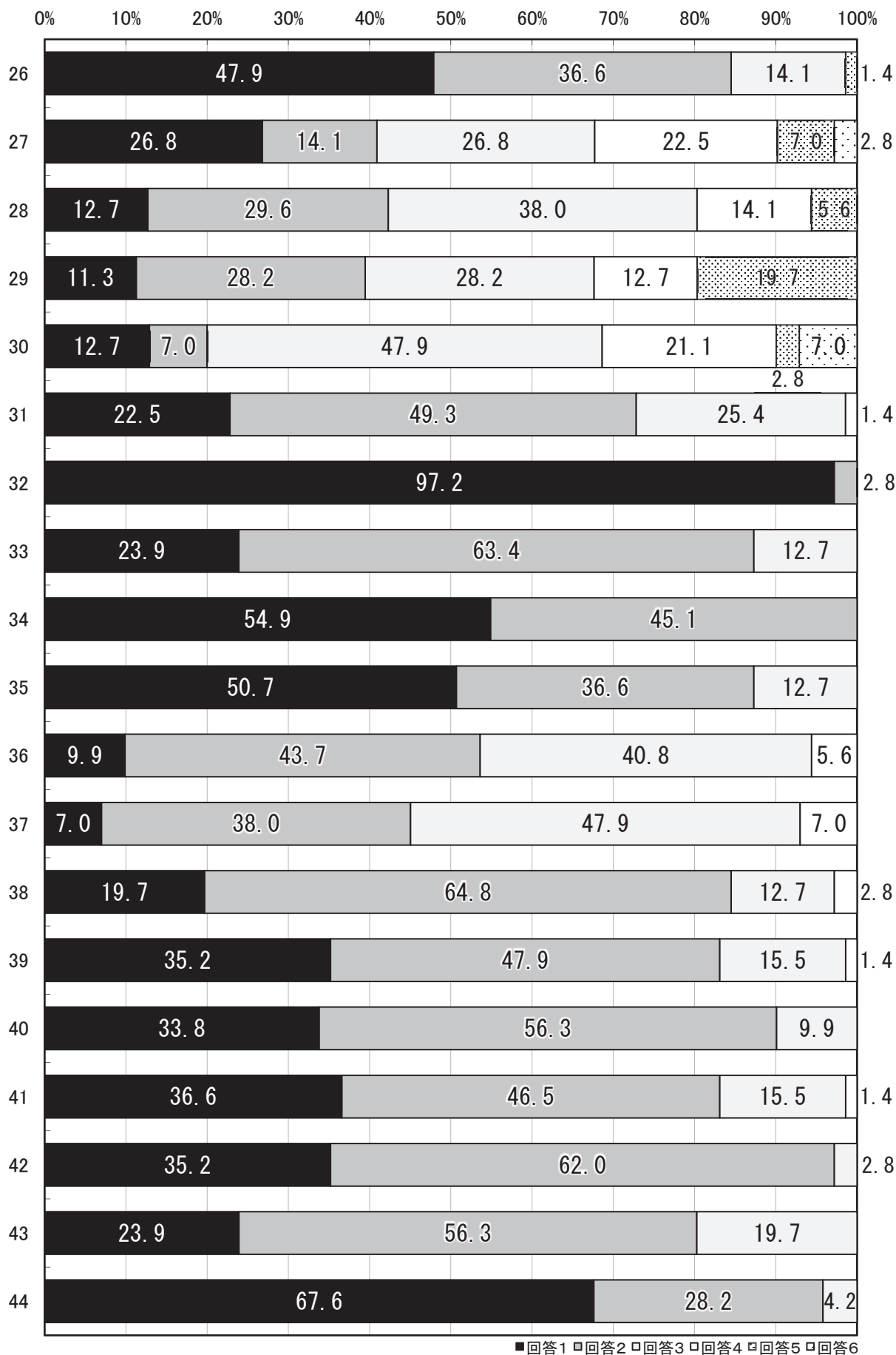
■回答1 □回答2 □回答3 □回答4 □回答5 □回答6

中学校調査結果②

番号	全国 関連	基本計 画指標	分類	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
26	58		3 指導 方法 等 に つ い て	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、6年生(3年生)の授業で、どの程度活用していますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
27	59			6年生の児童(3年生の生徒)が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
28	60			6年生の児童(3年生の生徒)が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
29	62			6年生の児童(3年生の生徒)同士がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満	
30	66			児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	毎日持ち帰って、毎日利用させている	毎日持ち帰って、時々利用させている	時々持ち帰って、時々利用させている	持ち帰らせていない	持ち帰らせてはいけな いこととして いる	臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとして いる
31		◆		「ふるさと教材」等を活用した、ふるさとの素晴らしさを実感させる授業を行っていますか。(社会科や道徳科等での、ふるさとや身近な地域・郷土に関する授業も含む)	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
32				小・中が連携し、小学6年生の児童に対して、中学校への進学に対する不安をなくすための取組みを行いましたか。(予定を含む)	はい	いいえ				
33	80		4 家 庭 学 習	家庭学習の取組みとして、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。	よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない		
34			5 学 校 経 営 他	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組みに当たっていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
35				模擬授業や研究授業、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
36				現職教育等で「学校教育実践の手引き」を活用していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
37				現職教育等で「生徒指導提要(改訂版)」を活用していますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
38				前年度、県の学習状況調査の結果を分析し、具体的な授業や評価の改善に取り組んだり次年度の指導計画に反映させたりしましたか。	よくした	どちらかといえばした	あまりしなかった	全くしなかった		
39				ノー会議デーやノー残業デーの設置等、教職員が定時に退勤しやすい職場環境づくりに取り組んでいますか。	よくしている	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない		
40	56			教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか。	ある	どちらかといえば、ある	どちらかといえば、ない	ない		
41	57			コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない		
42				ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか。	よく取り組んでいる	どちらかといえば、取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない		
43				校務の改善や効率化等により、教職員の退庁時刻は早くなっていますか。	早くなっている	どちらかといえば早くなっている	あまり早くなっていない	早くなっていない		
44				教職員は、毎月の自分の時間外在校等時間を把握していますか。	把握できている	どちらかといえば把握できている	あまり把握できていない	把握できていない		

※「その他」を含んでいないため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

※「0.0」の場合、数値は表示しておりません。

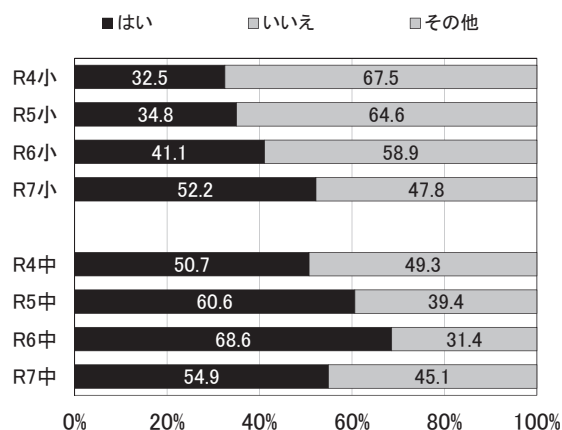


■回答1 □回答2 □回答3 □回答4 □回答5 □回答6

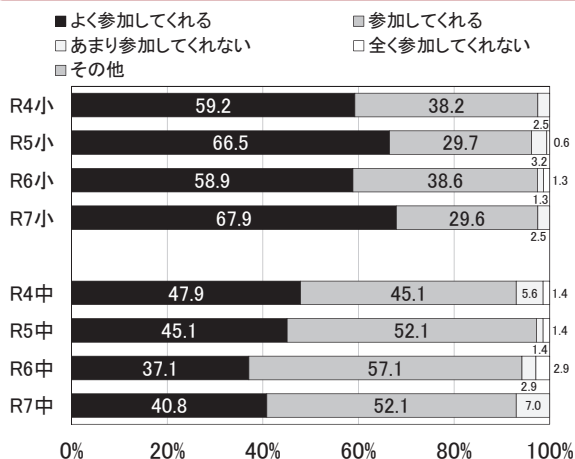
1

家庭・地域との連携

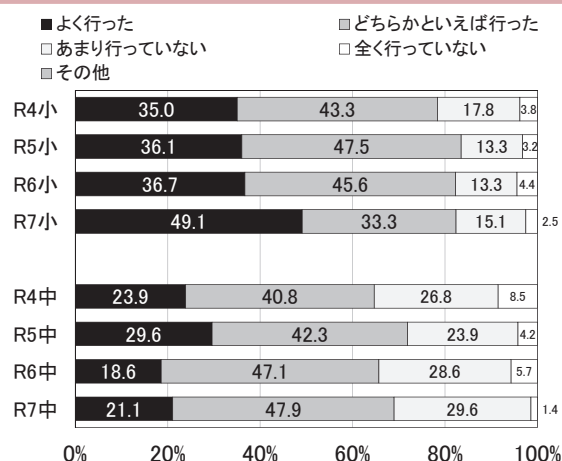
1 地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか。



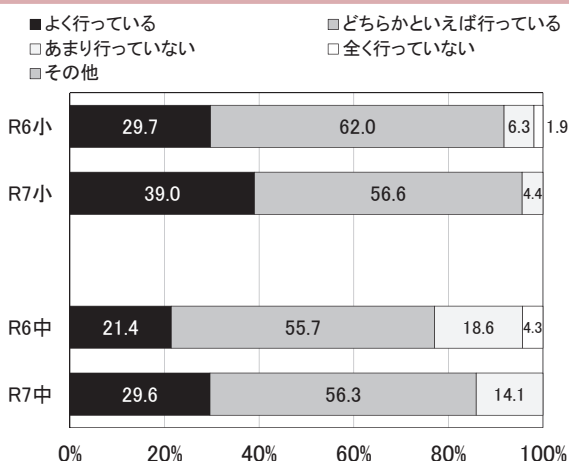
2 PTAや地域の人々が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。



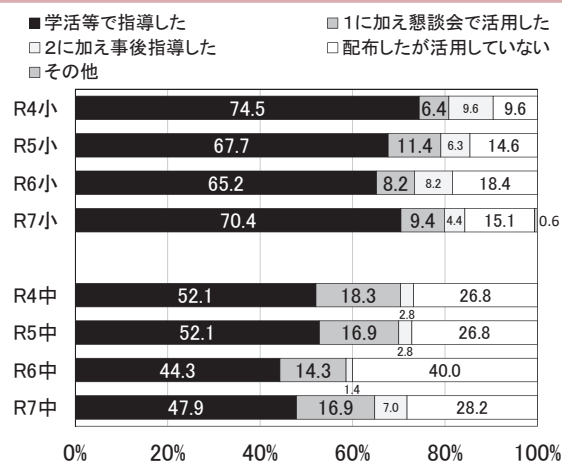
3 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。



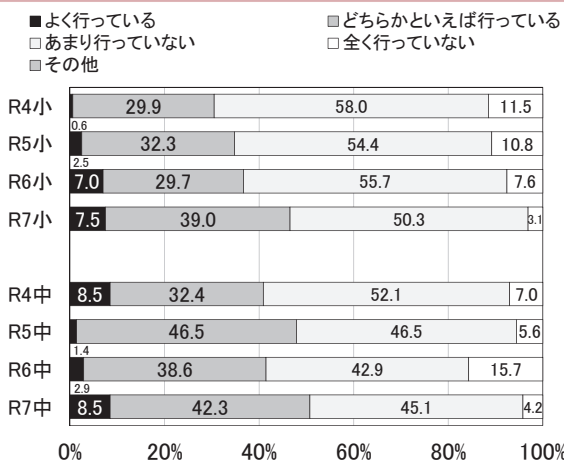
4 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有できるように取り組んでいますか。



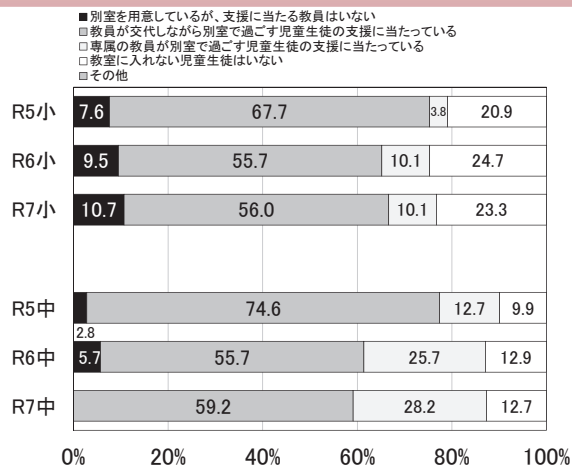
5 「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」は、活用していますか。



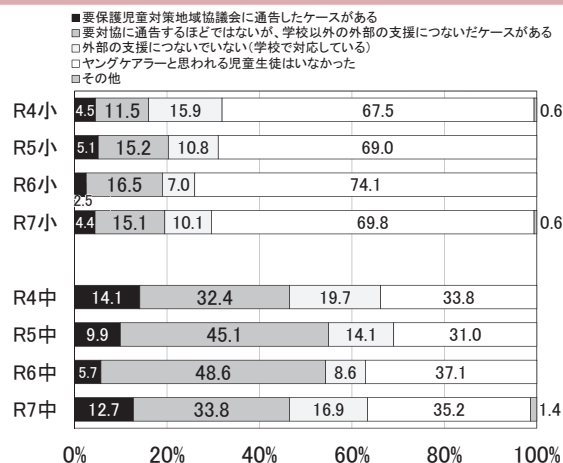
6 いじめの認知件数や学校いじめ対策組織の構成員を保護者等へ積極的に情報提供していますか。



7 教室に入りにくい児童生徒に対してどのように支援を行っていますか。

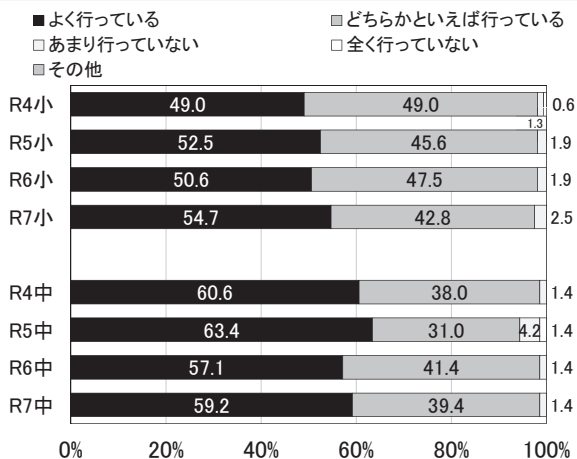


8 ヤングケアラーと思われる児童生徒について、学校以外の外部の支援につないだケースはありますか。

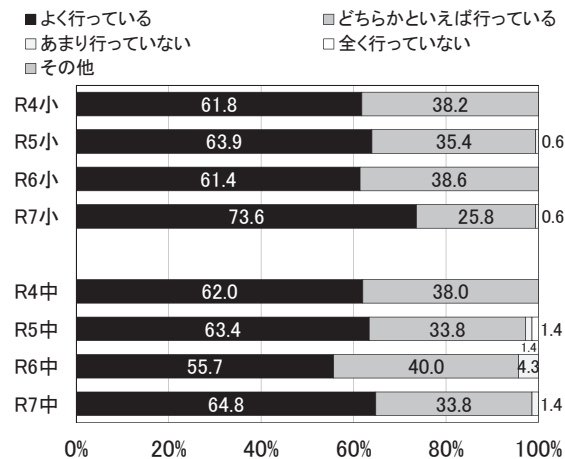


2 社会性・道徳性の育成

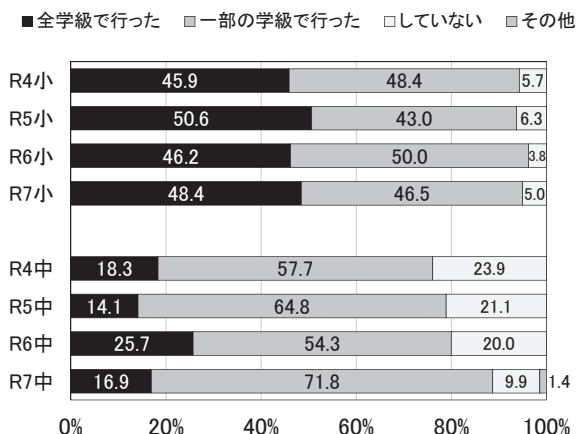
9 学級活動や児童会・生徒会活動は、児童生徒による自発的・自治的な取組みが推進されるよう指導、支援を行っていますか。



10 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよさを見付け、児童生徒や保護者に伝えるなど、積極的に評価していますか。



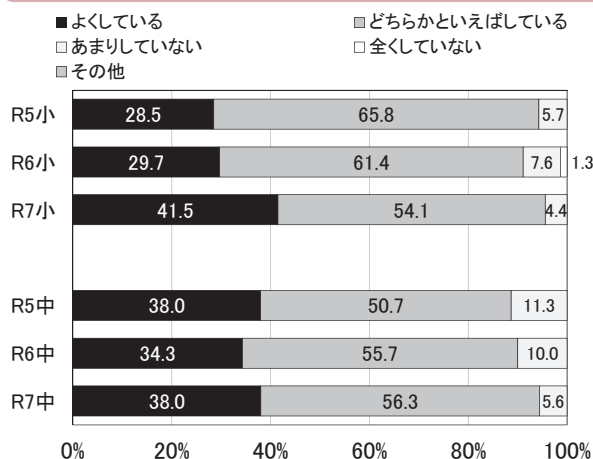
11 保護者などに道徳の授業を公開しましたか。(本年度の予定を含む)



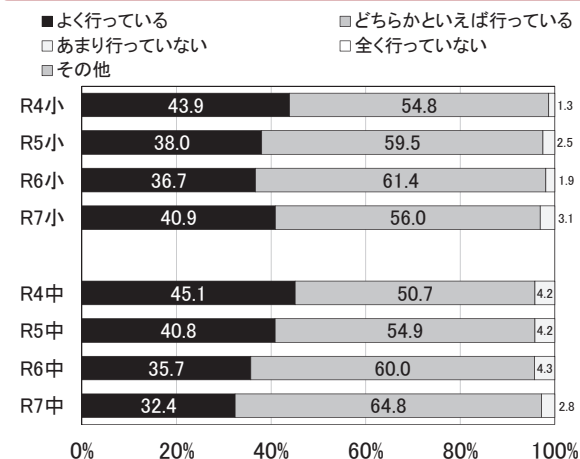
※「0.0」は省略しています。

3 指導方法等について

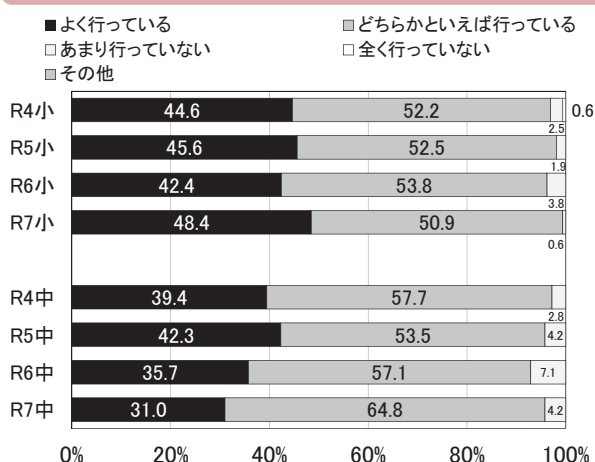
12 学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していますか。



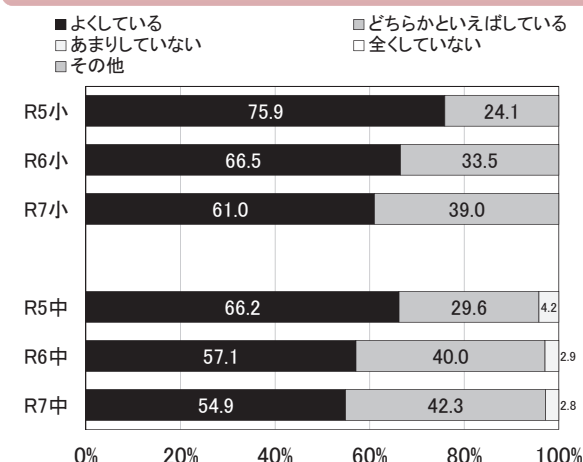
13 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。



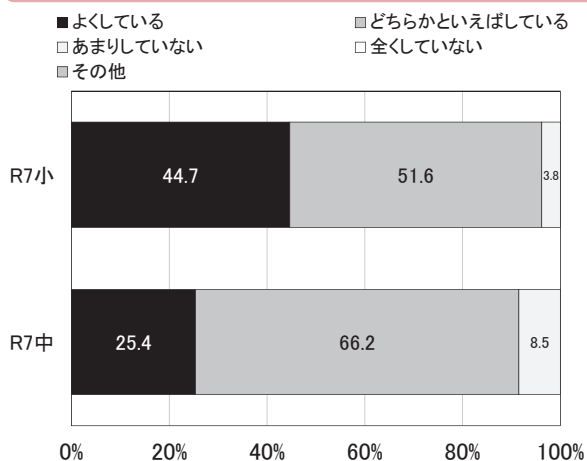
14 単元や授業で身に付けさせたい力を明らかにした上で、授業の計画を立てていますか。



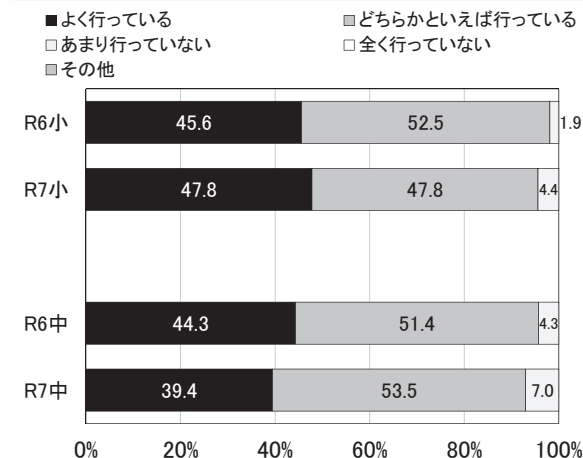
15 授業の最初に、児童生徒が自分の目標（めあて・ねらい）をもてるように工夫していますか。



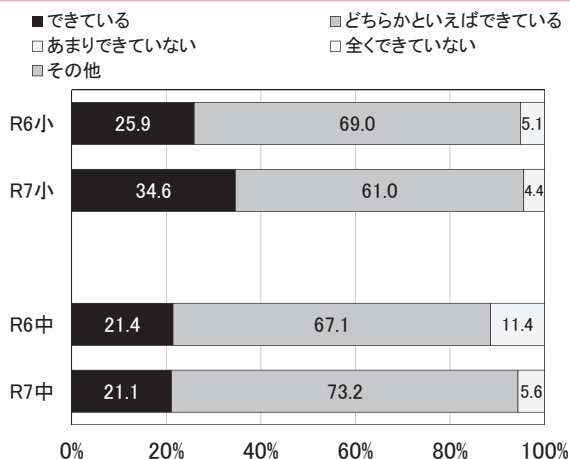
16 授業の中で、児童生徒が自己選択・自己決定できる場を意図的に位置付けていますか。



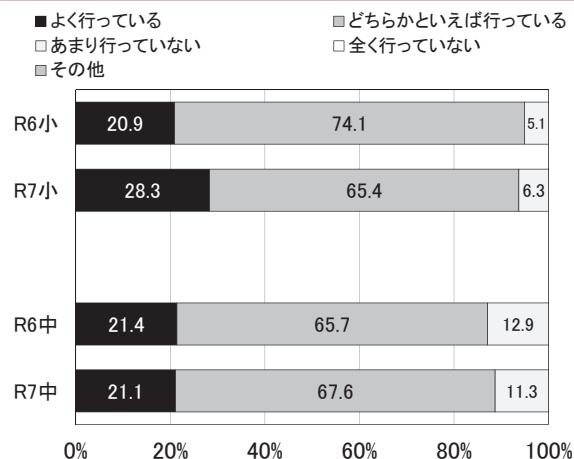
17 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を計画的に取り入れていますか。



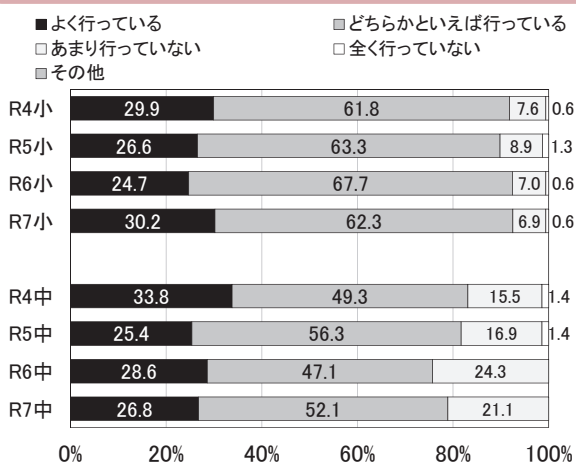
18 授業で、児童生徒が課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組めるように授業を工夫していますか。



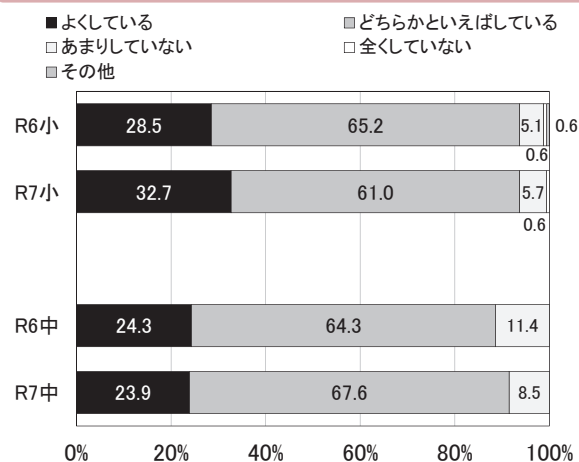
19 授業で、児童生徒が課題解決に向けて試行錯誤する場を設けていますか。



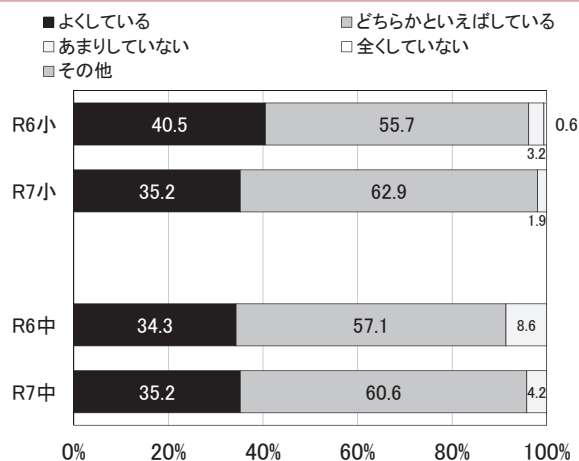
20 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていますか。



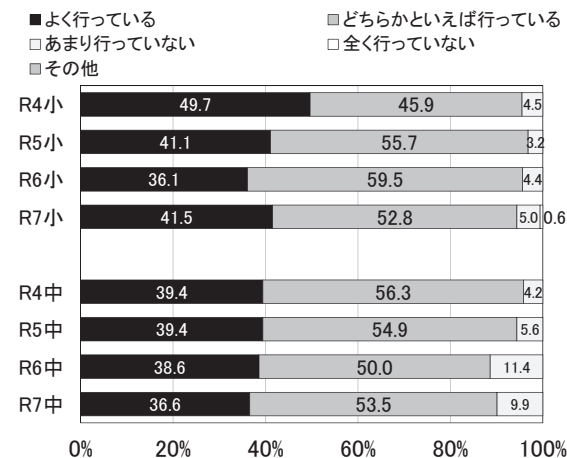
21 授業で、児童生徒が必要感をもって話し合いができるよう工夫していますか。



22 普通の授業で、児童生徒の自由な発想や多様な考えを受け入れるなど誰もが参加しやすい学び合いになるように工夫していますか。

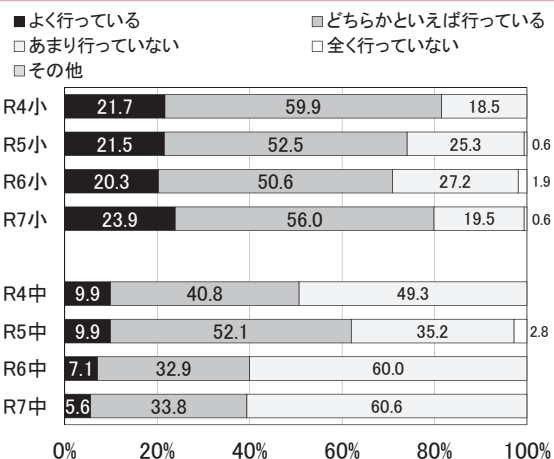


23 普通の授業で、児童生徒が話し合う活動を通して、考えを広げたり深めたりする機会を設けていますか。

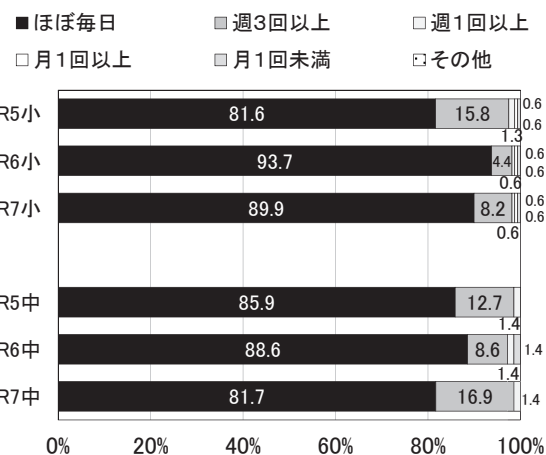


※「0.0」は省略しています。

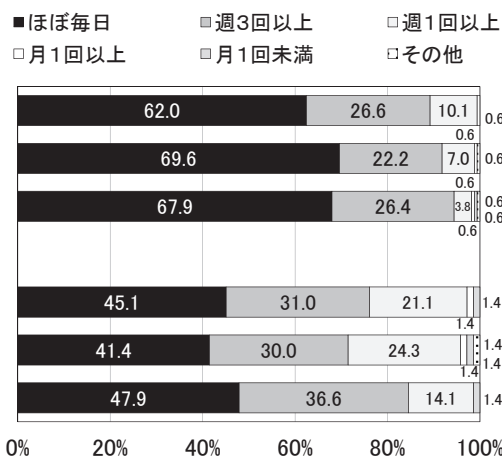
24 新聞や学校図書館等を活用した授業を行っていますか。



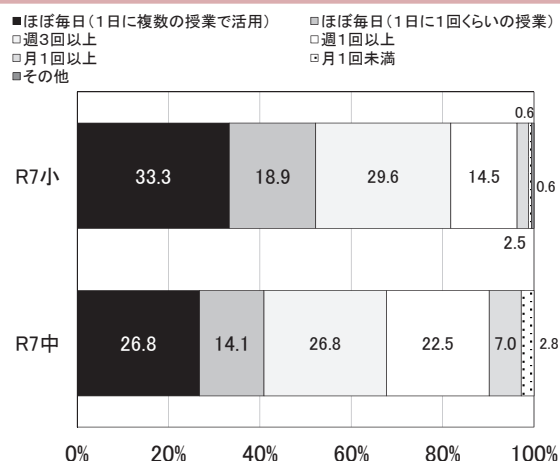
25 普段の授業で、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行っていますか。



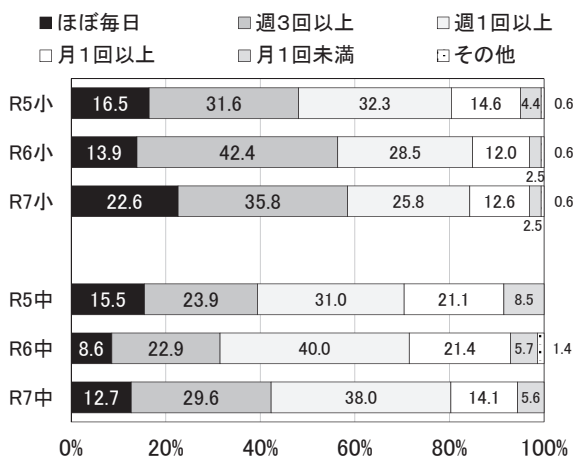
26 児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、6年生（3年生）の授業で、どの程度活用していますか。



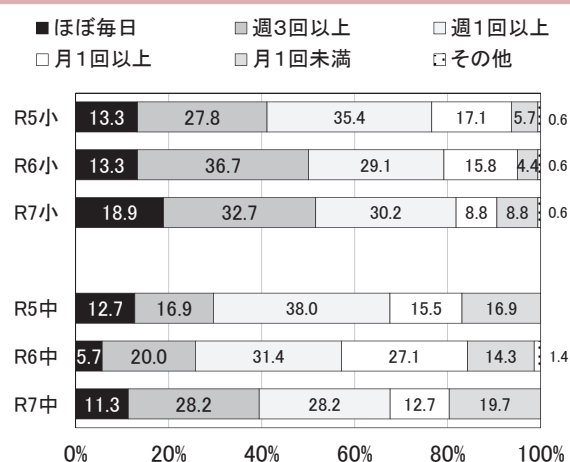
27 6年生の児童（3年生の生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。



28 6年生の児童（3年生の生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。



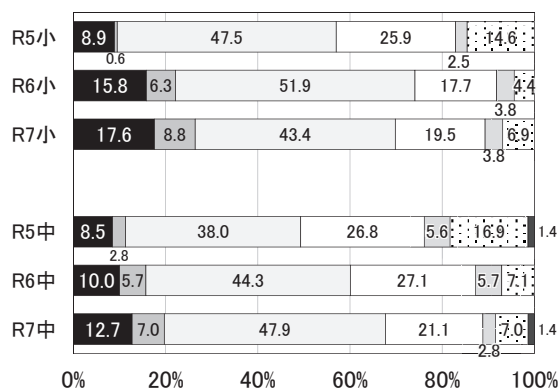
29 6年生の児童（3年生の生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。



30 児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

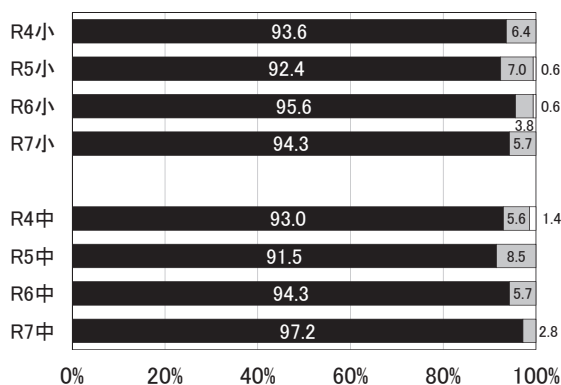
■毎日持ち帰って、毎日利用させている
□時々持ち帰って、時々利用させている
□持ち帰らせてはいけないこととしている
■その他

□毎日持ち帰って、時々利用させている
□持ち帰らせていない
□臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている



32 小・中が連携し、小学6年生の児童に対して、中学校への進学に対する不安をなくすための取組みを行いましたか。（予定を含む）

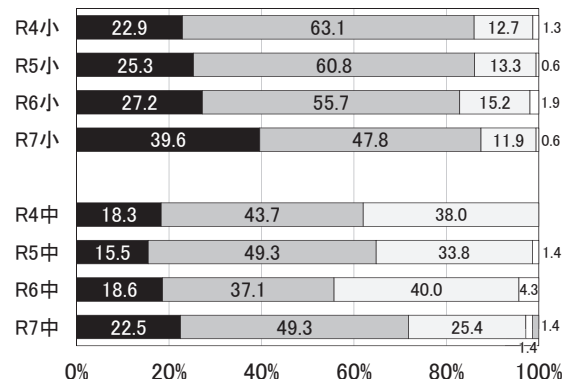
■はい
□いいえ
□その他



31 「ふるさと教材」等を活用した、ふるさとの素晴らしさを実感させる授業を行っていますか。（社会科や道徳科等での、ふるさとや身近な地域・郷土に関する授業も含む）

■よく行っている
□あまり行っていない
■その他

■どちらかといえば行っている
□全く行っていない

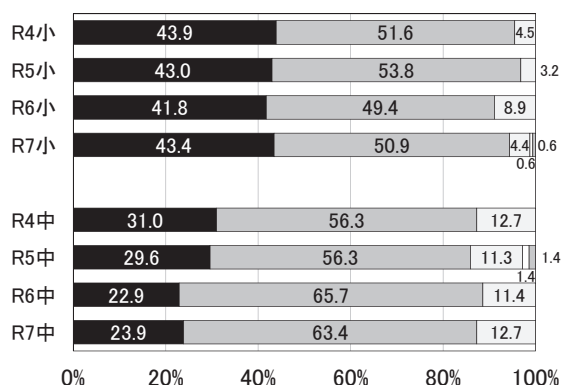


4 家庭学習

33 家庭学習の取組みとして、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。

■よく行っている
□あまり行っていない
■その他

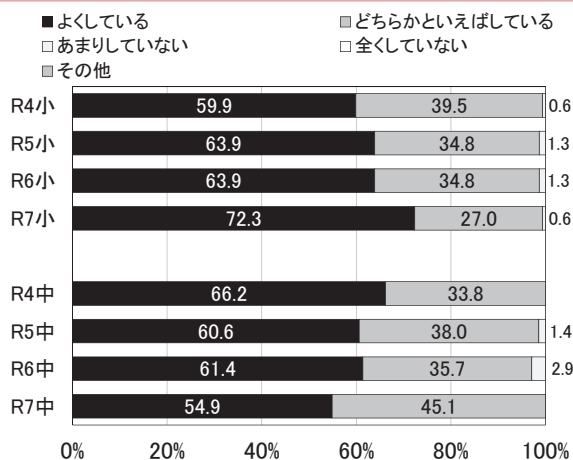
■どちらかといえば行っている
□全く行っていない



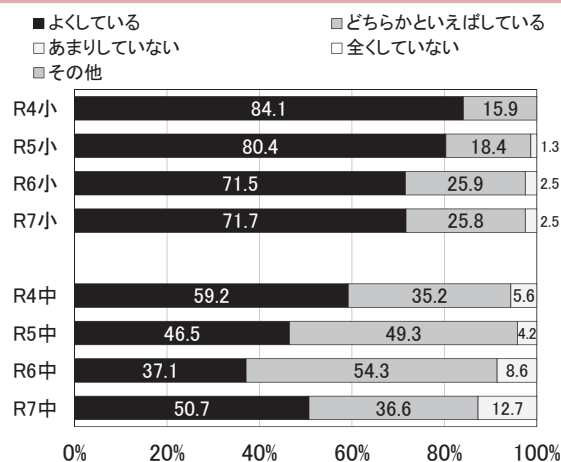
※「0.0」は省略しています。

5 学校経営他

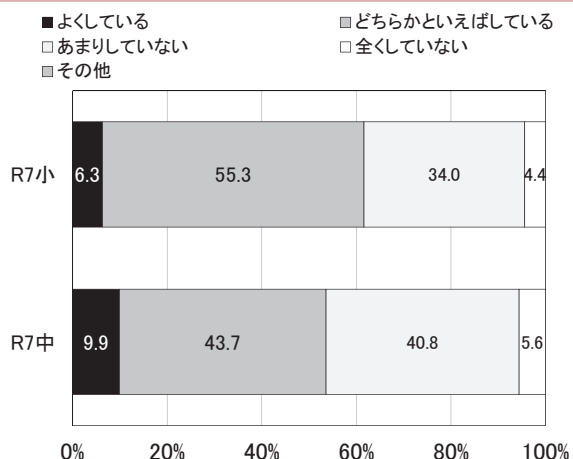
34 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組みに当たっていますか。



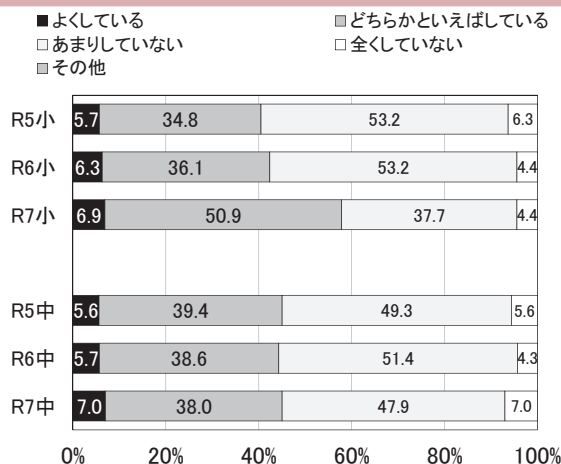
35 模擬授業や研究授業、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。



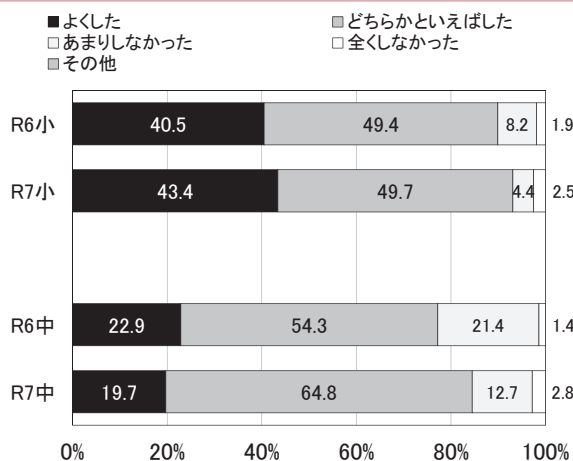
36 現職教育等で「学校教育実践の手引き」を活用していますか。



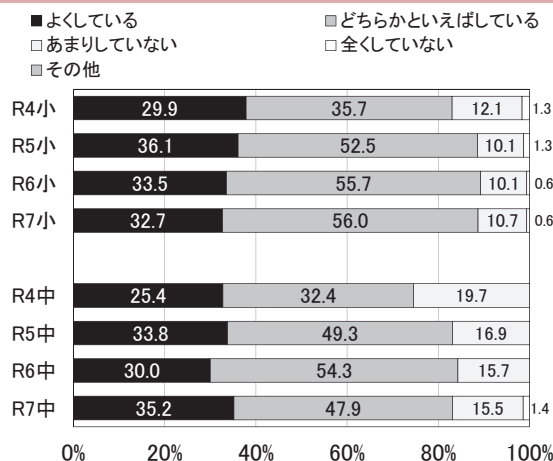
37 現職教育等で「生徒指導提要（改訂版）」を活用していますか。



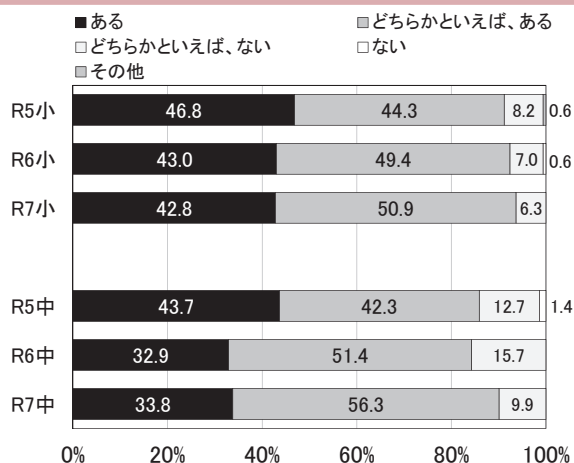
38 前年度、県の学習状況調査の結果を分析し、具体的な授業や評価の改善に取り組んだり次年度の指導計画に反映させたりしましたか。



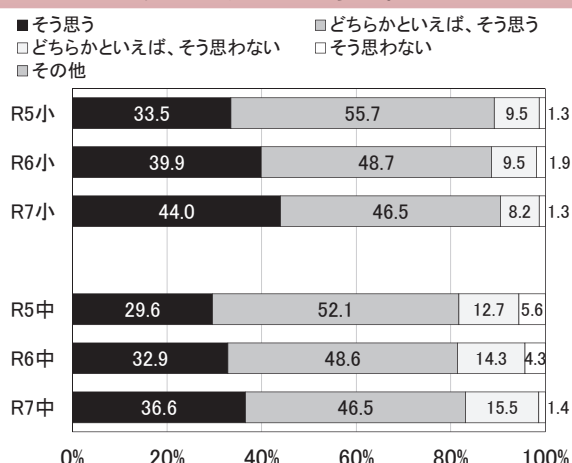
39 ノー会議デーやノー残業デーの設置等、教職員が定時に退勤しやすい職場環境づくりに取り組んでいますか。



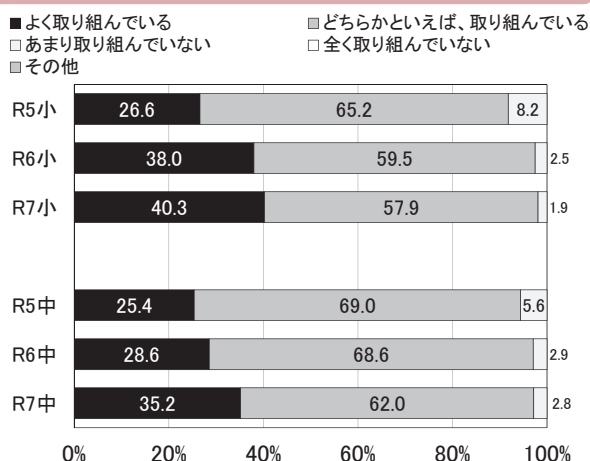
40 教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。



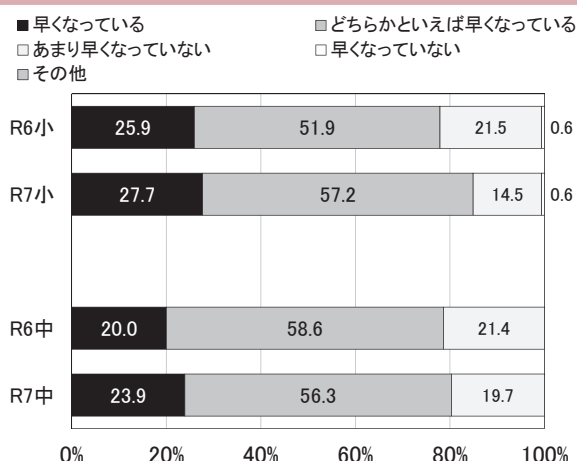
41 コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。



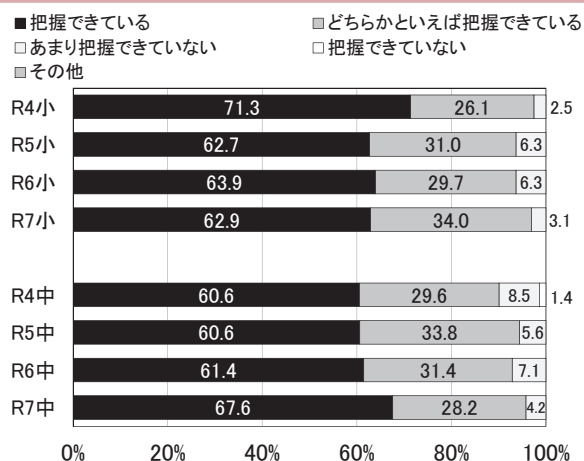
42 ＩＣＴを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか。



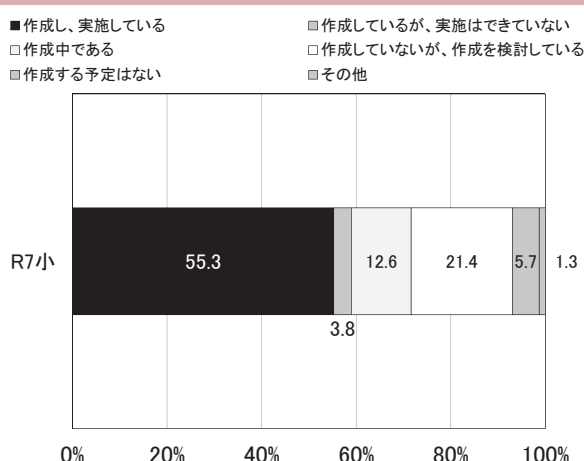
43 校務の改善や効率化等により、教職員の退庁時刻は早くなっていますか。



44 教職員は、毎月の自分の時間外在校等時間を把握していますか。



45 就学前教育と小学校教育の相互理解を図り、校区において幼保小による架け橋期のカリキュラムを作成し実施していますか。



※「0.0」は省略しています。

報告書に込められた思いを振り返る

県教育センターが本報告書の作成を担当し始めたH24 年度と本年度（R7年度）の児童生徒質問紙について、授業に関する質問項目に着目し、その変化を振り返りました。

同じ質問項目	勉強は好きですか	現在はない質問項目	私語なく先生や友だちの話をしっかり聞くなど、集中して授業を受けていますか	本年度新たに付け加わった質問項目	授業では、何ができたらいいか、どうすれば解決できそうかという見通しをもって取り組むことができますか
	授業の内容がどの程度分かりますか		授業では、ノートを丁寧に書いていますか		授業では、解決方法、解決時間などを自分で選んだり決めたりしていますか
	分からないところは先生や友だちに質問して解決していますか		ふだんの授業では、本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っていると思いますか		授業では、文章や資料等から分かることは何かを考えていますか
	ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか		学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのはむずかしいと思いますか		
	ふだんの授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思いますか				

この約 14 年間で、授業に関する質問項目は、当初の 9 問から小学校 20 問、中学校 21 問へと大幅に増加しました。児童生徒の授業への取り組み方を具体化した質問項目が増加し、現在では「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目が多く追加されています。これは、児童生徒の取組状況の把握に加え、教師が目指すべき授業像を示唆するものです。

なお、変わらず問い続けられている質問は、大切にすべき児童生徒の学び姿を映しているといえるでしょう。



Column

本報告書は、これまで、学校現場の検証改善サイクルに役立てていただけるよう、様々な情報を提供してまいりました。

近年は、H29 年度の「Column」導入（実践に生かす視点の提示）や、R4 年度からの「特集」ページ（第 1 回は「深い学びにつながる話合い」）開設など、内容の充実に努めてまいりました。大量のデータを吟味し、報告書を手にとってくださる皆様に役立つ情報をお伝えできるよう作成しています。

また、「教科に関する調査結果及び分析」のページには、授業ですぐ実践できるように「具体的な指導」を記してきました。ぜひ、過去の報告書も授業改善にご活用ください。

さて、R8 年度からの香川県学習状況調査の実施方法変更に伴い、本報告書という形での結果報告は本年度が最後となります。学校現場の先生方にとってより役立ち、検証改善サイクルを回す確かな一助となることを願い、新しい一歩を踏み出します。

各学校におかれましては、本報告書を課題把握と改善に向けた教育実践の資料として、最大限ご活用くださいますようお願い申し上げます。